

UltraLite タイプVB

VK24M/B-U、VK23T/B-U、VK23L/B-U、VK245/B-U、VK24N/B-U、VK23R/B-U、VK23J/B-U、VK248/B-U、
VK24M/B-Y、VK23T/B-Y、VK23L/B-Y、VK245/B-Y、
VJ24M/B-U、VJ23T/B-U、VJ23L/B-U、VJ245/B-U

活用ガイド

Windows® 7 Professional 64ビット with Service Pack 1 (SP1) (Windows 10 Proライセンスからのダウンロード)

Windows® 7 Professional 32ビット with Service Pack 1 (SP1) (Windows 10 Proライセンスからのダウンロード)

■ はじめに.....	5	■ トラブル解決Q&A.....	281
本マニュアルの表記や、商標などの情報を記載しています。 最初にご覧ください。		本機をお使いになっているときのトラブル事例や解決法について記載しています。 本マニュアルに記載していないトラブル事例や解決法については、「サービス&サポート」をご覧ください。 http://121ware.com/support/	
■ 本機の機能.....	15	■ 仕様一覧.....	338
本機の各部の名称やインターフェイスについて記載しています。		Webにて、仕様の詳細情報を公開しています（インターネットへの接続環境が必要です）。	
■ 便利な機能とアプリケーション.....	237		
本機にインストール、または添付されているアプリケーションの概要やインストール、アンインストール方法について記載しています。			

はじめに	5	液晶ディスプレイの回転.....	86
はじめに.....	6	表示できる解像度と表示色.....	88
本マニュアルの表記について.....	7	ディスプレイストレッチ機能.....	89
「ユーザー アカウント制御」について.....	10	外部ディスプレイ	90
デバイス マネージャーの開き方.....	11	使用上の注意.....	91
サポート技術情報について.....	12	外部ディスプレイ接続時の解像度と表示色.....	93
ご注意.....	13	HDMIコネクタ.....	94
本機の機能	15	Mini DisplayPortコネクタ.....	97
各部の名称	16	外部ディスプレイ接続時の表示機能.....	99
各部の名称と説明.....	17	表示先、表示機能の設定.....	100
表示ランプ.....	23	画面の出力先を切り替える.....	103
電源	24	ディスプレイに合わせた設定.....	104
電源の入れ方と切り方.....	25	Webカメラ	106
電源の状態.....	27	Webカメラについて.....	107
スリープ状態／休止状態使用上の注意.....	28	ハードディスク	109
スリープ状態.....	30	使用上の注意.....	110
休止状態.....	33	SSD	111
電源の設定.....	34	使用上の注意.....	112
電源の自動操作.....	37	光学ドライブ	113
省電力機能	38	使用上の注意.....	114
省電力機能について.....	39	外付け光学ドライブの取り付け.....	115
ECOモード機能.....	40	各部の名称と役割.....	116
ピークシフト機能.....	44	使用できるディスク.....	117
Intel SpeedStep® テクノロジー.....	47	読み込みと再生.....	118
バッテリー	48	書き込みとフォーマット.....	120
バッテリー（二次電池）について.....	49	非常時のディスクの取り出し方.....	121
使用上の注意.....	50	SDメモリーカードスロット	122
バッテリーパックの取り付け／取り外し.....	51	使用上の注意.....	123
バッテリーの充電.....	55	セットのしかた／取り出し方.....	125
バッテリーの使い方と設定.....	56	サウンド機能	127
バッテリーのリフレッシュ.....	58	音量の調節.....	128
バッテリー・リフレッシュ＆診断ツール.....	59	マイクの設定.....	130
キーボード	65	LAN機能	131
キーの名称.....	66	本機を安全にネットワークに接続するために.....	132
キーの使い方.....	68	使用上の注意.....	134
キーボードの設定.....	70	LANへの接続.....	135
NXパッド（タッチパッド）	71	LAN機能の設定.....	137
NXパッド（タッチパッド）の使い方.....	72	リモートパワーオン（WoL（Wake on LAN））機能.....	139
NXパッド（タッチパッド）の設定.....	73	ネットワークブート機能（PXE機能）.....	143
マウス	78	無線LAN機能	144
マウスを使用する.....	79	概要.....	145
マウスを接続するための設定方法.....	81	本機を安全にネットワークに接続するために.....	147
マウスを接続する前の設定に戻す.....	82	無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意.....	149
液晶ディスプレイ	83	使用上の注意.....	151
使用上の注意.....	84		
画面表示の調整.....	85		

無線LAN機能のオン／オフ.	153	ハードディスク・アクティブプロテクション	
無線LANの設定と接続.	156	・システム.	252
無線LANに関する用語一覧.	166	Access Connections.	254
無線WAN機能.	169	DeviceLock Lite.	261
概要.	170	Acrobat Reader DC.	263
使用上の注意.	171	ECOモード設定ツール.	265
無線WAN機能を使用する準備.	173	ピークシフト設定ツール.	267
無線WAN機能のオン／オフ.	176	CyberLink Power2Go.	269
接続とセキュリティ.	177	CyberLink PowerDVD.	272
USBコネクタ.	182	CyberLink PowerBackup.	276
使用上の注意.	183	ウイルスバスター クラウド.	278
USB機器の取り付け／取り外し.	185	トラブル解決Q&A.	281
メモリ.	186	電源.	282
取り付け前の確認.	187	「ユーザー名またはパスワードが正しくありませ	
メモリの取り付け／取り外し.	188	ん。」と表示された.	283
メモリ変更時の確認.	194	ネットワークブートができない.	284
Bluetooth機能.	195	USBキーボードから復帰する際に使用したキーが	
概要.	196	復帰後に入力されていることがある.	285
セキュリティに関するご注意.	198	バッテリー.	286
使用上の注意.	199	本機にACアダプタを取り付け、ACコンセントに	
Bluetooth機能の設定と接続.	201	接続してもバッテリーの充電が始まらない.	287
Bluetooth機能のオン／オフ.	206	タスク バーの通知領域に電源アイコンが表示さ	
セキュリティ機能.	208	れない.	288
セキュリティ機能について.	209	満充電したのに、バッテリー充電ランプが	
スーパバイザパスワード／パワーオンパスワード	210	点灯する.	289
ハードディスクパスワード機能.	211	バッテリー充電ランプが点滅する.	290
I/O制限.	212	表示.	291
指紋認証機能.	213	外部ディスプレイで画面が流れるように表示さ	
盗難防止用ロック.	219	れる.	292
DEP (Data Execution Prevention) 機能.	220	外部ディスプレイ接続時にアイコンの位置がお	
暗号化ファイルシステム (EFS)	221	かしい.	293
ウイルス検出・駆除.	222	ファイル保存.	294
セキュリティチップ機能.	223	はじめに確認してください.	295
ハードディスク・アクティブプロテクション		DVD、CDにデータを書き込めない (保存	
・システム.	224	できない)	296
NASCA.	225	LAN機能.	297
DeviceLock Lite.	226	ネットワークブートができない.	298
マネジメント機能.	227	動作が不安定になった.	299
マネジメント機能について.	228	無線LAN機能.	300
リモートパワーオン (WoL (Wake on LAN))		「ネットワーク」上のコンピュータのアイコンをダ	
機能.	229	ブルクリックしても内容が表示されない.	301
ネットワークブート機能 (PXE機能)	233	Windows 7のService Pack 1(KB976932)を	
インテル® vProテクノロジー.	234	アンインストール後、デバイス マネージャーの	
インテル® AMT.	235	「Intel(R) Dual Band Wireless-AC 8260」に	
便利な機能とアプリケーション.	237	「！」が表示される.	302
アプリケーションの種類と機能.	238	サウンド.	303
アプリケーションのインストール/アンインストールに		HDMI接続した機器から音声が出力されない.	304
ついて.	240	印刷.	306
Internet Explorer 11.	242	PDF形式のマニュアルがうまく印刷できない.	307
Office Personal 2016.	244	セキュリティチップ機能.	308
Office Home & Business 2016.	248	セキュリティチップを有効にしたい.	309

セキュリティチップを初期化したい.	310	アプリケーションが本機で利用できるか 知りたい.	329
本機を修理に出した後.	312	使用しているWindowsへの対応が明記されてい ないWindows用アプリケーションを使用したい. . .	330
ハードディスク.	313	Internet Explorerや関連製品に関するサポート技術 情報について知りたい.	331
領域作成できる容量が、カタログなどに記載され ている値より少ない.	314	再セットアップ.	332
SSD.	315	「再セットアップをすることはできません。」と表示 される.	333
領域作成できる容量が、カタログなどに記載され ている値より少ない.	316	「再セットアップ用メディア」を要求する画面が繰 り返し表示され、先に進めない.	334
光学ドライブ.	317	その他.	335
はじめに確認してください.	318	クリップなどの異物が本体内部に入っ てしまった.	336
DVD、CDにデータを書き込めない（保存 できない）.	319	Windows 7のService Pack 1(KB976932)を アンインストール後、デバイス マネージャーの Intel(R) Management Engine Interfaceに 「！」が表示される.	337
ドライブ文字がおかしい.	320	仕様一覧.	338
周辺機器.	321	仕様一覧.	339
はじめに確認してください.	322		
Bluetooth機能.	323		
はじめに確認してください.	324		
アプリケーション.	325		
はじめに確認してください.	326		
アプリケーションをインストールできない. . .	327		
アプリケーションを強制的に終了させたい. . .	328		

[010000-27]

➤ はじめに.....	6
➤ 本マニュアルの表記について.....	7
➤ 「ユーザー アカウント制御」について.....	10
➤ デバイス マネージャーの開き方.....	11
➤ サポート技術情報について.....	12
➤ ご注意.....	13

はじめに

[010001-00]

本マニュアルには、本機の機能についての説明、添付またはインストールされているアプリケーションの情報、サポートに関する情報、トラブル発生時などの対応方法を記載したQ&Aなど、本機を利用する上での情報が記載されています。本マニュアルに記載していないトラブル発生時などの対応方法については、「サービス&サポート」をご覧ください。

<http://121ware.com/support/>

本マニュアルは、Windowsの基本的な操作がひと通りでき、アプリケーションなどのヘルプを使って操作方法を理解、解決できることを前提に本機固有の情報を中心に記載されています。

もし、お客様がコンピュータに初めて触れるのであれば、上記の基本事項を関連説明書などでひと通り経験してから、本マニュアルをご利用になることをおすすめします。

本機の仕様、アプリケーションについては、お客様が選択できるようになっているため、各モデルの仕様にあわせてお読みください。

仕様についての詳細は、「サービス&サポート」の「商品情報検索」よりお使いの機種を検索し、「仕様一覧」をご覧ください。

<http://121ware.com/support/>

本マニュアルの表記について

[010003-27]

本マニュアルで使用しているアイコンや記号、アプリケーション名などの正式名称、表記について、下記をご覧ください。

■ 本マニュアルで使用しているアイコンの意味

アイコン	意味
 チェック	してはいけないことや、注意していただきたいことを説明しています。よく読んで注意を守ってください。場合によっては、作ったデータの消失、使用しているアプリケーションの破壊、パソコンの破損の可能性があります。
 メモ	利用の参考となる補足的な情報をまとめています。
 参照	マニュアルの中で関連する情報が書かれているところを示しています。

■ 本マニュアルで使用しているアプリケーション名などの正式名称

本文中の表記	正式名称
Windows、Windows 7、Windows 7 Professional	次のいずれかを指します。 ● Windows® 7 Professional 64ビット with Service Pack 1 (SP1) (Windows 10 Proライセンスからのダウングレード) ● Windows® 7 Professional 32ビット with Service Pack 1 (SP1) (Windows 10 Proライセンスからのダウングレード)
Windows 7 Professional 64ビット	Windows® 7 Professional 64ビット with Service Pack 1 (SP1) (Windows 10 Proライセンスからのダウングレード)
Windows 7 Professional 32ビット	Windows® 7 Professional 32ビット with Service Pack 1 (SP1) (Windows 10 Proライセンスからのダウングレード)
Windows 7 SP1	Windows® 7 Service Pack 1 (SP1)
Internet Explorer、Internet Explorer 11	Internet Explorer 11
Microsoft IME	次のいずれかを指します。 ● Microsoft® IME ● Microsoft Office IME 2010
Windows Media Player	Microsoft® Windows Media® Player 12
Office Personal 2016	Microsoft Office Personal 2016

Office Home & Business 2016	Microsoft Office Home & Business 2016
Acrobat Reader DC	Adobe® Acrobat® Reader® DC
NASCA	NEC Authentication Agent
CyberLink PowerDVD	CyberLink PowerDVD
CyberLink Power2Go	CyberLink Power2Go 8
CyberLink PowerBackup	CyberLink PowerBackup 2.6
インテル® AMT	インテル® Active Management Technology
YouCam 5 BE	CyberLink YouCam 5 BE

■ 本マニュアルで使用している表記の意味

本文中の表記	意味
本機、本体	本マニュアルの対象機種を指します。 特に周辺機器などを含まない対象機種を指す場合、「本体」と表記します。
光学ドライブ	DVDスーパーマルチドライブ、またはDVD-ROMドライブを指します。書き分ける必要のある場合は、そのドライブの種類を記載します。
光学ドライブモデル	DVDスーパーマルチドライブ、またはDVD-ROMドライブが添付されているモデルを指します。
DVDスーパーマルチドライブモデル	DVDスーパーマルチドライブが添付されているモデルを指します。
DVD-ROMドライブモデル	DVD-ROMドライブが添付されているモデルを指します。
SSDモデル	ハードディスクの代わりに、SSDが搭載されているモデルを指します。
無線LANモデル	無線LANが搭載されているモデルを指します。
無線WANモデル	LTE通信に対応した無線WANが搭載されているモデルを指します。
ワイヤレス機能	無線LAN機能、Bluetooth機能、無線WAN機能を指します。ご購入時に選択したモデルによって異なります。
インテル® vPro テクノロジー対応モデル	次のモデルを指します。 ● 以下の型名の無線LANモデル VK24M/B-U、VK245/B-U、VK24N/B-U、VK248/B-U、VK24M/B-Y、VK245/B-Y、VJ24M/B-U、VJ245/B-U
内蔵指紋センサ（ライン型）モデル	内蔵指紋センサ（ライン型）が搭載されているモデルを指します。
Webカメラ搭載モデル	Webカメラが搭載されているモデルを指します。
内蔵バッテリーモデル	内蔵バッテリーが搭載されているモデルを指します。
内蔵バッテリー無しモデル	内蔵バッテリーが搭載されていないモデルを指します。
Office Personal 2016モデル	Office Personal 2016があらかじめインストールされているモデルを指します。

Office Home & Business 2016モデル	Office Home & Business 2016があらかじめインストールされているモデルを指します。
アプリケーションディスク	本機に添付されているアプリケーションを格納したディスクを指します。
CyberLink PowerDVD ディスク	「CyberLink PowerDVD ディスク」または「CyberLink PowerDVD / CyberLink Power2Go / CyberLink PowerBackup ディスク」を指します。
CyberLink Power2Go ディスク	「CyberLink PowerDVD / CyberLink Power2Go / CyberLink PowerBackup ディスク」を指します。
CyberLink PowerBackup ディスク	「CyberLink PowerDVD / CyberLink Power2Go / CyberLink PowerBackup ディスク」を指します。
SDカード、SDメモリーカード	「SDメモリーカード」、「SDHCメモリーカード」、「SDXCメモリーカード」を指します。特定のSDカードを指す場合、個別に記載します。
BIOSセットアップユーティリティ	本文中に記載されているBIOSセットアップユーティリティは、画面上では「BIOS Setup」と表示されます。
「スタート」ボタン	Windowsのタスク バーにある  を指します。
「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「メモ帳」	「スタート」ボタンをクリックし、表示されたスタートメニューから「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「メモ帳」を順にクリックする操作を指します。
「スタート」ボタン→「コントロールパネル」	「スタート」ボタンをクリックし、表示されたスタートメニューから「コントロールパネル」をクリックする操作を指します。また、コントロールパネルはカテゴリ表示された状態を指します。
【 】	【 】で囲んである文字はキーボードのキーを指します。 【Ctrl】 + 【Y】と表記してある場合、【Ctrl】キーを押したまま【Y】キーを押すことを指します。
『 』	『 』で囲んである文字は、マニュアルの名称を指します。
再セットアップ用メディア	「再セットアップ用ディスク」または「再セットアップ用USBメモリ」を指します。

■ 本マニュアルで使用している画面、記載内容について

- 本マニュアルに記載の図や画面は、モデルによって異なることがあります。
- 本マニュアルに記載の画面は、実際の画面とは多少異なることがあります。

「ユーザー アカウント制御」について

[010005-07]

アプリケーションを起動したり、本機を操作したりしているときに「ユーザー アカウント制御」画面が表示されることがあります。

「ユーザー アカウント制御」は、コンピュータウイルスなどの「悪意のあるソフトウェア」によって、本機のシステムに影響を及ぼす可能性のある操作が行われるのを防ぐため、これらの操作がユーザーが意図して行った操作によるものかを確認するためのものです。

「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、表示された内容をよく確認し、操作を行ってください。



チェック

「ユーザー アカウント制御」画面で管理者（Administrator）権限を持つユーザーのパスワード入力が求められる場合があります。その場合は、画面の内容を確認し入力を行ってください。

デバイス マネージャーの開き方

[010006-07]

デバイス マネージャーを開く場合は、次の手順で行います。

1 「スタート」 ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2 「システムとセキュリティ」をクリック

3 「システム」の「デバイス マネージャー」をクリック

「デバイス マネージャー」が表示されます。

サポート技術情報について

[010007-00]

マイクロソフトで確認された問題の説明や解決方法がサポート技術情報として公開されています。

サポート技術情報を参照するには、「マイクロソフト サポート」にアクセスし該当する文書番号を入力して検索してください。

マイクロソフト サポート

<http://support.microsoft.com/>



チェック

サポート技術情報のタイトルや内容は変更される場合があります。

ご注意

[010004-27]

1. 本マニュアルの内容の一部または全部を無断転載することは禁じられています。
2. 本マニュアルの内容に関しては将来予告なしに変更することがあります。
3. 本マニュアルの内容については万全を期して作成いたしましたが、万一ご不審な点や誤り、記載もれなどお気づきのことがありましたら、ご購入元、または121コンタクトセンターへご連絡ください。
4. 当社では、本装置の運用を理由とする損失、逸失利益等の請求につきましては、3項にかかわらずいかなる責任も負いかねますので、あらかじめご了承ください。
5. 本装置は、医療機器、原子力設備や機器、航空宇宙機器、輸送設備や機器など、人命に関わる設備や機器、および高度な信頼性を必要とする設備や機器などへの組み込みや制御等の使用は意図されておりません。これら設備や機器、制御システムなどに本装置を使用され、人身事故、財産損害などが生じても、当社はいかなる責任も負いかねます。
6. 海外における保守・修理対応は、海外保証サービス [UltraCareサービス] 対象機種に限り、当社の定めるサービス対象地域から日本への引取修理サービスを行います。
サービスの詳細や対応機種については、以下のホームページをご覧ください。

<http://121ware.com/ultracare/jpn/>

7. 本機の内蔵ハードディスク（またはSSD）にインストールされているWindowsは本機でのみご使用ください。また、本機に添付のDVD-ROM、CD-ROMは、本機のみでしかご使用になれません（詳細は「ソフトウェアのご使用条件」および「ソフトウェア使用条件適用一覧」をお読みください）。
8. ソフトウェアの全部または一部を著作権者の許可なく複製したり、複製物を頒布したりすると、著作権の侵害となります。
9. ハードウェアの保守情報をセーブしています。
10. 本製品には、Designed for Windows® programのテストにパスしないソフトウェアを含みます。
11. 本マニュアルに記載されている内容は制作時点のものです。お問い合わせ先の窓口、住所、電話番号、ホームページの内容やアドレスなどが変更されている場合があります。あらかじめご了承ください。

■ 輸出に関する注意事項

本製品（ソフトウェアを含む）は日本国内仕様であり、外国の規格等には準拠していません。

本製品を日本国外で使用された場合、当社は一切責任を負いかねます。

また、当社は本製品に関し海外での保守サービスおよび技術サポート等はありません。（ただし、海外保証サービス [UltraCareサービス] 対象機種については、日本への引取修理サービスを実施致します。）

本製品の輸出（個人による携行を含む）については、外国為替及び外国貿易法に基づいて経済産業省の許可が必要となる場合があります。

必要な許可を取得せずに輸出すると同法により罰せられます。

輸出に際しての許可の要否については、ご購入頂いた販売店または当社営業拠点にお問い合わせください。

■ Notes on export

This product (including software) is designed under Japanese domestic specifications and does not conform to overseas standards.

NEC*¹ will not be held responsible for any consequences resulting from use of this product outside Japan.

NEC*¹ does not provide maintenance service or technical support for this product outside Japan. (Only some products which are eligible for Ultracare Services can be provided with acceptance service of repair inside Japan.)

Export of this product (including carrying it as personal baggage) may require a permit from the Ministry of Economy, Trade and Industry under an export control law. Export without necessary permit is punishable under the said law.

Customer shall inquire of NEC sales office whether a permit is required for export or not.

*1: NEC Personal Computers, Ltd.

* * *

Microsoft、Windows、Aero、Internet Explorer、Windows MediaおよびWindowsのロゴは、米国 Microsoft Corporationの米国およびその他の国における登録商標または商標です。

Windowsの正式名称は、Microsoft Windows Operating Systemです。

インテル、Intel、Intel SpeedStep、インテル Core、およびインテル vProはアメリカ合衆国およびその他の国におけるインテルコーポレーションまたはその子会社の商標または登録商標です。

TREND MICRO、ウイルスバスターおよびウイルスバスター クラウドは、トレンドマイクロ株式会社の登録商標です。

Adobe、およびReaderは合衆国およびその他の国におけるAdobe Systems Incorporatedの商標または登録商標です。

Bluetoothワードマークとロゴは、Bluetooth SIG, Inc.の所有であり、NECパーソナルコンピュータはライセンスに基づきこのマークを使用しています。

HDMI、High-Definition Multimedia Interfaceは、HDMI Licensing LLCの商標または登録商標です。

Wi-Fi、Wi-Fi Alliance、Wi-Fiロゴ、Wi-Fi CERTIFIEDロゴ、Wi-Fi CERTIFIED、WPAおよびWPA2は、Wi-Fi Allianceの商標または登録商標です。

UltraLiteはNECパーソナルコンピュータ株式会社の登録商標です。

DeviceLockおよびDeviceLockロゴは、DeviceLock, Inc.の登録商標です。

DisplayPortはVideo Electronics Standards Associationの登録商標です。

WebSAMは日本電気株式会社の登録商標です。

Access Connectionsは、米国とその他の国々のいずれかまたはその両方におけるLenovoの商標です。

その他、本マニュアルに記載されている会社名、商品名は各社の商標または登録商標です。

© NEC Personal Computers, Ltd. 2017

NECパーソナルコンピュータ株式会社の許可なく複製・改変などを行うことはできません。

[020000-27]

各部の名称	16
電源	24
省電力機能	38
バッテリー	48
キーボード	65
NXパッド（タッチパッド）	71
マウス	78
液晶ディスプレイ	83
外部ディスプレイ	90
Webカメラ	106
ハードディスク	109
SSD	111
光学ドライブ	113
SDメモリーカードスロット	122
サウンド機能	127
LAN機能	131
無線LAN機能	144
無線WAN機能	169
USBコネクタ	182
メモリ	186
Bluetooth機能	195
セキュリティ機能	208
マネジメント機能	227

各部の名称

[020100-27]

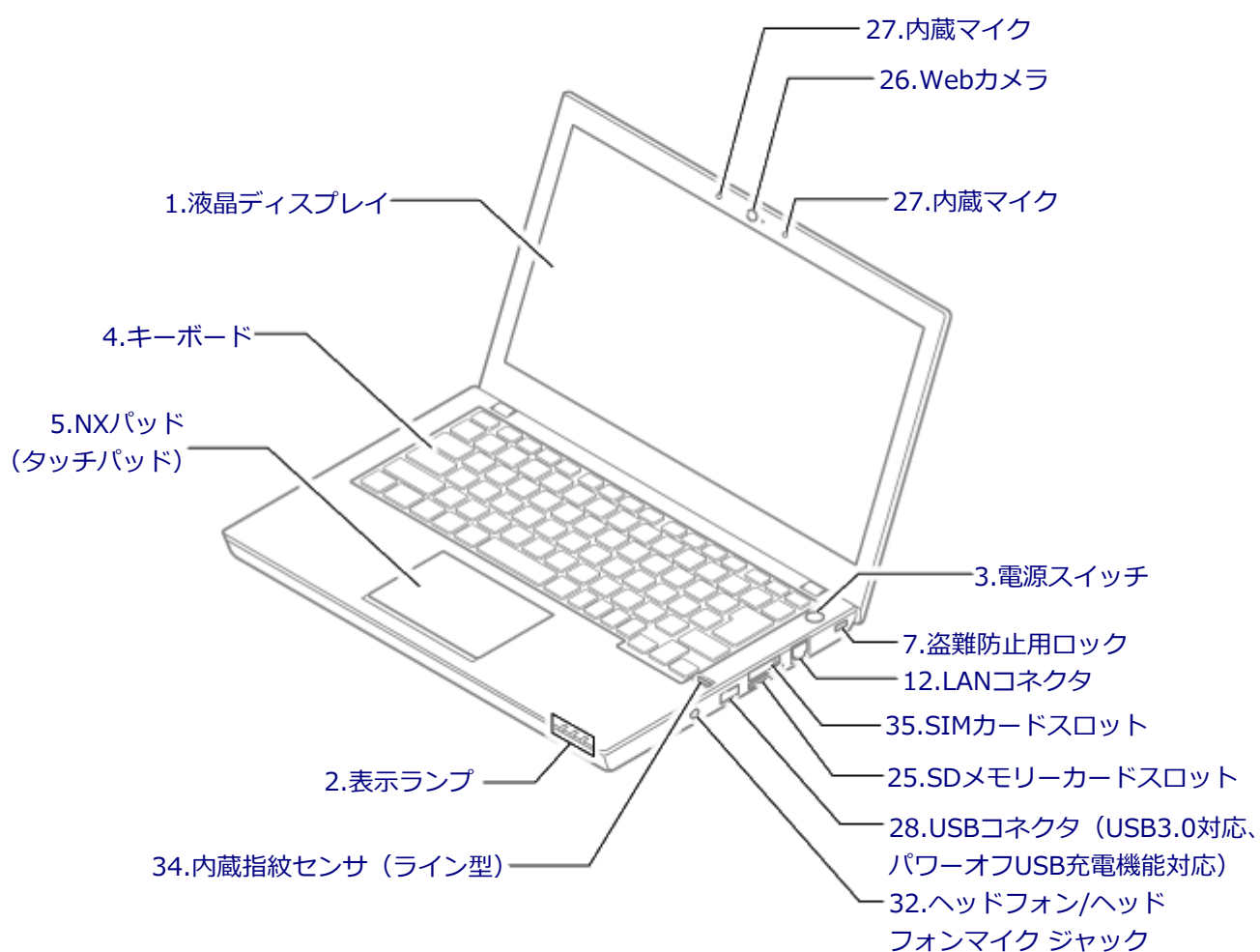
➤ 各部の名称と説明.....	17
➤ 表示ランプ.....	23

各部の名称と説明

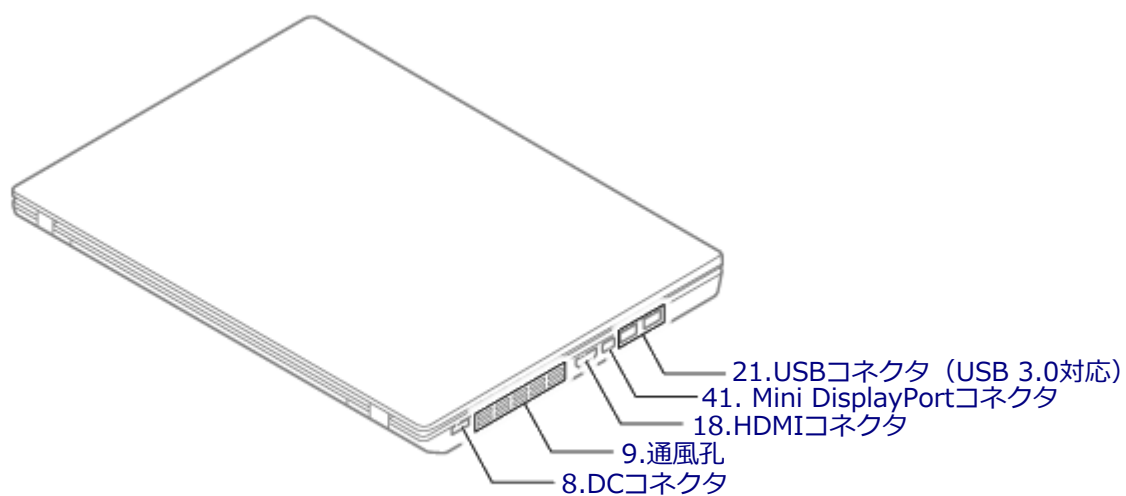
[020101-27]

各部の名称

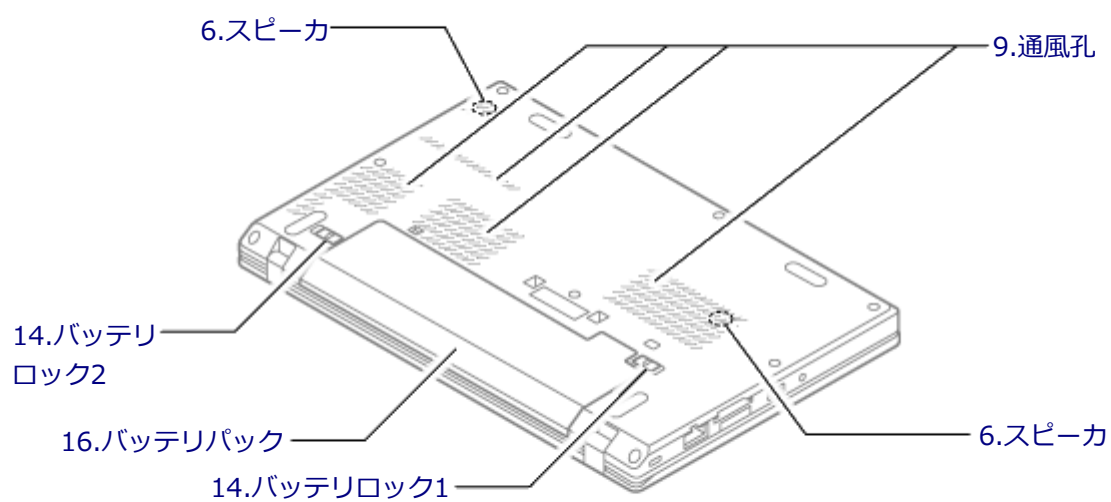
本体前面／右側面



本体背面／左側面



本体底面



各部の説明

1.液晶ディスプレイ

本機のディスプレイです。
→「液晶ディスプレイ (P. 83)」

2.表示ランプ

本機の動作状態を表します。
→「表示ランプ (P. 23)」

3.電源スイッチ (⏻)

電源のオン／オフや電源状態の変更などで使用するスイッチです。
→「電源 (P. 24)」

4.キーボード

文字の入力や画面の操作をします。
→「キーボード (P. 65)」

5.NXパッド (タッチパッド)

Windowsでマウスカーソルの移動やクリックなどの操作をする際に使用します。
→「NXパッド (タッチパッド) (P. 71)」

6.スピーカ

内蔵のステレオスピーカです。
→「サウンド機能 (P. 127)」

7.盗難防止用ロック (🔒)

別売のセキュリティケーブルを取り付けることができます。
→「セキュリティ機能 (P. 208)」

8.DCコネクタ (==)

添付のACアダプタを接続するための端子です。

9.通風孔

本体内部の熱を逃がすための孔です。



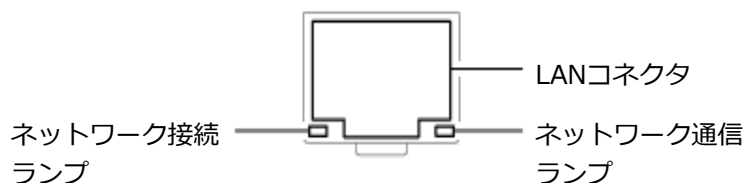
チェック

布や手などでふさがないようにしてください。

12.LANコネクタ (品)

LAN（ローカルエリアネットワーク）に接続するための端子です。

→「LAN機能 (P. 131)」



● ネットワーク接続ランプ

ネットワークに繋がっているときに緑色に点灯します。

● ネットワーク通信ランプ

ネットワーク上で読み込みや書き込みが発生するとオレンジ色に点滅します。

ただし、必ずしもこのパソコンの読み込みや書き込みとは限りません。

14.バッテリーロック1/2 (🔒/🔓)

バッテリーパックが外れないように固定しているロックです。バッテリーパックを取り外すときはここを操作します。

→「バッテリー (P. 48)」

16.バッテリーパック

AC電源が無い場所で本機を使用するための充電式電池です。

→「バッテリー (P. 48)」

18.HDMIコネクタ

HDMI対応の大画面テレビや、HDMI端子を持つ外部ディスプレイなどを接続するためのコネクタです。

→「外部ディスプレイ (P. 90)」

21.USBコネクタ (USB 3.0対応) (SS)

USB機器を接続するコネクタです。このUSBコネクタは、USB 3.0、USB 2.0およびUSB 1.1の機器に対応しています。USB 2.0の転送速度を出すためには、USB 2.0対応の機器を接続する必要があります。USB 3.0の転送速度を出すためには、USB 3.0対応の機器を接続する必要があります。

→「USBコネクタ (P. 182)」

25.SDメモリーカードスロット

SDメモリーカードを読み書きするためのスロットです。

→「SDメモリーカードスロット (P. 122)」

26.Webカメラ (Webカメラ搭載モデルのみ)

テレビ電話をするときなどに使用します。Webカメラ使用時は、Webカメラ横のランプが点灯します。

→「Webカメラ (P. 106)」

27.内蔵マイク

テレビ電話をするときなどに使用するマイクです。



チェック

このマイクを使用して録音している場合、録音している音を同時にスピーカなどで再生することはできません。

28.USBコネクタ（USB 3.0対応、パワーオフUSB充電機能対応）

USB機器を接続するコネクタです。このUSBコネクタは、USB 3.0、USB 2.0およびUSB 1.1の機器に対応しています。USB 2.0の転送速度を出すためには、USB 2.0対応の機器を接続する必要があります。USB 3.0の転送速度を出すためには、USB 3.0対応の機器を接続する必要があります。

→「[USBコネクタ \(P. 182\)](#)」

またこのUSBコネクタは、パワーオフUSB充電機能に対応しています。USBケーブルを使って充電できる機器を充電するとき、このUSBコネクタでは電源が切れた状態でも充電できます。

この機能を使用するには、BIOSセットアップユーティリティの「Config」メニューで設定が必要です。



参照

「Config」メニューの設定について

『システム設定』の「システム設定」 - 「設定項目一覧」 - 「Config」メニュー」

32.ヘッドフォン/ヘッドフォンマイク ジャック

ヘッドフォンやヘッドフォンマイク（4極ミニプラグ）、または外付けスピーカやオーディオ機器を接続し、音声信号を出力、入力するための端子です。

→「[サウンド機能 \(P. 127\)](#)」



チェック

入力機能としてはヘッドフォンマイク（4極ミニプラグ）のみ使用できます。市販のステレオマイクやモノラルマイクは使用できません。

34.内蔵指紋センサ（ライン型）（内蔵指紋センサ（ライン型）モデルのみ）

指紋認証機能で使用する内蔵指紋センサ（ライン型）です。

→「[指紋認証機能 \(P. 213\)](#)」

35.SIMカードスロット（無線WANモデルのみ）

microSIMカードを取り付けるためのスロットです。

→「[無線WAN機能 \(P. 169\)](#)」



チェック

無線WANモデル以外でもSIMカードスロットはありますが、使用できません。

41. Mini DisplayPortコネクタ (⌚)

DisplayPortコネクタを持つ外部ディスプレイを接続するためのコネクタです。

→「外部ディスプレイ (P. 90)」

表示ランプ

[020102-27]

④ 電源ランプ



チェック

起動時に、電源ランプおよびバッテリー充電ランプがオレンジ色に約1秒点灯します。
ただし、バッテリー充電中の場合、バッテリー充電ランプは常時オレンジ色に点灯しています。

ランプの状態		本機の状態
緑	点灯	電源が入っている
	点滅	スリープ状態、または休止状態に移行中
オレンジ	点灯	バッテリー容量が少ない
	点滅※1	スリープ状態でバッテリー容量が少ない
	速い点滅※2	バッテリー容量が残りわずか
消灯		電源が切れている、または休止状態

※1 約3秒に1回点滅

※2 約2秒に1回点滅

🔋 バッテリー充電ランプ

ランプの状態		本機の状態
オレンジ	点灯	バッテリー充電中 電源を入れたとき1秒間点灯
	点滅	バッテリーのエラー※1
消灯		ACアダプタが接続されていない、またはバッテリー充電完了※2

※1 バッテリー充電時のエラー、バッテリーの寿命、または劣化時にエラーとなります。

※2 すでにバッテリーが満充電されている場合や、満充電に近い状態の場合は、ランプが点灯せず、それ以上充電できない場合があります。

📀 ディスクアクセスランプ

ランプの状態		本機の状態
緑点灯		ハードディスク（またはSSD）や光学ドライブにアクセス中
消灯		ハードディスク（またはSSD）や光学ドライブにアクセスしていない

本機の電源の入れ方と切り方、スリープ状態や休止状態などについて説明しています。

➤ 電源の入れ方と切り方.....	25
➤ 電源の状態.....	27
➤ スリープ状態／休止状態使用上の注意.....	28
➤ スリープ状態.....	30
➤ 休止状態.....	33
➤ 電源の設定.....	34
➤ 電源の自動操作.....	37

電源の入れ方と切り方

[020301-27]

電源を入れる

電源を入れる際は、次の手順に従って正しく電源を入れてください。



チェック

- 光学ドライブなどにディスクがセットされた状態で電源を入れると、Windowsが起動しない場合があります。その場合は、セットされているディスクを取り出してから、電源を入れなおしてください。
- いったん電源を切った後で、電源を入れなおす場合は、電源を切ってから5秒以上間隔をあけて電源を入れてください。
- メモリを変更した場合、メモリの組み合わせによっては、初期化のために電源を入れてから画面が表示されるまでに時間がかかる場合があります。
- ユーザー選択画面が表示された場合は、ログオンするユーザーを選択してください。
- パスワード入力画面が表示された場合は、選択したユーザーのパスワードを入力してください。

1 周辺機器の電源を入れる

2 本機の電源スイッチを押す

電源を切る

電源を切る際は、次の手順に従って正しく電源を切ってください。



チェック

- Windowsやアプリケーションの表示中や、アクセスランプなどが点灯している場合は、本機の電源を切らないでください。
- 通信を行っている場合は、通信が終了していることを確認してから電源を切ってください。通信中に電源を切ると、通信中のデータが失われる場合があります。

1 作業中のデータを保存してアプリケーションを終了する

2 「スタート」ボタンをクリック

3 「シャットダウン」ボタンをクリック

シャットダウン処理終了後、電源が自動で切れます。



チェック

シャットダウン処理中は、電源スイッチを押さないでください。また、シャットダウン処理中に液晶ディスプレイを閉じると設定によってはスリープ状態または休止状態に移行してしまう場合があります。

4

電源ランプが消灯し、本機の電源が切れたことを確認したら、周辺機器の電源を切る

電源の状態

[020302-27]

本機の電源の状態には次のように「電源が入っている状態」「スリープ状態」「休止状態」「電源が切れている状態」の4つの状態があります。

- **電源が入っている状態**

通常、本機を使用している状態です。

- **スリープ状態**

作業中のメモリの状態を保持したまま、ハードディスク（またはSSD）やディスプレイを省電力状態にして消費電力を抑えている状態です。メモリには電力が供給され、メモリの状態を保持しているので、すぐに作業を再開できます。

- **ハイブリッドスリープ**

スリープ状態に移行する際に、ハードディスク（またはSSD）にもメモリの情報をすべて保存するスリープ状態です。ハードディスク（またはSSD）にもメモリの情報が保存されているため、スリープ状態中に電源が切れた場合でもハードディスク（またはSSD）から復帰することができます。

- **休止状態**

メモリの情報をすべてハードディスク（またはSSD）に保存してから、本機の電源を切った状態です。もう一度電源を入れると、休止状態にしたときと同じ状態に復元します。

- **電源が切れている状態**

本機の電源を完全に切った状態です。

電源の状態は、本機の電源ランプで確認することができます。



参照

電源ランプについて

「各部の名称」の「[表示ランプ \(P. 23\)](#)」

スリープ状態／休止状態使用上の注意

[020303-27]

スリープ状態または休止状態を使用する場合の注意

- 本機が正常に動かなくなったり、正しく復帰できなくなることがありますので、次のような場合は、スリープ状態または休止状態にしないでください。
 - プリンタへ出力中
 - 通信を行うアプリケーションを実行中
 - LANまたは無線LANを使用して、ファイルコピーなどの通信動作中
 - 音声または動画の再生中
 - ハードディスク（またはSSD）、DVD、CD、SDメモリーカードなどにアクセス中
 - 「システムのプロパティ」画面を表示中
 - Windowsの起動／終了処理中
 - スリープ状態または休止状態に対応していないUSB機器などの周辺機器やアプリケーションを使用中
- ハイブリッドスリープを使用しない設定にしている場合、スリープ状態のときに次のことが起こると、作業中のデータが失われますので、ご注意ください。
 - バッテリーのみで使用している状態で、バッテリーが切れた
 - バッテリー駆動に十分なバッテリー残量が無いときに、停電やACアダプタが抜けるなどの理由で、バッテリーのみで使用している状態になった
 - 電源スイッチを4秒以上押し続けて、強制的に電源を切った
- スリープ状態または休止状態への移行、復帰などの電源状態の変更は、5秒以上の間隔をあけてから行ってください。
- スリープ状態または休止状態では、ネットワーク機能がいったん停止しますので、ファイルコピーなどの通信動作が終了してからスリープ状態または休止状態にしてください。また、使用するアプリケーションによっては、スリープ状態または休止状態から復帰した際にデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合には、あらかじめ、お使いのアプリケーションについてシステム管理者に確認のうえ、スリープ状態または休止状態を使用してください。
- 通信を行うアプリケーションを使用中の場合は、通信を行うアプリケーションを終了させてから、休止状態にしてください。通信状態のまま休止状態にすると、強制的に通信が切断されることがあります。
- バッテリーのみで使用する場合は、あらかじめバッテリーの残量を確認しておいてください。また、バッテリー残量が少なくなってきた場合の本機の動作について設定しておくこともできます。



参照

バッテリーについて

「バッテリー」の「[バッテリーの使い方と設定 \(P. 56\)](#)」

- スリープ状態または休止状態への移行中は、各種ディスク、SDメモリーカードなどの各種メモリーカードの入れ替えなどを行わないでください。データが正しく保存されないことがあります。
- スリープ状態または休止状態中に、周辺機器の取り付けや取り外しなどの機器構成の変更を行うと、正常に復帰できなくなることがあります。
- スリープ状態に移行する前にUSB機器（マウスまたはキーボード以外）を外してください。USB機器を接続した状態ではスリープ状態に移行または復帰できない場合があります。

- スリープ状態時または休止状態時、スリープ状態または休止状態への移行中、スリープ状態または休止状態からの復帰中は、USB機器を抜き差ししないでください。
- 「電源オプション」で各設定を変更する場合は、管理者（Administrator）権限を持つユーザーで行ってください。
- 光学ドライブにディスクをセットしたまま休止状態から復帰すると、正しく復帰できずにディスクから起動してしまうことがあります。休止状態にする場合は、ディスクを取り出してください。
- 光学ドライブにPhoto CDをセットしたままスリープ状態または休止状態にすると、復帰に時間がかかることがあります。
- スリープ状態または休止状態から復帰したときに、プライマリディスプレイとセカンダリディスプレイが逆になったり、外部ディスプレイの設定情報を読み込めない場合があります。外部ディスプレイを再設定してください。
- スリープ状態または休止状態からの復帰を行った場合、本体は復帰しているのに、ディスプレイには何も表示されない状態になることがあります。この場合は、NXパッド（タッチパッド）を操作するかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが正しく表示されます。
- 次のような場合には、復帰が正しく実行されなかったことを表しています。
 - アプリケーションが動作しない
 - スリープ状態または休止状態にする前の内容を復元できない
 - NXパッド（タッチパッド）、キーボード、電源スイッチを操作しても復帰しない

このような状態になるアプリケーションを使用しているときは、スリープ状態または休止状態にしないでください。電源スイッチを押しても復帰できなかったときは、電源スイッチを4秒以上押し続けてください。電源ランプが消え、電源が強制的に切れます。

この場合、BIOSセットアップユーティリティの内容が、工場出荷時の状態に戻っていることがあります。必要な場合は再度設定してください。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて

『システム設定』の「システム設定」 - 「BIOSセットアップユーティリティについて」

スリープ状態

[020304-27]

作業中のメモリの内容を保持したまま、ハードディスク（またはSSD）やディスプレイを省電力状態にして消費電力を抑えている状態です。メモリには電力が供給され、内容が保持されているので、すぐに作業を再開できます。



チェック

- スリープ状態への移行およびスリープ状態からの復帰は、状態の変更が完了してから5秒以上の間隔をあけて行ってください。
- 本機を長時間使用しない場合は電源を切るか、本機にACアダプタを取り付け、ACコンセントに接続したうえでスリープ状態にしてください。バッテリーのみで長時間スリープ状態にしておくと、バッテリー残量がなくなることがあります。
- ハイブリッドスリープを使用しない設定にしている場合、スリープ状態でバッテリーの残量がなくなると、作成中のデータが失われたり、データが壊れたりすることがあります。

スリープ状態にする

工場出荷時の設定で、電源が入っている状態から手動でスリープ状態にするには、次の方法があります。

「スタート」ボタンからスリープ状態にする

1

「スタート」ボタンをクリック

2

「シャットダウン」ボタンの横のをクリックし、表示されたメニューから「スリープ」をクリック

Windowsが終了し、スリープ状態になります。Windowsの終了処理中は電源スイッチを押さないでください。本機がスリープ状態になると、電源ランプが点滅します。

液晶ディスプレイを閉じる

電源スイッチを押す



チェック

電源スイッチでスリープ状態にする場合は、電源スイッチを4秒以上押さないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると強制的に電源が切れて、保存していないデータは失われてしまいます。

スリープ状態から復帰する

スリープ状態から手動で電源が入っている状態に復帰するためには、次の方法があります。



チェック

- ユーザー選択画面が表示された場合は、ログオンするユーザーを選択してください。
- パスワード入力画面が表示された場合は、選択したユーザーのパスワードを入力してください。
- スリープ状態で長時間経過した場合やバッテリー残量が少なくなった場合、自動的に本機が休止状態になっている場合があります。その場合は、電源スイッチで復帰させてください。
- USBキーボードから復帰する際、復帰のために押したキーが複数回入力され、正しくパスワードが入力されずログオンできない場合があります。詳しくは、「トラブル解決Q&A」の「電源」-「USBキーボードから復帰する際に使用したキーが復帰後に入力されていることがある (P. 285)」をご覧ください。

電源スイッチを押す



チェック

電源スイッチを押して復帰する場合は、電源スイッチを4秒以上押し続けしないでください。電源スイッチを4秒以上押し続けると、強制的に電源が切れ、保存していないデータが失われます。

液晶ディスプレイを開く

液晶ディスプレイを閉じてスリープ状態にした場合は、液晶ディスプレイを開くことでスリープ状態から復帰できます。

USBマウスを操作する

USBマウス接続時、USBマウスを操作することでスリープ状態から復帰できます。



チェック

USBマウス操作でスリープ状態から復帰できない場合は、他の方法でスリープ状態から復帰を行ってください。

【Fn】キーを押す

ハイブリッドスリープ

スリープ状態に移行する際に、ハードディスク（またはSSD）にもメモリの情報をすべて保存するスリープ状態です。ハードディスク（またはSSD）にもメモリの情報が保存されているため、スリープ状態中に電源が切れた場合でもハードディスク（またはSSD）から復帰することができます。



チェック

- 工場出荷時は、ハイブリッドスリープを使用しない設定になっています。使用するには「[電源プランの設定の変更 \(P. 34\)](#)」の手順で「[詳細な電源設定の変更](#)」をクリックし、「ハイブリッド スリープを許可する」をオンにしてください。
- ハイブリッドスリープを使用する設定にした場合、「休止状態」の「休止状態にする」の手順で休止状態にできなくなります。ハイブリッドスリープを使用する設定のときに、直接、休止状態にしたい場合は、「電源の設定」の「[電源の状態を変更する操作の設定 \(P. 36\)](#)」の手順で休止状態にする操作を設定し、その操作により休止状態にしてください。



参照

電源プランの設定の変更について
「電源の設定 (P. 34)」

休止状態

[020305-27]

メモリの情報をすべてハードディスク（またはSSD）に保存し、本機の電源を切った状態です。もう一度電源を入れると、休止状態にしたときと同じ状態に復元しますので、本機での作業を長時間中断する場合、消費電力を抑えるのに有効です。



チェック

休止状態への移行および休止状態からの復帰は、状態の変更が完了してから5秒以上の間隔をあけて行ってください。

休止状態にする

電源が入っている状態から手で休止状態にするには、次の手順で行います。

1

「スタート」ボタンをクリック

2

「シャットダウン」ボタンの横のをクリックし、表示されたメニューから「休止状態」をクリック

休止状態への移行処理後、電源が自動で切れます。電源スイッチを押さないでください。本機が休止状態になると、電源ランプが消灯します。



チェック

ハイブリッドスリープを使用する設定にした場合、この方法で休止状態にすることはできません。直接、休止状態にしたい場合は、「電源の設定」の「[電源の状態を変更する操作の設定 \(P. 36\)](#)」の手順で休止状態にする操作を設定し、その操作により休止状態にしてください。



参照

電源プランの設定の変更について
[「電源の設定 \(P. 34\)」](#)

休止状態から復帰する

休止状態から手で電源が入っている状態に復帰するには、電源スイッチを押してください。液晶ディスプレイを閉じている場合は、液晶ディスプレイを開くと復帰します。



チェック

- ユーザー選択画面が表示された場合は、ログオンするユーザーを選択してください。
- パスワード入力画面が表示された場合は、選択したユーザーのパスワードを入力してください。

電源の設定

[020306-27]

電源の設定は、Windowsの「電源オプション」で行います。

「電源オプション」では、あらかじめ設定されている電源プランから使用するプランを選択するほか、新規のプランを作成することができます。

また、プランごとに電源の状態を変更する操作の設定や、電源の状態が変更されるまでの時間を設定することができます。

電源プランの選択

設定されている電源プランから選択する場合は、次の手順で行います。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック
- 2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「電源オプション」をクリック
- 3 表示されているプランから使用したいプランを選択する

表示されているプラン以外から選択したい場合は、「追加のプランを表示します」をクリックし、表示されたプランから選択してください。

- 4  ボタンをクリック

以上で電源プランの選択は完了です。

電源プランの設定の変更

すでに登録されている電源プランの設定を変更する場合は、次の手順で行います。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック
- 2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「電源オプション」をクリック
- 3 設定を変更したいプランの「プラン設定の変更」をクリック

- 4 表示された画面で設定を行う

電源の種類ごとに設定できます。

項目	説明
ディスプレイを暗くする	指定した時間、何も入力がない場合、ディスプレイの輝度を下げます。

ディスプレイの電源を切る	指定した時間、何も入力がない場合、ディスプレイの電源を切ります。
コンピューターをスリープ状態にする	指定した時間、何も入力がない場合、本機がスリープ状態になります。
プランの明るさを調整	ディスプレイの輝度を設定します。



チェック

設定時間を変更したときに、「コンピューターをスリープ状態にする」時間が「ディスプレイの電源を切る」時間よりも短くならないように、設定時間が自動的に変更される場合があります。個別に設定する場合は「詳細な電源設定の変更」をクリックして設定してください。



メモ

- 「詳細な電源設定の変更」をクリックすると、電源プランごとに詳細な設定が行えます。
- 「このプランの既定の設定を復元」を選択すると、設定値が既定の値に戻ります。

5 「変更の保存」 ボタンをクリック

以上で電源プランの設定の変更は完了です。

電源プランの作成

新規の電源プランを作成する場合は、次の手順で行います。

1 「スタート」 ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「電源オプション」をクリック

3 左のメニューから「電源プランの作成」をクリック

4 表示される電源プランから作成したいプランに近いプランを選択する

5 「プラン名」欄に作成する電源プラン名を入力し、「次へ」 ボタンをクリック

6 表示される画面で設定を行う

7 「作成」 ボタンをクリック

以上で電源プランの作成は完了です。

作成した電源プランは、「[電源プランの選択 \(P. 34\)](#)」の手順で選択できます。

電源の状態を変更する操作の設定

電源スイッチを押す、液晶ディスプレイを閉じるなどの操作により移行する電源の状態を変更する場合は、次の手順で行います。



チェック

この手順で設定を行った場合、現在登録されているすべての電源プランの設定が変更されます。電源プランごとに設定を行いたい場合は、それぞれの電源プランの設定画面の「詳細な電源設定の変更」から行ってください。

1

「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2

「システムとセキュリティ」をクリックし、「電源オプション」の「電源ボタンの動作の変更」をクリック

3

「電源とスリープ ボタンおよびカバーの設定」欄で、動作を設定する

- 電源スイッチを押すことで移行する電源の状態を設定する場合
「電源ボタンを押したときの動作」欄で設定します。
- 液晶ディスプレイを閉じることで移行する電源の状態を設定する場合
「カバーを閉じたときの動作」欄で設定します。



チェック

工場出荷時の設定は次のようになっています。

- 「電源ボタンを押したときの動作」：「スリープ状態」
- 「スリープ ボタンを押したときの動作」：「スリープ状態」
- 「カバーを閉じたときの動作」：「スリープ状態」

4

「変更の保存」ボタンをクリック

以上で設定は完了です。

電源の自動操作

[020307-27]

タイマ、LANからのアクセス（WoL）によって、自動的に電源の操作を行うことができます。



チェック

タイマ、LAN の自動操作によるスリープ状態からの復帰を行った場合、本体はスリープ状態から復帰しているのに、ディスプレイには何も表示されない状態になることがあります。この場合、NXパッド（タッチパッド）などのポインティングデバイス进行操作するかキーボードのキーを押すことによってディスプレイが表示されます。

タイマ機能（電源オプション）

設定した時間を経過しても、NXパッド（タッチパッド）やキーボードからの入力やハードディスク（またはSSD）へのアクセスなどがない場合、自動的にディスプレイの電源を切ったり、スリープ状態、休止状態にすることができます。工場出荷時は次のように設定されています。

使用している電源	電源プランの名称	ディスプレイの電源を切る	ハードディスク（またはSSD）の電源を切る	スリープ状態にする	休止状態にする
ACアダプタ	標準	約10分	約10分	約25分	なし
バッテリー		約2分	約3分	約5分	約15分



メモ

工場出荷時は、省電力のためスリープ状態になるように設定してあります。

WoL（LANによる電源の自動操作）

LAN経由で、離れたところにあるパソコンの電源を操作する機能です。



参照

WoLについて

「LAN機能」の「リモートパワーオン（WoL（Wake on LAN））機能（P. 139）」

本機の省電力機能について説明しています。

➤ 省電力機能について.....	39
➤ ECOモード機能.....	40
➤ ピークシフト機能.....	44
➤ Intel SpeedStep® テクノロジー.....	47

省電力機能について

[020401-27]

Windowsには、一定時間本機を使用していない場合などに電源の状態を変更し、消費電力を抑えるように設定できる電源管理機能があります。

また、Windowsの電源管理機能に加え、本機には次の省電力機能があります。

- **Intel SpeedStep® テクノロジー**

処理の負荷などによって、CPUの動作性能を切り替える機能です。対応したCPUが搭載されているモデルでのみ利用できます。

また、お使いのモデルによっては次の機能があります。

- **ECOモード機能**

【Fn】 + 【F4】 またはホットキーを押すことで、簡単にECOモード機能のモードを切り替えることができます。

- **ピークシフト機能**

設定した時間帯の間、バッテリーにより動作し、AC電源の使用を抑えることで、電力需要がピークに達する時間帯の電力消費を他の時間帯に移行することができます。



参照

- **Windowsの電源管理機能について**
「電源 (P. 24)」
- **ECOモード機能について**
「ECOモード機能 (P. 40)」
- **ピークシフト機能について**
「ピークシフト機能 (P. 44)」
- **Intel SpeedStep® テクノロジーについて**
「Intel SpeedStep® テクノロジー (P. 47)」

ECOモード機能

[020402-27]



チェック

ECOモード機能は内蔵バッテリー無しモデルのみ使用できます。

本機では、2つの省電力設定から利用シーンにあわせて、最適な設定に切り替えることができます。
工場出荷時の設定では、ECOモード機能で切り替えることのできるモードには次の2つがあり、「標準」が選択された状態になっています。

◆モードの種類

モード	通知領域のアイコンおよび色	説明
標準	 (青)	本機のパフォーマンスを優先させる設定ですが、操作がない状態で一定の時間が経過した場合、スリープ状態に移行します。電源プランは「標準」が割り当てられており、液晶ディスプレイの輝度は56%に設定されています。
ECO	 (緑)	電力をもっとも節約する設定で、標準よりも早い時間でスリープ状態に移行します。電源プランは「ECO」が割り当てられており、液晶ディスプレイの輝度は10%に設定されています。



チェック

- 表中のアイコンは工場出荷時の設定のもので、実際に表示されるアイコンはモードに割り当てている電源プランにより異なります。
- パソコンの初回起動時、または本ツールをインストール後に本ツールのアイコンがタスクトレイに表示されない場合があります。
その場合はパソコンをいったん再起動してください。
- 電源プラン「ECO」は固定的に割り当てられるモードのため変更はできません。
- Windowsのログオン画面が表示されている場合、【Fn】 + 【F4】、または設定したホットキーを押してもモードは変更されません。
- 電源プランの自動切替の実行中は、【Fn】 + 【F4】や設定したホットキーでの電源プランの切り替えはできません。
- 省電力を優先する電源プランを割り当てているモードを選択している場合、DVDの再生などの映像を表示するアプリケーションで、再生品質が低下する可能性があります。そのような場合は、「標準」などの性能を優先するモードを選択してください。

モードを切り替える

1

【Fn】 + 【F4】を押す



参照

キーの使い方について

「キーボード」の「[キーの使い方 \(P. 68\)](#)」



チェック

- 現在のモードは、タスク バーの通知領域の  をクリックすると表示されるアイコンで確認できます。
また、通知領域に表示されたアイコンを選択し、クリックをしてモードを切り替えることもできます。
- 指定したホットキーに、モードの切り替えの機能を割り当てることもできます。
「[ホットキーの設定 \(P. 42\)](#)」

ECOモード機能の設定

モードの設定の変更

ECOモード機能で切り替える各モードの設定を変更する場合は、次の手順で行います。

1 「スタート」 ボタン→「すべてのプログラム」→「ECOモード設定ツール」→「ECOモード設定ツール」をクリック

2 表示される画面で設定を行う

- **電源プラン**
変更可能なモードに割り当てる電源プランを選択します。
- 「**電源プランのカスタマイズ**」 ボタン
コントロール パネルの電源オプションが表示されます。
- 「**初期設定に戻す**」 ボタン
2つのモードと電源プランの組み合わせを、工場出荷時の設定に戻します。

3 「OK」 ボタンをクリック



チェック

- 各モードに設定している電源プランを削除した場合、削除した電源プランを選択していたモードには「設定なし」が設定されます。
- 「初期設定に戻す」 ボタンで工場出荷時の設定に戻したときに、工場出荷時の設定で使用している電源プランが削除されていた場合も「設定なし」が設定されます。

以上で設定は完了です。

自動切替設定

電源プランを自動的に切り替える期間と時間帯の設定ができます。

設定した時間帯に応じて、本機の電源プランを変更し、消費電力を抑えることができます。



チェック

- 電源プランの自動切替の実行中は、【Fn】 + 【F4】や設定したホットキーでの電源プランの切り替えはできません。
- 電源プランの自動切替の実行中に、手動でWindowsの「電源オプション」などで電源プランを切り替えた場合は、自動切替時間の終了後もその電源プランを維持します。
- ECOモード設定の切り替わりには、数分かかる場合があります。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ECOモード設定ツール」→「ECOモード設定ツール」をクリック

2 「電源モード自動切替の設定」ボタンをクリック

「ECOモード設定ツール(自動切り替え設定)」画面が表示されます。

3 自動切替の設定を行う

設定可能な項目は次の通りです。

項目	説明
時間帯により切り替える	チェックを付けると、時間帯に応じて、電源プランを切り替えます。
使用期間	電源プランの自動切り替えを使用する期間の開始日、終了日を設定します。それぞれの欄の▼をクリックし、表示されるカレンダーから日付を選択してください。 さらに、  をクリックし、開始時刻、終了時刻を設定します。 設定した時間帯は、使用できる電源プランが制限されます。

4 「OK」ボタンをクリック

以上で設定は完了です。

■ ホットキーの設定

【Fn】 + 【F4】とは別に、モードの切り替えに使用するホットキーを1つ設定できます。
ホットキーの設定は、次の手順で行います。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ECOモード設定ツール」→「ECOモード設定ツール」をクリック

2 「ホットキーの設定」ボタンをクリック

3 使用するホットキーを選択し、「OK」ボタンをクリック



メモ

- ホットキーには、次のキーが設定できます。
 - 【Alt】 + 【F1】 ～ 【F3】
 - 【Alt】 + 【F5】 ～ 【F12】
 - 【Ctrl】 + 【F1】 ～ 【F12】
- 「初期設定に戻す」 ボタンをクリックすると、ホットキーの設定を工場出荷時の状態に戻します。

以上で設定は完了です。



チェック

ピークシフト機能は内蔵バッテリー無しモデルのみ使用できます。

電力需要がピークに達する時間帯の電力消費を、他の時間帯に移行することをピークシフトといいます。本機は、「ピークシフト設定ツール」で設定を行うことで「ピークシフト機能」を使用できます。

使用上の注意

- ピークシフト機能の実行には、ACアダプタおよびバッテリーパックが接続されている必要があります。
- ピークシフト機能の実行には、「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」がインストールされている必要があります。
- ピークシフト機能実行中にACアダプタまたはバッテリーパックを取り外したり、本機をスリープ状態や、休止状態にする、シャットダウンを行うとピークシフト機能は中断します。
- ピークシフト機能の設定はユーザーごとに設定可能ですが、同時に実行できるピークシフト機能は1つのみです。ユーザーの切り替えを使用して複数のユーザーがログオンしている状態で、いずれかのユーザーが設定したピークシフト機能が実行中の場合、他の設定によるピークシフト機能は正常に動作しません。
- ピークシフト機能実行中に「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」でバッテリーのリフレッシュを実行すると、ピークシフト機能が正常に動作しないことがあります。
- 「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」で、著しい劣化と診断され「警告」と表示されたら、ただちに新しいバッテリーパックに交換してください。また、劣化したバッテリーのままで、ピークシフト機能を使用しないでください。
- テキストやその他の項目の大きさを変更している場合、「ピークシフト設定ツール」の設定項目が表示されない場合があります。その場合は、次の手順でテキストなどの大きさを変更してから、設定を行ってください。

1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2 「デスクトップのカスタマイズ」をクリック

3 「ディスプレイ」の「テキストやその他の項目の大きさの変更」をクリック

4 「小 - 100%(既定)」を選択し「適用」ボタンをクリック

5 ログオフを促すメッセージが表示されたら、「今すぐログオフ」ボタンをクリック

Windowsからログオフします。

ログオン画面が表示されたら、ログオンしなおしてください。

- 「バッテリー駆動に切り換える」「バッテリーへの充電を控える」の時間帯を長時間に設定した場合、バッテリーの充電量が不足します。バッテリーの充電時間が最低5時間は確保されるように「バッテリー駆動に切り換える」「バッテリーへの充電を控える」の時間帯を19時間以上には設定しないようにしてください。
- バッテリーへの充電を行わない時間の開始・終了は、本機の運用状況により若干の誤差が発生する場合があります。

- ピークシフト機能実行中、タスクバーの通知領域のをクリックすると表示されるピークシフトのアイコンがオレンジ色になっている場合、バッテリーパックを取り外さないでください。
- ピークシフト機能実行中に標準ユーザーアカウントを追加し、追加したアカウントに切り替えると、タスクトレイに本ツールのアイコンが表示されない場合があります。
その場合はパソコンをいったん再起動してください。

ピークシフト機能の設定

ピークシフト設定ツールで、ピークシフト機能に関する各種設定を行うことができます。
ピークシフト機能の設定は、次の手順で行います。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ピークシフト設定ツール」→「ピークシフト設定ツール」をクリック

「ピークシフト設定ツール」が表示されます。

2 ピークシフト機能の設定を行う

設定可能な項目は次の通りです。

項目	説明
使用期間	ピークシフト機能を使用する期間の開始日、終了日を設定します。 それぞれの欄の  をクリックし、表示されるカレンダーから日付を選択してください。
バッテリー駆動に切り換える (更にバッテリー充電を控える)	チェックを付けると、時間帯を指定してピークシフト機能を使用します。 「開始」「終了」  をクリックし、開始時刻、終了時刻を設定します。終了時刻は、「バッテリーへの充電を控える」で設定している時間帯の範囲内になります。
バッテリーの残容量が次を切ったら、AC電源駆動に切り換えます。	ピークシフト実施中に、バッテリー駆動からAC電源による駆動に切り換える バッテリーの残容量を10%~100%の間で設定します。  をクリックし、設定を行ってください。
バッテリー駆動する開始時間をランダムに分散させる。	チェックを付けると、バッテリー駆動を開始/終了する時間を分散させます。  チェック 終了時間の分散により設定画面で設定した終了時間を越えることがあります。
バッテリーへの充電を控える	設定した時間帯はバッテリー充電を行いません。 「終了」  をクリックし、バッテリーへの充電を控える時間帯の終了時刻を設定します。開始時刻はバッテリー駆動開始時刻と同じ時間になります。
スリープ、電源オフ中に、AC電源からバッテリーへ充電を行なわない。	チェックを付けると、ピークシフト期間中は、毎日、パソコン使用開始からピークシフト時間終了まで休止状態、電源オフになってもバッテリーの充電を行いません。

設定変更には管理者権限が必要	チェックを付けると、管理者（Administrator）権限を持つユーザーのみが、ピークシフト機能の設定を変更できるようになります。
----------------	--

3 「OK」ボタンをクリック

設定が保存され、「ピークシフト設定ツール」が閉じます。



メモ

「キャンセル」ボタンをクリックすると、設定を変更しないで「ピークシフト設定ツール」画面を閉じます。

以上でピークシフト機能の設定は完了です。

ピークシフト機能の動作状況は、ピークシフトの実施時間になるとタスクバーの通知領域に表示されるアイコンで確認できます。

通知領域のアイコン	説明
	ピークシフトが実施され、バッテリーのみで動作しています。
	バッテリー残量が「ピークシフト停止バッテリー残容量」以下、またはバッテリーパックが取り付けられていないなどの理由で、AC電源で動作しています。

Intel SpeedStep® テクノロジー

[020404-27]

Intel SpeedStep® テクノロジーに対応したCPUが搭載されているモデルでは、電源の種類やCPUの動作負荷によって、動作性能を切り替えることができます。

Intel SpeedStep® テクノロジーへの対応については、「サービス&サポート」の「商品情報検索」よりお使いの機種を検索し、「仕様一覧」をご覧ください。

<http://121ware.com/support/>

設定を変更する場合は、「電源プランの設定の変更」の手順3で「詳細な電源設定の変更」をクリックし、表示される画面の「プロセッサの電源管理」の各項目で設定を行います。



参照

電源プランの設定の変更について

「電源の設定」 - 「[電源プランの設定の変更 \(P. 34\)](#)」

本機のバッテリー（二次電池）の使い方やバッテリーのリフレッシュ、バッテリーパックの取り付け／取り外しなどについて説明しています。

➤ バッテリー（二次電池）について.....	49
➤ 使用上の注意.....	50
➤ バッテリーパックの取り付け／取り外し.....	51
➤ バッテリーの充電.....	55
➤ バッテリーの使い方と設定.....	56
➤ バッテリーのリフレッシュ.....	58
➤ バッテリー・リフレッシュ & 診断ツール.....	59

バッテリー（二次電池）について

[020501-27]

- 本機に使用しているリチウムイオン電池は、リサイクル可能な貴重な資源です。不要になった二次電池は、廃棄しないでリサイクルにご協力ください。
- バッテリーについてはJEITA（一般社団法人 電子情報技術産業協会）の「PC用バッテリー関連Q&A集」（<http://home.jeita.or.jp/cgi-bin/page/detail.cgi?n=121&ca=14>）もあわせてご覧ください。
- 二次電池をリサイクルとして排出するまでのご注意
 - 電池パックは分解しないでください。
 - 雨など水にぬれないように保管してください。
 - 炎天下に放置しないでください。
- 不要となった二次電池は、回収拠点へお持ちください。詳しくは、NEC環境ホームページ（<http://jpn.nec.com/eco/ja/product/recycle/battery/index.html>）をご覧ください。



使用上の注意

[020502-27]

- バッテリーが十分に充電されている場合は、特に必要でない限り、バッテリーパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因になります。
- ハードディスク（またはSSD）などへの読み書き中にバッテリー残量がなくなり、電源が切れてしまうと、作成中のデータが失われたり、ハードディスク（またはSSD）などのデータが失われたり、壊れたりすることがあります。
- 充電を行う際にはできるだけ満充電するようにしてください。バッテリー残量が少ない場合などに少量の充放電を何度も繰り返して本機を使用すると、バッテリー残量に誤差が生じることがあります。
- バッテリー残量の表示精度を良くするには定期的にバッテリーのリフレッシュを実行してください。
- 満充電（バッテリーを充電してバッテリー充電ランプが消灯した状態）にしても使用できる時間が短くなった場合は、バッテリーのリフレッシュを行ってください。



参照

バッテリーのリフレッシュについて
「[バッテリーのリフレッシュ \(P. 58\)](#)」

- 本機を長期間使用しない場合は、バッテリー残量を50%程度にしてバッテリーパックを取り外し、涼しいところに保管しておくことでバッテリーパックの寿命を長くすることができます。
- バッテリーパックを長期保管する場合は、過放電を防止するために、半年に1回くらいの割合で50%程度の充電をしてください。過放電となったバッテリーパックは充電ができなくなったり、使用できなくなったりすることがあります。
- バッテリーだけで本機を長時間使用する場合は、スリープ状態や休止状態を利用したり、本機の省電力機能を使用してください。



参照

- **スリープ状態／休止状態について**
「[電源 \(P. 24\)](#)」
- **省電力機能について**
「[省電力機能 \(P. 38\)](#)」

交換の目安

バッテリーリフレッシュを行っても、満充電（バッテリーを充電してバッテリー充電ランプが消灯した状態）から使用できる時間が回復しない場合は、新しいバッテリーパックを購入して交換してください。



チェック

バッテリーは消耗品です。充放電を繰り返すと、充電能力が低下します。



参照

バッテリーパックの交換について
「[バッテリーパックの取り付け／取り外し \(P. 51\)](#)」

バッテリーパックの取り付け／取り外し

[020503-27]



チェック

- バッテリスロットの端子部分には絶対に触れないでください。接触不良の原因になります。
- 内蔵バッテリー無しモデルをお使いの場合、電源が入っているときや、スリープ状態のときにバッテリーパックを交換すると、作業中のデータが失われます。電源ランプ (🔌) が点滅しているときには、一度スリープ状態から復帰し、作業中のデータを保存してからWindowsを終了し、本機の電源を切ってください。
- 特に必要でない限り、バッテリーパックの取り付けや取り外しをしないでください。故障の原因になります。

本機で使用できるバッテリーパック

本機で使用できるバッテリーパックは次の通りです。

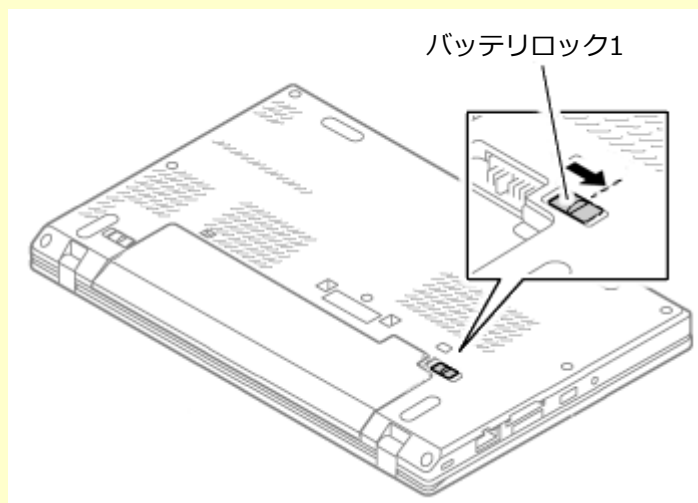
- PC-VP-BP109 (バッテリーパック (M) (リチウムイオン))
- PC-VP-BP110 (バッテリーパック (L) (リチウムイオン))

バッテリーパックの取り付け



チェック

- 内蔵バッテリーモデルをお使いの場合、Windows起動状態でバッテリーの取り付け／取り外しができますが、内蔵バッテリーが十分に充電されていることを確認してください。内蔵バッテリーが十分充電されていない場合は、ACアダプタを接続した状態にしてください。
- 内蔵バッテリーモデルをお使いの場合、Windows起動状態でバッテリーを取り付けたときは、そのままではバッテリーが認識されません。
認識させるために、バッテリーロック1を半分の位置までスライドさせてください。
バッテリーロック1を最後までスライドさせてバッテリーを外さないよう注意してください。



1

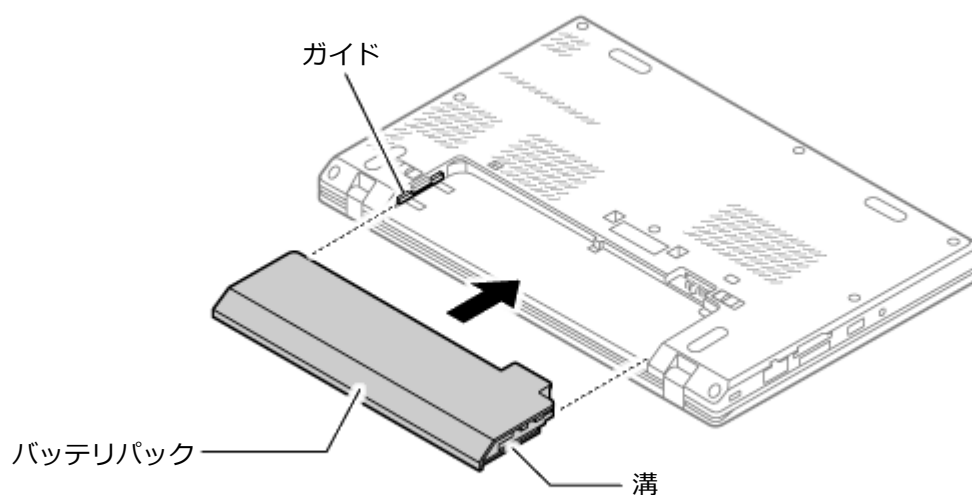
本機を使用中の場合は、本機の電源を切る

2 電源コードのプラグをACコンセントから抜き、ACアダプタを本機から取り外す

3 液晶ディスプレイを閉じて、本体を裏返す

4 バッテリパックの両側の溝と本体のガイドを合わせて、矢印の方向にゆっくりとスライドさせ、カチッと音がするまでしっかりと取り付ける

取り付けるときは、バッテリパックの向きに注意してください。



以上でバッテリパックの取り付けは完了です。

バッテリーパックの取り外し



チェック

- 内蔵バッテリーモデルをお使いの場合、Windows起動状態でバッテリーの取り付け／取り外しができますが、内蔵バッテリーが十分に充電されていることを確認してください。内蔵バッテリーが十分充電されていない場合は、ACアダプタを接続した状態にしてください。
- 内蔵バッテリーモデルをお使いの場合、Windows起動状態でバッテリーパックを取り外すときは、バッテリーパックを取り外す前に以下の手順でバッテリーパックを安全に取り外せる状態にしてください。

1 タスク バーの通知領域の  をクリックし、 または  をクリック

2 表示される「Microsoft ACPI-Compliant Control Method Battery の取り外し」をクリック

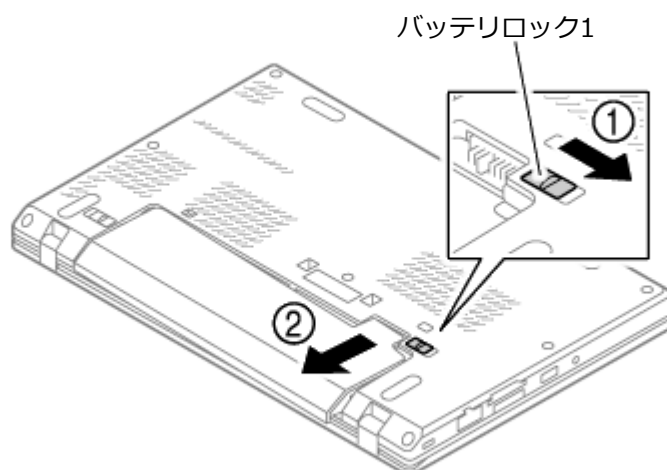
安全に取り外しができるという内容のメッセージが表示されます。

1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る

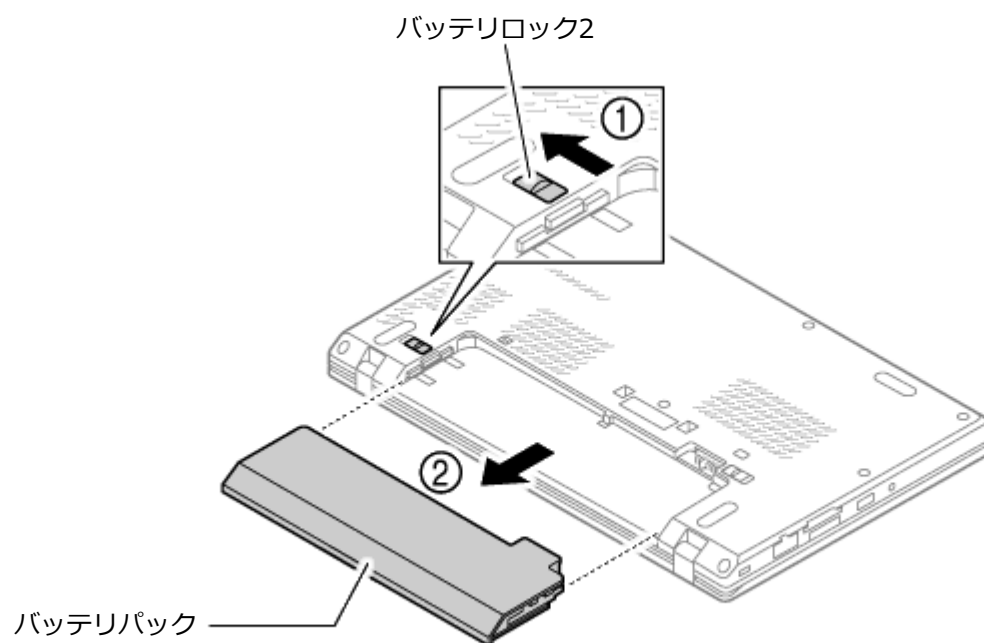
2 電源コードのプラグをACコンセントから抜き、ACアダプタを本機から取り外す

3 液晶ディスプレイを閉じて、本体を裏返す

4 バッテリーロック1を矢印の方向にスライドさせ、バッテリーを少しずらす



- 5** バッテリロック2を矢印の方向にスライドさせたまま、バッテリーパックを矢印の方向にスライドさせ取り外す



以上でバッテリーパックの取り外しは完了です。

バッテリーの充電

[020504-27]



チェック

- 内蔵バッテリー無しモデルをお使いの場合、バッテリーの充電中は、バッテリーパックを本機から取り外さないでください。ショートや接触不良の原因になります。
- 購入直後や長時間放置したバッテリーでは、バッテリー駆動ができないことや動作時間が短くなること、バッテリー残量が正しく表示されないことなどがあります。必ず満充電してから使用してください。
- 内蔵バッテリーモデルをお使いの場合、タスクバーの通知領域で確認できるバッテリー残量に「充電完了」と表示されている場合でも、100%まで充電されていない場合があります。
バッテリーが両方とも80%を下回る状態から充電を開始した場合、内蔵バッテリーが80%程度まで充電されると、外付けバッテリーを100%まで充電し、その後、内蔵バッテリーを100%まで充電します。



参照

バッテリー残量について

「バッテリーの使い方と設定 (P. 56)」

バッテリーの充電のしかた

本機にバッテリーパックを取り付けてACアダプタをACコンセントに接続すると、自動的にバッテリーの充電が始まります。本機の電源を入れて使用していても充電されます。



メモ

充電できる電池容量は、周囲の温度によって変わります。また、高温になると充電が中断されることがありますので、18～28℃での充電をおすすめします。

バッテリーの充電時間については、「サービス&サポート」の「商品情報検索」よりお使いの機種を検索し、「仕様一覧」をご覧ください。

<http://121ware.com/support/>

充電状態を表示ランプで確認する

バッテリーの充電状態を、バッテリー充電ランプで確認することができます。



参照

バッテリー充電ランプについて

「表示ランプ (P. 23)」

バッテリーの使い方と設定

[020505-27]

バッテリー残量の確認

バッテリー残量は次の方法で確認できます。

タスク バーの通知領域で確認する

タスク バーの通知領域の  または  をクリックすると、現在のバッテリー残量と電源プランが表示されます。

通常のバッテリー残量に加えて、内蔵バッテリーおよびバッテリーパックのバッテリー残量がそれぞれ表示されます。



チェック

内蔵バッテリー無しモデルをお使いの場合、内蔵バッテリーは「存在しません」と表示されます。

電源ランプで確認する

電源ランプの状態で、バッテリー残量を確認できます。



参照

電源ランプについて
[「表示ランプ \(P. 23\)」](#)

バッテリー残量による動作の設定

バッテリー残量が一定の値以下になったときに通知したり、自動的にスリープ状態や休止状態になるように設定できます。



チェック

- 工場出荷時の状態では、バッテリー残量が10%以下になったときに通知し、5%以下になったときに再度通知し、自動的に休止状態になるように設定されています。
- バッテリー残量による動作は、電源プランごとに設定します。

バッテリー残量による動作の設定を変更するには、次の手順で行います。

1

「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2

「システムとセキュリティ」をクリックし、「電源オプション」をクリック

3 設定を変更したい電源プランの「プラン設定の変更」をクリック

4 「詳細な電源設定の変更」をクリック

5 「バッテリー」をダブルクリック

6 「バッテリー」以下に表示される項目で設定を行う

設定可能な項目は次の通りです。

項目	説明
バッテリー切れの操作	バッテリー残量が「バッテリー切れのレベル」以下になったときに行う動作を設定します。
バッテリー低下のレベル	バッテリー残量がここで設定した値以下になると、「バッテリー低下の操作」を開始します。
バッテリー切れのレベル	バッテリー残量がここで設定した値以下になると、「バッテリー切れの操作」を開始します。
バッテリー低下の通知	バッテリー残量が「バッテリー低下のレベル」以下になったときに通知するかどうかを設定します。
バッテリー低下の操作	バッテリー残量が「バッテリー低下のレベル」以下になったときに行う操作を設定します。
省電源移行バッテリー レベル	バッテリー残量がここで設定した値以下になると、Windowsが省電源モードで動作するようになります。

7 「OK」 ボタンをクリック

以上で設定の変更は完了です。

■ バッテリー駆動中にバッテリー残量が少なくなったときは

バッテリー駆動中にバッテリー残量が少なくなった場合は、状況に応じて次の操作を行ってください。

ACコンセントから電源を供給できる場合

ACアダプタを接続して、ACコンセントから電源を供給してください。バッテリー充電ランプが点灯し、バッテリーの充電が始まります。また、バッテリーを充電しながら本機を使用できます。

ACコンセントが使えない場合

本機を休止状態にするか、使用中のアプリケーションを終了して本機の電源を切ってください。

バッテリー残量が少ない状態で、ACコンセントから電源を供給しないまま本機を使用していると、バッテリー残量に応じて電源プランで設定されている動作が実行されます。

バッテリーのリフレッシュ

[020506-27]

バッテリーのリフレッシュは、一時的に低下したバッテリーの性能を回復させるときに行います。次のような場合には、バッテリーのリフレッシュを実行してください。

- バッテリーでの駆動時間が短くなった
- 購入直後やバッテリーパック交換直後、または長期間バッテリーを使用しなかったため、バッテリーの性能が一時的に低下している
- バッテリーの残量表示に誤差が生じている

バッテリーのリフレッシュの実行



メモ

本機は、「バッテリー・リフレッシュ & 診断ツール」でWindows上からバッテリーのリフレッシュを実行することができます。



参照

バッテリー・リフレッシュ & 診断ツールについて
[「バッテリー・リフレッシュ & 診断ツール \(P. 59\)」](#)

バッテリー・リフレッシュ&診断ツール

[020507-27]

「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」を使用することで、バッテリーのリフレッシュと性能診断、バッテリーのリフレッシュと診断の自動実行ができます。

内蔵バッテリーモデルと内蔵バッテリー無しモデルでは「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」の表示内容が異なります。

- 内蔵バッテリーモデルをお使いの場合
 - バッテリー：内蔵バッテリーを示します。
 - バッテリー（セカンダリ）：バッテリーパックを示します。
- 内蔵バッテリー無しモデルをお使いの場合
 - バッテリー（セカンダリ）：バッテリーパックを示します。



チェック

バッテリー・リフレッシュ&診断ツールがインストールされていない場合、ピークシフト機能は使用できません。



メモ

- 内蔵バッテリーモデルをお使いの場合、バッテリーパックが取り付けられていないときは「バッテリー（セカンダリ）のリフレッシュ」タブは表示されません。
- 内蔵バッテリー無しモデルをお使いの場合、「バッテリーのリフレッシュ」タブは表示されません。
- 内蔵バッテリー無しモデルをお使いの場合、「バッテリー診断結果」タブで、「バッテリー状態：」欄に「不明」と表示されますが、異常ではありません。

バッテリー・リフレッシュ&診断ツールの起動

バッテリー・リフレッシュ&診断ツールの起動は次の手順で行います。

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」→「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」をクリック

- 2 バッテリーのリフレッシュや性能診断についての概要を説明する画面が表示された場合は、「次へ」ボタンをクリック



メモ

- 「起動時にこの画面を表示しない」にチェックを付けてから「次へ」ボタンをクリックすると、概要説明画面を次の起動時から表示しなくなります。
- 概要説明画面は、「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」を起動して、「はじめにお読みください」ボタンをクリックしても表示されます。

バッテリー・リフレッシュ & 診断ツールや診断結果については、バッテリー・リフレッシュ & 診断ツールを起動し、「ヘルプ」ボタンをクリックすると表示されるヘルプをご覧ください。

■ バッテリーのリフレッシュと性能診断を実行する

バッテリーのリフレッシュと性能診断は、次の手順で行います。



チェック

バッテリーのリフレッシュと性能診断を行う場合には、本機にバッテリーパックとACアダプタが接続されている必要があります。

1

「バッテリー・リフレッシュ & 診断ツール」を表示する

2

「バッテリーのリフレッシュ」タブまたは「バッテリー（セカンダリ）のリフレッシュ」タブをクリック

3

「開始」ボタンをクリック

確認画面が表示されます。

4

内容を確認し、「はい」ボタンをクリック

バッテリーのリフレッシュが開始されます。

バッテリーのリフレッシュ終了後、性能診断が行われます。



メモ

確認画面、および実行中の画面で「終了後、自動的にスリープ状態にする」にチェックを付けると、バッテリーのリフレッシュと性能診断が終了した後、本機がスリープ状態になります。



チェック

- バッテリーのリフレッシュを中断する場合は、「中止」ボタンをクリックし、画面の指示に従ってください。また、バッテリーのリフレッシュを中断した場合、性能診断は行われません。
- 「バッテリー状態」に「劣化」と表示された場合、バッテリーの交換をおすすめします。
- 「バッテリー状態」に「警告」と表示された場合、バッテリーを交換してください。また、バッテリーのリフレッシュは、安全のため行えなくなります。
- 内蔵バッテリーの交換については、121コンタクトセンターまたはビジネスPC修理受付センターにご相談ください。

■ バッテリーのリフレッシュと性能診断を自動実行する

バッテリーのリフレッシュと性能診断の自動実行は、次の手順で設定します。



チェック

バッテリーのリフレッシュと性能診断を自動実行する場合には、設定した時間に本機が以下の状態であることが必要です。

- ACアダプタとバッテリーパックが接続されている。
- 電源がシャットダウンされていない（起動中、スリープ状態、休止状態の場合は実行可能です）。
- 管理者（Administrator）権限を持たないユーザーで自動実行を設定した場合、設定したユーザーでログオンしている。
- 管理者（Administrator）権限を持ち、Windows パスワードを持たないユーザーで自動実行を設定した場合、設定したユーザーでログオンしている。

1 「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」を表示する

2 「バッテリーのリフレッシュ」タブまたは「バッテリー（セカンダリ）のリフレッシュ」タブをクリック

3 「次回開始日時の設定」ボタンをクリック

4 「バッテリー」または「バッテリー（セカンダリ）」にチェックを付ける

5 「次の実行日時を指定する」を選択し、実行時間を設定する

必要に応じて以下の項目も設定してください。

- 「Windows パスワード」
Windows のログオンパスワードを設定している場合は、この欄にパスワードを入力する
- 「終了後、自動的にスリープ状態にする」
自動実行終了後、本機をスリープ状態にする場合にはチェックを付ける



チェック

管理者（Administrator）権限を持たないユーザーで設定を行っている場合、「Windows パスワード」欄は表示されません。

6 「OK」ボタンをクリック

以上でバッテリーのリフレッシュと性能診断の自動実行の設定は完了です。

■ バッテリーの充電モードを設定する

バッテリーの充電モードを設定できます。



チェック

- 充電モードの設定は、バッテリー・リフレッシュ & 診断ツールでのみ変更可能です。
- 内蔵バッテリー無しモデルをお使いで充電モードを設定しているとき、バッテリーパックの取り外し/取り付けを行った場合は、一度Windowsを起動させてください。Windows起動後に取り外し前の設定値が有効になります。



メモ

- 現在取り付けているバッテリーの充電モードは、バッテリー・リフレッシュ & 診断ツールの「充電モード」欄で確認できます。
- バッテリーは、使い続けていくうちに、バッテリーの電源のみでパソコンを使用できる時間が以前よりも短くなっていきます。このようなときは、バッテリーのリフレッシュを実行することでバッテリーの性能を回復できます。

1 「バッテリー・リフレッシュ & 診断ツール」を表示する

2 「バッテリーのリフレッシュ」タブまたは「バッテリー（セカンダリ）のリフレッシュ」タブをクリック

3 「充電モードの設定」ボタンをクリック

4 設定するモードを選択する

設定可能なモードは次のとおりです。

モード	説明
フル充電モード	100%まで充電する通常のモードです。
8割充電モード	充電を80%までにすることで、バッテリーの劣化を抑えるモードです。
5割充電モード	50%まで充電します。バッテリーパックを取り外して保管する場合に使用します。

5 「OK」ボタンをクリック

以上で充電モードの設定は完了です。

■ バッテリー・リフレッシュ & 診断ツールのアンインストール

バッテリー・リフレッシュ & 診断ツールのアンインストールは、次の手順で行います。



チェック

アンインストールは管理者（Administrator）権限を持つユーザーで行ってください。

1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

3 「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール」を選択し、「アンインストール」をクリック

4 「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール をアンインストールしますか?」と表示された場合は、「はい」ボタンをクリック

以上でバッテリー・リフレッシュ & 診断ツールのアンインストールは完了です。

バッテリー・リフレッシュ & 診断ツールの再インストール

アンインストールした「バッテリー・リフレッシュ & 診断ツール」を再インストールする場合は、次の手順で行います。



チェック

- インストールには光学ドライブが必要です。
- インストールは管理者（Administrator）権限を持つユーザーで行ってください。

1 光学ドライブに「アプリケーションディスク」をセットする

2 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

3 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

D:¥Nxsetup.exe



メモ

光学ドライブがDドライブ以外の場合は、先頭の「D」を、お使いの光学ドライブのドライブ文字に置き換えて入力してください。

4 「バッテリー・リフレッシュ & 診断ツール」を選択し、「インストール」をクリック



チェック

「バッテリー・リフレッシュ & 診断ツール」が複数表示される場合は、お使いのタイプ名を選択してください。

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 「バッテリー・リフレッシュ&診断ツールファイル使用中」画面が表示された場合は、「バッテリー・リフレッシュ&診断ツール - スケジューラ (Process Id: XXXX)」をクリックし、「継続」ボタンをクリック

6 「インストールが完了しました。」画面が表示されたら、「閉じる」ボタンをクリック

7 再起動を促すメッセージが表示された場合は、光学ドライブから「アプリケーションディスク」を取り出し、「はい」ボタンをクリック

Windowsが自動的に再起動します。



チェック

メッセージが表示されない場合は、光学ドライブから「アプリケーションディスク」を取り出し、Windowsを再起動してください。

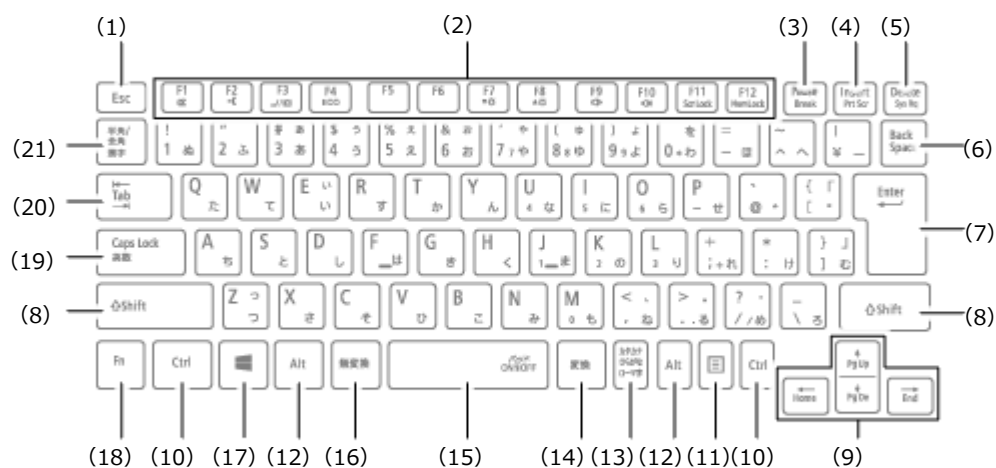
以上でバッテリー・リフレッシュ&診断ツールの再インストールは完了です。

本機のキーボードのキーの名称や、キーの使い方について説明しています。

➤ キーの名称.....	66
➤ キーの使い方.....	68
➤ キーボードの設定.....	70

キーの名称

[020603-27]



番号	マニュアルでの表記	名称
(1)	【Esc】	エスケープキー
(2)	【F1】～【F12】	ファンクションキー
(3)	【Pause】	ポーズキー
(4)	【Insert】	インサートキー
(5)	【Delete】	デリートキー
(6)	【Back Space】	バックスペースキー
(7)	【Enter】	エンターキー（リターンキー）
(8)	【Shift】	シフトキー
(9)	【↑】【↓】【→】【←】	カーソルキー
(10)	【Ctrl】	コントロールキー
(11)	【  】	アプリケーションキー
(12)	【Alt】	オルトキー
(13)	【カタカナ ひらがな】	かなキー
(14)	【変換】	変換キー
(15)	スペースキー	スペースキー
(16)	【無変換】	無変換キー

(17)		Windowsキー
(18)	【Fn】	エフエヌキー
(19)	【Caps Lock】	キャップスロックキー
(20)	【Tab】	タブキー
(21)	【半角/全角】	半角/全角キー

キーの使い方

[020604-27]

日本語入力のオン/オフ

本機は、工場出荷時、日本語入力システムとしてMicrosoft IMEが設定されています。
工場出荷時の状態で日本語入力のオン/オフを切り替えるには【半角/全角】または【Caps Lock】を押してください。
また、入力を行う際の操作方法については、Microsoft IMEのヘルプをご覧ください。

● Microsoft IMEのヘルプ

Microsoft IMEの言語バーの「ツール」→「ヘルプ」→「目次とキーワード」をクリック

ホットキー機能（【Fn】の使い方）

【Fn】と他のキーを組み合わせることで、パソコンの設定を変更したり、キーの役割を変えることができます。これをホットキー機能といいます。

組み合わせが可能なキーとその機能を表すアイコンは【Fn】と同じ色でキー上面に印字されているものもあります。

キー操作	機能	説明
【Fn】 + 【F1】	音声のオン/オフ（ミュー特機能） 	音声のオン/オフを切り替えます。
【Fn】 + 【F2】	ワイヤレススイッチ 	ワイヤレス機能のオン/オフを切り替えます。詳しくは「 無線LAN機能 (P. 144) 」、「 Bluetooth機能 (P. 195) 」をご覧ください。
【Fn】 + 【F3】 ※1	画面表示先の切り替え 	外部ディスプレイが接続されているとき、キーを押すごとに、画面の表示先を切り替えます。詳しくは「 画面の出力先を切り替える (P. 103) 」をご覧ください。
【Fn】 + 【F4】 ※2	ECOモードの切り替え（ECO）	内蔵バッテリー無しモデルの場合、ECOモードを切り替えます。詳しくは「 ECOモード機能 (P. 40) 」をご覧ください。
【Fn】 + 【F7】	輝度を下げる 	液晶ディスプレイの輝度が下がります（16段階）。
【Fn】 + 【F8】	輝度を上げる 	液晶ディスプレイの輝度が上がります（16段階）。
【Fn】 + 【F9】	音量を下げる 	スピーカの音量を下げます。
【Fn】 + 【F10】	音量を上げる 	スピーカの音量を上げます。
【Fn】 + 【F11】 ※3	スクロールロック	【Scr Lock】として機能します。
【Fn】 + 【F12】	ニューメリックロック	【Num Lock】として機能します。
【Fn】 + 【Pause】	Break	【Break】として機能します。
【Fn】 + 【Insert】	プリントスクリーン	【Prt Scr】として機能します。
【Fn】 + 【Delete】	システムリクエスト	【Sys Rq】として機能します。
【Fn】 + 【↑】	Page Up	【Pg Up】として機能します。

【Fn】 + 【↓】	Page Down	【Pg Dn】として機能します。
【Fn】 + 【←】	Home	【Home】として機能します。
【Fn】 + 【→】	End	【End】として機能します。
【Fn】 + スペースキー	NXパッド（タッチパッド）のオン／オフ	NXパッド（タッチパッド）のオン／オフを切り替えます。

※1 外部ディスプレイを接続していない場合は動作しません。

※2 「ECOモード設定ツール」をアンインストールした場合は動作しません。

※3 本機の電源を切ったり、再起動を行った場合、設定した内容は解除されます。

■【Num Lock】／【Caps Lock】／マイクのディスプレイ表示設定

【Num Lock】／【Caps Lock】／マイクの状態を、インジケータで表示することができます。インジケータの表示を設定するには、次の手順で行います。

1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2 「デスクトップのカスタマイズ」の「画面の解像度の調整」をクリック

3 「詳細設定」をクリック

4 「画面構成」タブで設定を行う

5 「OK」ボタンをクリック

以上で設定は完了です。

キーボードの設定

[020605-27]

Windowsでキーボードをより使いやすく設定することができます。



参照

キーボードの設定について

Windowsのヘルプ

NXパッド（タッチパッド）

[020800-27]

本機のNXパッド（タッチパッド）の使い方や拡張機能の設定方法などについて説明しています。

➤ NXパッド（タッチパッド）の使い方.....	72
➤ NXパッド（タッチパッド）の設定.....	73

NXパッド（タッチパッド）の使い方

[020802-27]

NXパッド（タッチパッド）での操作

工場出荷時の状態で使用できるNXパッド（タッチパッド）での操作には、次のようなものがあります。

操作名称	操作説明
マウスポインタの移動	パッドに触れ、マウスポインタを動かしたい方向に指を動かします。
クリック	パッドの右下以外の部分を押し込んで、すぐに離します。
右クリック	パッドの右下部分を押し込んで、すぐに離します。
ダブルクリック	アイコンやフォルダなどの上にポインタを合わせてから2回続けてすばやくクリックします。
ドラッグ	アイコンやフォルダなどの上にポインタを合わせ、パッドを押し込んだままパッド上で指を動かします。
スクロール	スクロールバーが表示されているアプリケーションのウィンドウをクリックし、パッドの2カ所に触れます。触れる位置は少し離してください。 そのまま、スクロールバーを動かしたい方向に2本の指を動かします。
ズーム	拡大／縮小の操作を行いたいアプリケーションのウィンドウをクリックし、パッドの2カ所に触れます。 そのまま、指先の間を広げたり狭めたりすることで、拡大／縮小ができます。
回転	回転の操作を行いたいアプリケーションのウィンドウをクリックし、パッドの2カ所に触れます。 そのまま、2つの指をひねるように回転させます。



チェック

スクロールやズーム、回転は、対応していないアプリケーションでは使用できません。



メモ

- パッドを指先で軽くたたくとクリックと同じ操作になります。また、2回続けてすばやくパッドをたたくと、ダブルクリックと同じ操作になります。パッドを軽くたたいてクリックやダブルクリックの操作をすることを「タップ」や「ダブルタップ」と呼びます。
- アイコンやフォルダなどの上にポインタを合わせてからパッドを二回すばやく軽くたたき、そのまま指を動かすと、ドラッグの操作になります。

NXパッド（タッチパッド）の設定

[020803-27]

NXパッド（タッチパッド）のボタンやポインタの動作などの設定は「マウスのプロパティ」で行います。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Mouse Properties (Touchpad Clickpad Trackpad TrackPoint Mouse Pointer Pointing Pad)」をクリック

「マウスのプロパティ」が表示されます。

「マウスのプロパティ」の各タブをクリックし、NXパッド（タッチパッド）の設定ができます。

マルチタッチやジェスチャーなどの機能の設定

マルチタッチやジェスチャー、スクロールなどの機能の設定は、「マウスのプロパティ」の「タッチパッド」タブから「Synaptics コントロールパネル」画面を表示して行います。

「Synaptics コントロールパネル」画面の表示は、次の手順で行います。



チェック

本機では、「NXパッド（タッチパッド）」のことを「Touch Pad」と表示することがあります。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Mouse Properties (Touchpad Clickpad Trackpad TrackPoint Mouse Pointer Pointing Pad)」をクリック

「マウスのプロパティ」が表示されます。

2 「タッチパッド」タブをクリック

3 「タッチパッド」タブ内の「詳細設定」ボタンをクリック

NXパッド（タッチパッド）の「Synaptics コントロールパネル」画面が表示されます。

設定できる項目

「Synaptics コントロールパネル」画面では、次の項目の設定ができます。

項目		説明
一般	TouchPad ポインティング速度	NXパッド（タッチパッド）のポインタ移動速度を設定できます。
	タップ	タップの動作を設定します。
	タップしてクリック	有効にすると、パッドを指先で軽くたたくとクリックと同じ操作になります。また、2回続けてすばやくパッドをたたくと、ダブルクリックと同じ操作になります。

	スクロール	スクロールの動作を設定します。
	スクロール	有効にすると、スクロール操作が使用可能になります。
	スクロール方法	スクロール方法を選択します。
クリック	タップ	タップの動作を設定します。
	タップ アンド ドラッグ	有効にすると、タップして指を離さずに動かすとドラッグが有効になります。
	2 本指でのタップ	有効にすると、2 本指でタップすると右クリックと同じ操作になります。
	クリック	クリックの動作を設定します。
	2 本指クリック	有効にすると、2本指でクリックすると右クリックと同じ操作になります。
	3 本指クリック	有効にすると、3本指でクリックすると選択した項目の動作をします。
スクロール	スクロール速度	スクロール速度を設定します。
	Inertia	Inertiaを設定します。Inertiaは、NXパッド（タッチパッド）から指を離してもスクロールを続けます。 スライダを左端に設定すると、動作しません。右端に設定すると、NXパッド（タッチパッド）に指を戻すまで動作し続けます。
	2 本指スクロール	2本指で垂直または水平にスライドすることで、スクロールができます。
	垂直	有効にすると、垂直のスクロール機能が使用できます。
	水平	有効にすると、水平のスクロール機能が使用できます。
	方向の切り替え	有効にすると、スクロールの方向を反転させることができます。垂直または水平のスクロール機能が使用できるときのみ、設定できます。
	1本指エッジ スクロール	NXパッド（タッチパッド）の右端や下端をスライドすることでスクロールができます。
	垂直	有効にすると、垂直のスクロール機能が使用できます。
	水平	有効にすると、水平のスクロール機能が使用できます。
	方向の切り替え	有効にすると、スクロールの方向を反転させることができます。1本指エッジ スクロール機能ができるときのみ、設定できます。
	カイラル円形スクロール	有効にすると、1本指エッジスクロール動作後、指を離さずにNXパッド（タッチパッド）上で回転することでスクロール機能が使用できます。
	1本指エッジ スクロール範囲	水平方向および垂直方向のスクロール操作領域の幅を設定できます。1本指エッジ スクロール機能ができるときのみ、設定できます。
	範囲の横サイズ	水平方向のスクロール操作領域の幅を設定できます。

		範囲の縦サイズ	垂直方向のスクロール操作領域の幅を設定できます。
ジェスチャー	2本指	ズーム	2本指で拡大／縮小ができます。
		つまみズーム	有効にすると、画像や地図などのアプリケーションで、拡大／縮小ができます。2本指でNXパッド（タッチパッド）をタッチし、指を遠ざけると拡大し、指を近づけると縮小します。
		回転	2本指で回転ができます。
		2本指で回転	有効にすると、画像の回転をサポートしたアプリケーションで、画像を回転できます。2本指でNXパッド（タッチパッド）をタッチし、2本の指を回転させると回転できます。
	3本指	3本指スワイプ	3本指をスライドすると、アプリケーションの表示モードを切り替えたり、写真の表示を順番に切り替えたりします。
		垂直スワイプ	有効にすると、対応したアプリケーションで、上に3本指をスライドすると全画面表示モードになり、下に3本指をスライドすると通常表示に戻ります。
		水平スワイプ	有効にすると、対応したアプリケーションで、写真の表示を順番に切り替えます。
	4本指	4本指スワイプ	4本指をスライドすると、アプリケーションの表示を切り替えます。
		垂直スワイプ	有効にすると、上に4本指をスライドするとアプリケーションを選択するモードになり、下に4本指をスライドするとデスクトップが表示されます。
		水平スワイプ	有効にすると、左右に4本指をスライドするとアプリケーションが切り替わります。
拡張	スマートチェック	パームチェックのしきい値	誤って手がNXパッド（タッチパッド）に触れたときなどにポインタが誤動作しないようにします。検出される手のひらのサイズを設定できます。
		エッジタップ	タップの有効範囲を設定します。
		エッジタップフィルタ	有効にすると、指定した領域をタップしても無視されます。黒のサイズ変更ハンドルをドラッグして領域を変更します。
		ジェスチャーフィルタ	ジェスチャーの有効範囲を設定します。
		ジェスチャーフィルタ	有効にすると、つまみズーム／2本指でのスクロール／回転アプリケーションジェスチャーを操作した場合、指定した領域の外に触れると操作が無視されます。黒のサイズ変更ハンドルをドラッグして領域を変更します。
		スクロール範囲フィルタ	1本指エッジスクロール機能の動作を調整します。
		スクロール範囲フィルタ	有効にすると、1本指エッジスクロール機能が有効化を最小限にします。
	モーション	タッチ 有効化のしきい値	NXパッド（タッチパッド）の感度を設定します。
		Momentum（モーメントム）	指で弾く操作に応じてカーソルが移動する距離を設定します。

タ ッ プ ゾ ー ン	タップゾーン	NXパッド（タッチパッド）の隅を使ったタップ操作ができます。
	タップゾーン	有効にすると、NXパッド（タッチパッド）の隅をタップすると選択した操作ができます。各隅で使用したい機能をドロップダウンメニューから選択します。
E d g e M o t i o n	EdgeMotion	ドラッグやスクロール操作中に指がNXパッド（タッチパッド）の端に到達したときのポインタの動作を設定します。
	Edge Motion ドラッグ	有効にすると、指がNXパッド（タッチパッド）の端に到達したときにドラッグの動作を続けます。
	Edge Motion スクロール	有効にすると、指がNXパッド（タッチパッド）の端に到達したときにスクロールの動作を続けます。
	EdgeMotion 速度	指がNXパッド（タッチパッド）に到達した後のポインタの移動速度を設定します。
	EdgeMotion 範囲	EdgeMotionが動作する範囲を設定します。
ユ ー ザ ー 補 助	スローモーション	選択したキーを押したときにポインタの動作が遅くなります。
	スローモーション	有効にすると、選択したキーを押したときにポインタの動作が遅くなります。
	制約モーション	選択したキーを押したときにポインタの動作が垂直または水平に固定されます。
	制約モーション	有効にすると、選択したキーを押したときにポインタの動作が垂直または水平に固定されます。
バ ー ジ ョ ン 情 報	TouchPad 情報	NXパッド（タッチパッド）ドライバーのバージョン情報を表示します。
	特許情報	特許情報を表示します。

工場出荷時の設定に戻す

NXパッド（タッチパッド）の設定を工場出荷時の状態に戻す場合は、次の手順で行います。

1 「タッチパッド」タブの「詳細設定」ボタンをクリック

NXパッド（タッチパッド）の「Synaptics コントロールパネル」画面が表示されます。

2 「すべてデフォルトに戻す」ボタンをクリック

3 「OK」ボタンをクリック

NXパッド（タッチパッド）のオン／オフ

【Fn】＋スペースキーを押すことで、NXパッド（タッチパッド）のオン／オフを切り替えることができます。
ただし「マウスが接続されている場合は TouchPad を無効にする」にチェックを付けた状態でマウスを接続した場合、【Fn】＋スペースキーを押してもNXパッド（タッチパッド）は有効になりません。

また、USBマウスを接続しているときに、NXパッド（タッチパッド）が自動的に無効になるように設定できます。
設定する場合は、次の手順で行ってください。



チェック

本機では、「NXパッド（タッチパッド）」のことを「Touch Pad」と表示することがあります。



メモ

工場出荷時の状態では、「マウスが接続されている場合は TouchPad を無効にする」にチェックが付いています。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Mouse Properties (Touchpad Clickpad Trackpad TrackPoint Mouse Pointer Pointing Pad)」をクリック

「マウスのプロパティ」が表示されます。

2 「タッチパッド」タブをクリック

3 「マウスが接続されている場合は TouchPad を無効にする」にチェックを付ける

4 「OK」ボタンをクリック

以上で設定は完了です。

本機でマウスを使用する場合の設定について説明しています。

➤ マウスを使用する.....	79
➤ マウスを接続するための設定方法.....	81
➤ マウスを接続する前の設定に戻す.....	82

マウスを使用する

[020902-27]

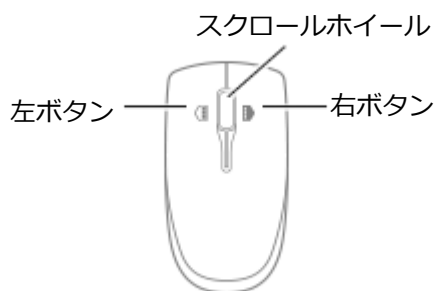
本機では、USB接続のマウスを使用することができます。

添付または別売の当社製USBマウスを使用する場合は、特に設定を行う必要はありません。そのままUSBコネクタに接続してください。

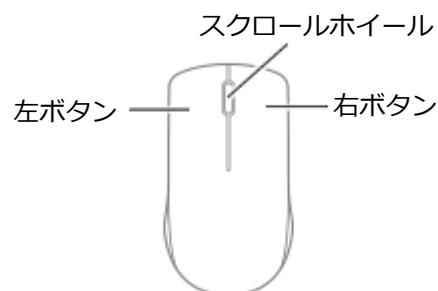
他社製のUSBマウスを使用する場合は、他社製USBマウスに添付のマニュアルをご覧ください、手順に従ってUSBマウスを接続してください。

ご購入時に、マウスを選択した場合に添付されるマウスを例として説明します。

USBレーザーマウス



USB光センサーマウス



チェック

USBレーザーマウスやUSB光センサーマウスは、マウス底面に光源があり、マウスを置いた操作面をセンサーで検知することでマウスの動きを判断しています。次のような操作面では正しく動作しない（操作どおりにマウスポインタが動かない）場合があります。

- 反射しやすいもの（鏡、ガラスなど）
- 網点の印刷物など、同じパターンが連続しているもの（雑誌や新聞の写真など）
- 濃淡のはっきりした縞模様や柄のもの
- 光沢があるもの（透明、半透明な素材を含む）



参照

- **マウスを接続するための設定方法**
「本機の機能」の「マウス」 - 「[マウスを接続するための設定方法 \(P. 81\)](#)」
- **マウスの使い方**
Windowsのヘルプ

スクロールホイールの使い方



チェック

スクロールホイールの機能に対応していないアプリケーションでは使用できません。

USBレーザーマウスの場合

- **垂直スクロール機能**

スクロールホイールを奥または手前方向に回転させることで、画面を上下にスクロールさせることができます。

- **水平スクロール機能**

スクロールホイールを左または右側に傾けると、画面を左右にスクロールさせることができます。

- **オートスクロール機能**

スクロールホイールをクリックしたり、押し続けるとスクロールアイコンが表示されます。

その状態で、三角マークの方向にマウスを動かして、画面を上下、または左右にスクロールさせることができます。

スクロールホイールを再度クリックしたり、指を離すとスクロールアイコンが消えます。

USB光センサーマウスの場合

- **垂直スクロール機能**

スクロールホイールを奥または手前方向に回転させることで、画面を上下にスクロールさせることができます。

- **オートスクロール機能**

スクロールホイールをクリックしたり、押し続けるとスクロールアイコンが表示されます。

その状態で、三角マークの方向にマウスを動かして、画面を上下、または左右にスクロールさせることができます。

スクロールホイールを再度クリックしたり、指を離すとスクロールアイコンが消えます。

マウスを接続するための設定方法

[020903-27]

■ 当社製USBマウス（添付または別売）を使用する

当社製USBマウス（添付または別売）を使用する場合は、特に設定を行う必要はありません。そのままUSBコネクタに接続してください。



チェック

- 当社製USBマウスとNXパッド（タッチパッド）を同時に使用できますが、工場出荷時の状態では、USBマウス接続時にNXパッド（タッチパッド）が無効になるように、NXパッド（タッチパッド）ドライバで設定されています。
- 本機では、「NXパッド（タッチパッド）」のことを「Touch Pad」と表示することがあります。



メモ

- USBマウスとNXパッド（タッチパッド）を同時に使用する場合は、「マウスのプロパティ」→「タッチパッド」タブで「マウスが接続されている場合は TouchPad を無効にする」のチェックを外してください。
- NXパッド（タッチパッド）を使用しない場合は、BIOSの設定でNXパッド（タッチパッド）を無効にできます。「他社製のUSBマウスを使用する (P. 81)」を参照してください。

■ 他社製のUSBマウスを使用する

他社製のUSBマウスを使用する場合は、他社製USBマウスに添付のマニュアルをご覧ください。手順に従ってUSBマウスを接続してください。



メモ

NXパッド（タッチパッド）を無効にしたい場合は、BIOSセットアップユーティリティの「Config」メニュー→「Keyboard/Mouse」の「Trackpad」を「Disabled」に設定してください。



参照

NXパッド（タッチパッド）を無効にする

- 『システム設定』の「システム設定」-「BIOSセットアップユーティリティについて」
- 『システム設定』の「システム設定」-「設定項目一覧」-「「Config」メニュー」

マウスを接続する前の設定に戻す

[020904-27]

マウスを取り外すとき、「マウスを接続するための設定方法 (P. 81)」で変更する前の設定に戻す（NXパッド（タッチパッド）の拡張機能を使用する）場合は、次の操作を行ってください。

当社製USBマウス（添付または別売）を使用している場合

そのままUSBコネクタから取り外してください。



メモ

BIOSの設定でNXパッド（タッチパッド）を無効にした場合は、「他社製のUSBマウスを使用している場合」と同様に、NXパッド（タッチパッド）を有効に戻してください。

他社製のUSBマウスを使用している場合

他社製のUSBマウスを使用している場合は、他社製USBマウスに添付のマニュアルをご覧ください、手順に従ってUSBマウスを取り外してください。



メモ

BIOSの設定でNXパッド（タッチパッド）を無効にした場合は、BIOSセットアップユーティリティの「Config」メニューで次の設定を行い、NXパッド（タッチパッド）を有効に戻してください。
「Keyboard/Mouse」の「Trackpad」を「Enabled」に設定する



参照

NXパッド（タッチパッド）を有効にする

- 『システム設定』の「システム設定」 - 「BIOSセットアップユーティリティについて」
- 『システム設定』の「システム設定」 - 「設定項目一覧」 - 「「Config」メニュー」

液晶ディスプレイ

[021100-27]

本機の液晶ディスプレイの表示の調整や表示できる解像度と表示色、表示に関する機能の設定などについて説明しています。

➤ 使用上の注意.	84
➤ 画面表示の調整.	85
➤ 液晶ディスプレイの回転.	86
➤ 表示できる解像度と表示色.	88
➤ ディスプレイストレッチ機能.	89

使用上の注意

[021101-27]

- 液晶ディスプレイは非常に高精度な技術で作られていますが、色調のズレなど個体差が発生する場合があります。これは液晶ディスプレイの特性によるものであり、故障ではありません。
- OpenGLのアプリケーションを使用した場合、アプリケーションによっては、画面が表示されない、または画面の表示が乱れることがあります。
- DVDの再生画面の上に他のウィンドウを重ねると、コマ落ちや音切れ、およびデスクトップ上のアイコンのちらつきが発生したり、再生画面にゴミが残る場合があります。
- DVDの再生時に画面がちらつく場合があります。また、再生するDVDの種類によっては、コマ落ちが発生する場合があります。
- DVDや動画の再生中は、休止状態やスリープ状態にしないでください。
- 解像度、表示色、または画面の出力先の変更を行う場合は、動画や音楽を再生するアプリケーションを起動したまま行わないでください。
- 動画を再生するアプリケーションによっては、画質が低下する場合があります。
- 本機の液晶ディスプレイを開閉すると、画面がちらつくことがありますが、故障ではありません。

■ 輝度を調整する

キーボードから、一時的に輝度を調整できます。

機能	キー操作	説明
輝度を下げる (▼☀)	【Fn】 + 【F7】	液晶ディスプレイの輝度が下がります。
輝度を上げる (▲☀)	【Fn】 + 【F8】	液晶ディスプレイの輝度が上がります。

液晶ディスプレイの回転

[021106-27]

本機は液晶ディスプレイを180度回転した状態で使用できます。

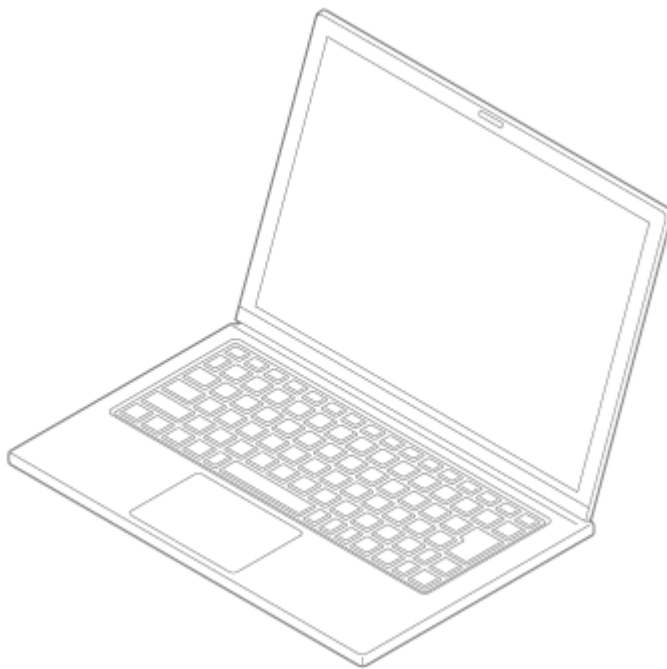


チェック

- フラット スタイルの状態では机などに設置して使用する場合は、そのまま本体を引きずらないでください。パソコンに傷が付いたり、塗装がはがれたりする可能性があります。
- 無理な力で液晶ディスプレイを開閉しないでください。液晶ディスプレイやヒンジ部分が損傷するおそれがあります。

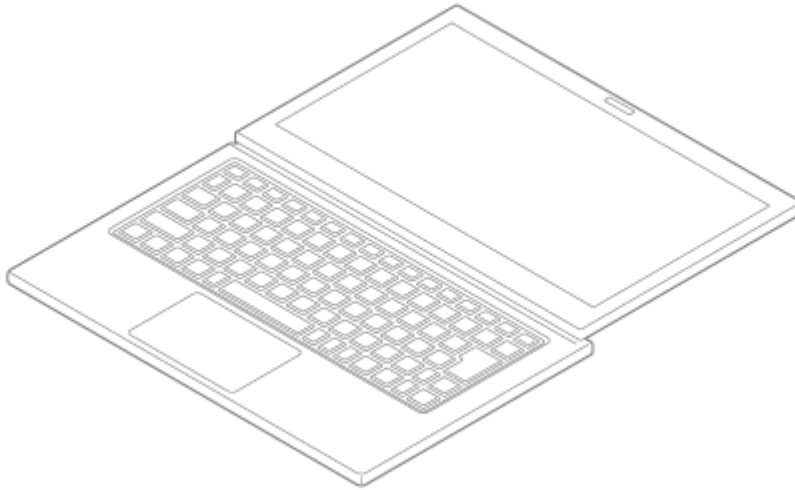
● ノートPC スタイル

文書やメールの作成では、ノートPC スタイルが適しています。



● フラット スタイル

手元で操作しながら対面の相手に図や表を表示したい場合は、フラット スタイルが適しています。



チェック

対面の相手に画面を見せる場合は、画面を回転させることもできます。

画面の向きは、「スタート」ボタン→「コントロール パネル」→「デスクトップのカスタマイズ」の「画面の解像度の調整」で設定してください。

表示できる解像度と表示色

[021103-27]

本製品で利用できる液晶ディスプレイの解像度や表示色については、「仕様一覧」に記載しております。
「サービス&サポート」の「商品情報検索」よりお使いの機種を検索し、「仕様一覧」をご覧ください。

<http://121ware.com/support/>



チェック

設定により、「仕様一覧」に記載されていない解像度を選択することができる場合がありますが、動作を保証するものではありません。必ず記載されている解像度で使用してください。



参照

外部ディスプレイ使用時の解像度と表示色、機能、設定について
「外部ディスプレイ (P. 90)」

ディスプレイストレッチ機能

[021104-27]

ディスプレイストレッチ機能とは、液晶ディスプレイの解像度よりもWindowsの解像度設定が低い場合に、液晶ディスプレイに画面イメージを拡大して表示する機能です。

ディスプレイストレッチ機能を使う場合は次の手順で行います。



チェック

ディスプレイストレッチ機能を使用して拡大表示を行っている場合、表示される文字などの線の太さが不均一になることがあります。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック
- 2 「デスクトップのカスタマイズ」の「画面の解像度の調整」をクリック
- 3 「詳細設定」をクリック
- 4 「インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル」タブをクリックし、「グラフィックス・プロパティ」ボタンをクリック
- 5 「ディスプレイ」をクリック
- 6 「一般設定」をクリック
- 7 「ディスプレイの選択」欄で「内蔵ディスプレイ」を選択する
- 8 「スケーリング」欄で「全画面のスケールにする」を選択する
- 9 「適用」ボタンをクリック
設定の保存を確認するメッセージが表示されます。
- 10 「はい」ボタンをクリック
- 11 「インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル」を閉じる
- 12 「OK」ボタンをクリック

設定が有効になり、ディスプレイストレッチ機能が使用できます。

外部ディスプレイ

[021200-27]

外部ディスプレイで表示可能な解像度や表示色、画面の表示先の切り替えなどについて説明しています。

➤ 使用上の注意.....	91
➤ 外部ディスプレイ接続時の解像度と表示色.....	93
➤ HDMIコネクタ.....	94
➤ Mini DisplayPortコネクタ.....	97
➤ 外部ディスプレイ接続時の表示機能.....	99
➤ 表示先、表示機能の設定.....	100
➤ 画面の出力先を切り替える.....	103
➤ ディスプレイに合わせた設定.....	104

使用上の注意

[021201-27]

- DVDや動画の再生中は、休止状態やスリープ状態にしないでください。
- 解像度、表示色、または画面の出力先の変更を行う場合は、動画や音楽を再生するアプリケーションを起動したまま行わないでください。
- 本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイの同時表示を行っている場合、オーバーレイを使用して再生する動画は、プライマリ側のディスプレイにのみ表示されます。
- デュアルディスプレイ機能使用時に動画を再生し、表示が乱れた場合、デュアルディスプレイ機能を使用せずに本機の液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのみで動画の再生をしてください。
- 高解像度で外部ディスプレイに表示している場合、DVD-Videoの種類によっては、コマ落ち、映像の乱れが発生する場合があります。その場合は、より低い解像度に設定することをおすすめします。
- 外部ディスプレイに表示している状態で、本機の液晶ディスプレイを開閉すると、画面がちらつくことがあります。故障ではありません。
- 外部ディスプレイ接続時にアイコンがメイン ディスプレイに正しく表示されない場合があります。



参照

外部ディスプレイ接続時にアイコンの位置がおかしい場合

「トラブル解決Q&A」の「表示」 - 「[外部ディスプレイ接続時にアイコンの位置がおかしい \(P. 293\)](#)」

HDMIコネクタ使用時の注意

- すべてのHDMI規格に対応した外部ディスプレイやテレビでの動作確認はしておりません。そのため、HDMI規格に対応した外部ディスプレイやテレビによっては正しく表示されない場合があります。
- HDMIケーブルは、別途市販のものをお買い求めください。
- 本機の電源が入っている状態、スリープ状態、および休止状態のときは、HDMIコネクタへのHDMIケーブルの取り付け、取り外しを行わないでください。
- 著作権保護されたコンテンツなどは出力されない場合があります。
- HDMIディスプレイ接続時、リフレッシュレートが30Hz（インターレース）に設定されていると、本機の操作中にちらつく場合があります。その場合はリフレッシュレートを60Hz（プログレッシブ）に変更してください。
- 使用環境によっては、60Hz（プログレッシブ）に変更するか解像度を低くしないと描画性能が上がらない場合があります。
- HDMIディスプレイのタイプによっては、解像度を変更しないと、60Hz（プログレッシブ）に変更できない場合があります。
- HDMI規格に対応した外部ディスプレイやテレビに表示する際に、解像度によっては表示色の変更ができないことがあります。その場合は、いったん別の解像度に変更した後、表示色の変更を行ってから解像度を変更してください。

Mini DisplayPortコネクタ使用時の注意

- すべてのDisplayPort規格に対応した外部ディスプレイでの動作確認はしておりません。そのため、DisplayPort規格に対応した外部ディスプレイによっては正しく表示されない場合があります。
- DisplayPortケーブルは、別途市販のものをお買い求めください。
- 著作権保護されたコンテンツなどは出力されない場合があります。

- DisplayPortディスプレイ接続時、リフレッシュレートが30Hz（インターレース）に設定されていると、本機の実作中にちらつく場合があります。その場合はリフレッシュレートを60Hz（プログレッシブ）に変更してください。
- 使用環境によっては、60Hz（プログレッシブ）に変更するか解像度を低くしないと描画性能が上がらない場合があります。
- DisplayPortディスプレイのタイプによっては、解像度を変更しないと、60Hz（プログレッシブ）に変更できない場合があります。
- パソコンの電源が入っている状態、またはアプリ使用中にMini DisplayPortコネクタからケーブルを取り外さないでください。

外部ディスプレイ接続時の解像度と表示色

[021202-27]

本製品で利用できる外部ディスプレイの解像度や表示色については、「仕様一覧」に記載しております。
「サービス&サポート」の「商品情報検索」よりお使いの機種を検索し、「仕様一覧」をご覧ください。

<http://121ware.com/support/>



チェック

- 外部ディスプレイをご使用の際は、外部ディスプレイのマニュアルで、対応している走査周波数や解像度を確認してください。
- 初回接続時の外部ディスプレイやテレビは、本機の液晶ディスプレイとのクローンモードに設定されます。
- 設定により、マニュアルに記載されていない解像度や周波数を選択できる場合がありますが、動作を保証するものではありません。必ずマニュアルに記載されている解像度や周波数で请使用してください。
- 外部ディスプレイによっては、特定の解像度やリフレッシュレートに設定できないことがあります。

VGA接続の外部ディスプレイ使用時の解像度と表示色について



チェック

- VGA接続の外部ディスプレイと本機を接続するには、VGA変換アダプタが必要です。
- 著作権保護に対応したコンテンツは出力することができません。
- すべてのアナログRGBコネクタを持った外部ディスプレイ、テレビでの動作確認はしていません。

HDMIコネクタ

[021204-27]

➤ HDMIコネクタへの接続.	94
➤ HDMIコネクタ使用時の音声出力について.	94
➤ VGA変換アダプタを使用した接続.	95

HDMIコネクタへの接続

1 本機と接続する外部ディスプレイやテレビの電源を切る

2 HDMIケーブルで、HDMIコネクタとHDMI規格に対応した外部ディスプレイやテレビなどを接続する



参照

HDMIコネクタの位置について
「各部の名称」の「[各部の名称と説明 \(P. 17\)](#)」

3 外部ディスプレイやテレビと、本機の電源を入れる

詳しくは外部ディスプレイやテレビのマニュアルをご覧ください。

以上で外部ディスプレイの接続は完了です。

HDMIコネクタ使用時の音声出力について

HDMIコネクタに映像を出力すると、接続したHDMI機器が音声出力に対応している場合には音声を出力することができます。

自動で切り替わる場合もありますが、自動的に音声切り替わりしない場合は、次の手順で設定を行ってください。

1 サウンドデバイスを使用しているすべてのソフトを終了する

2 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

3 「ハードウェアとサウンド」をクリック

4 「サウンド」をクリック

「サウンド」が表示されます。

5 「再生」タブをクリック

6 「インテル(R) ディスプレイ用オーディオ」を選択して、「既定値に設定」ボタンをクリック

7 「OK」ボタンをクリック

音声はHDMI経由で出力されるようになります。



チェック

HDMIコネクタに映像を出力しているときに音声が出られなくなった場合は、本機を再起動すると改善されることがあります。

VGA変換アダプタを使用した接続

VGA変換アダプタを使用することで、本機とアナログインターフェースの外部ディスプレイやプロジェクタを接続することができます。



チェック

- VGA変換アダプタは、ご購入時に選択した場合に添付されます。また、別途購入することもできます。
- 著作権保護に対応したコンテンツは出力することができません。
- すべてのアナログRGBコネクタを持った外部ディスプレイやテレビでの動作確認はしておりません。そのため、接続する機器やケーブルによっては正しく表示されない、選択できない解像度もあります。

1 本機と接続する外部ディスプレイの電源を切る

2 本機のHDMIコネクタに、VGA変換アダプタを接続する



チェック

VGA変換アダプタは、HDMIコネクタにしっかりと取り付けてください。



参照

HDMIコネクタの位置について
「各部の名称」の「[各部の名称と説明 \(P. 17\)](#)」

3 ディスプレイ用ケーブルをVGA変換アダプタに接続する



チェック

ディスプレイ用ケーブルは、VGA変換アダプタにしっかりと取り付けてください。

4 外部ディスプレイと本機の電源を入れる

詳しくは外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

以上で外部ディスプレイの接続は完了です。



チェック

プロジェクタの接続のしかたは、プロジェクタのマニュアルをご覧ください。また、使用する場合はプロジェクタのマニュアルを参考にして表示解像度（ドット）、垂直走査周波数（Hz）などを確認してください。

Mini DisplayPortコネクタ

[021210-27]

- Mini DisplayPortへの接続. 97
- Mini DisplayPort使用時の音声出力について. 97

Mini DisplayPortへの接続

- 1 本機と接続する外部ディスプレイやテレビの電源を切る**
- 2 市販のMini DisplayPortケーブルで、Mini DisplayPortコネクタとDisplayPort規格に対応した外部ディスプレイなどを接続する**



参照

Mini DisplayPortコネクタの位置について
「各部の名称」の「[各部の名称と説明 \(P. 17\)](#)」

- 3 外部ディスプレイと本機の電源を入れる**

詳しくは外部ディスプレイのマニュアルをご覧ください。

以上で外部ディスプレイの接続は完了です。

Mini DisplayPort使用時の音声出力について

Mini DisplayPortコネクタに映像を出力すると、接続した機器が音声出力に対応している場合には音声を出力することができます。

自動で切り替わる場合もありますが、自動的に音声切り替わりしない場合は、次の手順で設定を行ってください。

- 1 サウンドデバイスを使用しているすべてのソフトを終了する**
- 2 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック**
- 3 「ハードウェアとサウンド」をクリック**
- 4 「サウンド」をクリック**
「サウンド」が表示されます。
- 5 「再生」タブをクリック**

6 接続したディスプレイを選択して、「既定値に設定」ボタンをクリック

7 「OK」ボタンをクリック

音声はDisplayPort経由で出力されるようになります。

外部ディスプレイ接続時の表示機能

[021205-27]

外部ディスプレイを接続して使用する場合、本機の液晶ディスプレイ、または接続した外部ディスプレイのみに表示する他、次の表示機能が使用できます。

デュアルディスプレイ

本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイを使用して、ひとつの画面として表示できる機能です。液晶ディスプレイと外部ディスプレイを続き画面として利用できるのもので、表示できる範囲が広がります。

クローンモード

本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイで同時表示を行います。
表示される内容は同じものですが、選択した解像度によっては本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイが異なる表示状態になる場合があります。



チェック

接続している外部ディスプレイやプロジェクタによっては、これらの機能の選択時に、画面の解像度が変更される場合があります。その場合は、解像度を設定しなおしてください。



参照

表示先や表示機能の設定について
「[表示先、表示機能の設定 \(P. 100\)](#)」

表示先、表示機能の設定

[021206-27]

外部ディスプレイなどを接続した場合、次の方法で表示先、表示機能の設定ができます。



チェック

動画再生のソフトウェアを起動中は、設定の変更を行わないでください。設定の変更を行った場合は、動画再生のソフトウェアを再起動してください。

「インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル」で設定する



チェック

- DVDの再生中に設定を変更する場合は、DVDの再生を停止し、DVD再生のソフトウェアを終了させてから行ってください。
- 本機の液晶ディスプレイと外部ディスプレイに同時に表示している場合、DVDの種類によっては、映像の乱れが発生する場合があります。本機の液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのみに表示させる設定にすることをおすすめします。
- 「拡張デスクトップ」から「クローン・ディスプレイ」へ、または「クローン・ディスプレイ」から「拡張デスクトップ」へ、設定を直接変更できない場合があります。
その場合は、一度「シングル・ディスプレイ」に変更してから、「拡張デスクトップ」または「クローン・ディスプレイ」への変更を行ってください。
- デュアルディスプレイ機能を使用中は、プライマリディスプレイとセカンダリディスプレイの交換ができません。一度、本機の液晶ディスプレイのみの表示などに設定を変更してから、プライマリディスプレイとセカンダリディスプレイを設定しなおしてください。

1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2 「デスクトップのカスタマイズ」の「画面の解像度の調整」をクリック

3 「詳細設定」をクリック

4 「インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル」タブをクリックし、「グラフィックス・プロパティ」ボタンをクリック

5 「ディスプレイ」をクリック

6 「マルチ・ディスプレイ」をクリック

7 「ディスプレイ・モードの選択」欄で表示したい設定を選択する

選択できる表示先、表示機能の設定は次の通りです。

項目	設定される表示先、表示機能
シングル・ディスプレイ	「アクティブ・ディスプレイの選択」で選択した1つのディスプレイのみに表示
クローン・ディスプレイ	クローンモード
拡張デスクトップ	デュアルディスプレイ
コラージュ	複数のディスプレイを1つのディスプレイとして映像を表示

「コラージュ」を選択した場合は、続けて「有効」を選択してください。

8 「アクティブ・ディスプレイの選択」欄で、使用するディスプレイを選択する

一覧には「内蔵ディスプレイ」「PCモニター」などが表示されます。



メモ

- 「シングル・ディスプレイ」を選択した場合、「アクティブ・ディスプレイの選択」欄には、1つのみディスプレイを設定できる欄が表示されます。
- 「クローン・ディスプレイ」「拡張デスクトップ」「コラージュ」を選択した場合は、「アクティブ・ディスプレイの選択」欄に、複数のディスプレイを設定できる欄が表示されます。
- 「拡張デスクトップ」を選択した場合は、「ディスプレイの配置」でディスプレイアイコンをドラッグして、位置を調整することが可能です。
- 「コラージュ」を選択した場合は、「ディスプレイの配置」でディスプレイの位置を選択できます。また、「ベゼル補正」を「有効」に設定して、異なるディスプレイ間のベゼル（ディスプレイのガラス面の外側にあるフレーム部分）の幅分を「ベゼル補正值」に入力すると、連続した表示映像をより自然な状態で表示できます。

9 「適用」ボタンをクリック

設定の保存を確認するメッセージが表示されます。

10 「はい」ボタンをクリック

11 「インテル® HD グラフィックス・コントロール・パネル」を閉じる

12 「OK」ボタンをクリック

以上で表示先、表示機能の設定は完了です。

■ キーボードで設定を切り替える

本機では、キーボードで表示先や表示機能の設定を切り替えることができます。



参照

キーボードを使った設定の切り替えについて
「画面の出力先を切り替える (P. 103)」

画面の出力先を切り替える

[021207-27]

本機は、キーボードから画面の出力先の切り替えを行うことができます。

1 【Fn】 + 【F3】、または【】 + 【P】を押す

選択できる出力先が画面上に表示され、【Fn】 + 【F3】、または【】 + 【P】を押すごとに、出力先が切り替わります。



出力先	説明
コンピューターのみ ／プロジェクターの切断	本機の液晶ディスプレイ
複製	本機の液晶ディスプレイと接続した外部ディスプレイでのクローンモード
拡張	本機の液晶ディスプレイと接続した外部ディスプレイでのデュアルディスプレイ
プロジェクターのみ	本機に接続した外部ディスプレイ

ディスプレイに合わせた設定

[021208-27]

外部ディスプレイ使用時に、表示が適切でない場合やプラグ&プレイに対応していないディスプレイを使用しているときは、次の操作を行ってください。



チェック

プラグ&プレイに対応したディスプレイを使用しても、ディスプレイの情報が反映されない場合があります。その場合も、次の操作を行ってください。

お使いのディスプレイにドライバが用意されている場合

ディスプレイのマニュアルをご覧ください、ドライバのインストールを行ってください。

お使いのディスプレイにドライバが用意されていない場合

次の手順で設定を行ってください。

- 1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック
- 2 「デスクトップのカスタマイズ」の「画面の解像度の調整」をクリック
- 3 外部ディスプレイのモニタアイコンをクリックし、「詳細設定」をクリック
- 4 「モニター」タブをクリックし、「プロパティ」ボタンをクリック
- 5 「ドライバー」タブをクリックし、「ドライバーの更新」ボタンをクリック
「ドライバー ソフトウェアの更新」が表示されます。
- 6 「コンピューターを参照してドライバー ソフトウェアを検索します」をクリック
- 7 「コンピューター上のデバイス ドライバーの一覧から選択します」をクリック
- 8 「互換性のあるハードウェアを表示」のチェックを外す
- 9 「製造元」と「モデル」を選択し、「次へ」ボタンをクリック

一覧に、接続したディスプレイのモデルが表示されない場合は、「製造元」欄で「(標準モニターの種類)」を選択し、「モデル」欄で接続したディスプレイに対応した解像度を選択してください。

10 「閉じる」 ボタンをクリック

11 「閉じる」 ボタンをクリック

12 「OK」 ボタンをクリック

13 「OK」 ボタンをクリック

以上でディスプレイの設定は完了です。

本機のWebカメラやWebカメラアプリケーション「YouCam 5 BE」について説明しています。

➤ Webカメラについて..... 107

Webカメラについて

[023602-27]

➤ 「YouCam 5 BE」 でできること.....	107
➤ 「YouCam 5 BE」 のインストール.....	107
➤ 「YouCam 5 BE」 のアンインストール.....	108

■ 「YouCam 5 BE」 でできること

本機のWebカメラでは、動画・静止画の撮影や、本機に添付されているWebカメラアプリケーション「YouCam 5 BE」と組み合わせて以下のような機能を使用することができます。

- カメラに顔が写らなくなったときに、自動でディスプレイの電源を切り、続いてコンピュータをスリープまたは休止状態に移行する（Face-out）
- コンピュータを監視カメラとして使う
- プレゼンテーションビデオを作成する
- Webカメラ映像にフリーハンドで描画を追加し、インスタントメッセージャーを利用して、テレビ電話で共有する



参照

Webカメラの位置について

「各部の名称」 - 「[各部の名称と説明 \(P. 17\)](#)」

■ 「YouCam 5 BE」 のインストール

「YouCam 5 BE」を使用するには、インストールが必要です。
次の手順でインストールしてください。



チェック

YouCam 5 BEをインストールすると、YouCamのミラー機能が同時にインストールされます。
手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示されたときは、画面の表示を確認し操作してください。



参照

「ユーザー アカウント制御」画面

「はじめに」の「[ユーザー アカウント制御](#)」について (P. 10)」

1

Windowsを起動する

2

光学ドライブに「CyberLink YouCam 5 BE ディスク」をセットする

3

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

4 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

D:¥YouCam(Win7Win8.1)¥Setup.exe

以降は画面の指示に従ってください。

5 「InstallShield Wizard の完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック

6 光学ドライブから「CyberLink YouCam 5 BE ディスク」を取り出す

以上で、「YouCam 5 BE」のインストールは完了です。

「YouCam 5 BE」のアンインストール

「YouCam 5 BE」のアンインストールは次の手順で行います。



チェック

YouCam 5 BEをアンインストールすると、YouCamのミラー機能が同時にアンインストールされます。
手順の途中で「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、画面の表示を確認し操作してください。



参照

「ユーザー アカウント制御」画面

「はじめに」の「[ユーザー アカウント制御](#)について (P. 10)」

1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2 「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

3 「CyberLink YouCam 5」を選択し、「アンインストール」をクリック

アンインストールの確認ダイアログが表示されます。

4 「これにより、CyberLink YouCam 5 はコンピューターから削除されます。続行しますか？」と表示されたら、「はい」ボタンをクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 アンインストールが完了したら、Windowsを再起動する

以上で、「YouCam 5 BE」のアンインストールは完了です。

ハードディスク

[021300-27]

本機のハードディスクの使用上の注意などについて説明しています。

SSDモデルでは、ハードディスクの代わりにSSDが内蔵されています。SSDモデルをお使いの場合は、「[SSD \(P. 111\)](#)」をご覧ください。

● 使用上の注意.....	110
---------------	-----

使用上の注意

[021301-27]

ハードディスクは非常に精密に作られています。次の点に注意して使用してください。

- ハードディスクのデータを破損させる外的な要因には次のようなものがあります。
 - 過度な振動
 - 高熱
 - 落雷
- データの読み書き中（アクセスランプの点灯中）には、少しの衝撃が故障の原因になる場合があります。
- ハードディスクが故障すると、記録されているデータが使用できなくなる場合があります。特に、お客様が作成したデータは再セットアップしても元には戻りません。定期的にバックアップをとることをおすすめします。
- ハードディスクの領域の作成や削除、フォーマットは「コンピューターの管理」の「ディスクの管理」から行います。
- 本機のハードディスクには、「ディスクの管理」でドライブ文字が割り当てられていない領域が表示されます。この領域には、再セットアップ時に必要になる再セットアップ用データが格納されています。
なお、再セットアップ用データの保存されていた領域を削除することはできません。



チェック

ハードディスク内の大切なデータを守り、トラブルを予防するには、定期的にメンテナンスを行うことも大切です。ハードディスクのメンテナンスについては、『メンテナンスとアフターケアについて』をご覧ください。

ハードディスクのデータを保護する

SMART機能

本機のハードディスクは、S.M.A.R.T.（Self Monitoring, Analysis and Reporting Technology）に対応しているため、ハードディスクの異常を検出し、ハードディスクの故障が予見された場合は警告をします。

ハードディスク・アクティブプロテクション・システム



チェック

ハードディスク・アクティブプロテクション・システムは、工場出荷時にはインストールされていません。

落下や振動によるハードディスク損傷の危険性を軽減することができます。



参照

ハードディスク・アクティブプロテクション・システムについて
「セキュリティ機能」の「ハードディスク・アクティブプロテクション・システム (P. 224)」

本機のSSDの使用上の注意について説明しています。

➤ 使用上の注意.....	112
---------------	-----

使用上の注意

[021401-27]

SSDは非常に精密に作られています。次の点に注意して使用してください。

- SSDのデータを破損させる外的な要因には次のようなものがあります。
 - 高熱
 - 落雷
- SSDが故障すると、記録されているデータが使用できなくなる場合があります。特に、お客様が作成したデータは再セットアップしても元には戻りません。定期的にバックアップをとることをおすすめします。
- SSDの領域の作成や削除、フォーマットは「コンピューターの管理」の「ディスクの管理」から行います。
- 本機のSSDには、「ディスクの管理」でドライブ文字が割り当てられていない領域が表示されます。この領域には、再セットアップ時に必要になる再セットアップ用データが格納されています。
なお、再セットアップ用データの保存されていた領域を削除することはできません。



チェック

SSD内の大切なデータを守り、トラブルを予防するには、定期的にメンテナンスを行うことも大切です。SSDのメンテナンスについては、『メンテナンスとアフターケアについて』をご覧ください。

SSDのデータを保護する

SMART機能

本機のSSDは、S.M.A.R.T.（Self Monitoring, Analysis and Reporting Technology）に対応しているため、SSDの異常を検出し、SSDの故障が予見された場合は警告をします。

本機の光学ドライブの使用上の注意や使い方などについて説明しています。

➤ 使用上の注意.....	114
➤ 外付け光学ドライブの取り付け.....	115
➤ 各部の名称と役割.....	116
➤ 使用できるディスク.....	117
➤ 読み込みと再生.....	118
➤ 書き込みとフォーマット.....	120
➤ 非常時のディスクの取り出し方.....	121

使用上の注意

[021601-27]

- 光学ドライブ内のレンズには触れないでください。指紋などの汚れによってデータが正しく読み取れなくなるおそれがあります。
 - アクセスランプの点灯中は、ディスクを絶対に取り出さないでください。データの破損や本機の故障の原因になります。
 - イジェクトボタンを押してからディスクトレイが排出されるまで数秒かかることがあります。
 - ディスクの信号面（文字などが印刷されていない面）に傷を付けないように注意してください。
 - 本機で、次のような形式や規格、異なった形やサイズのディスクは使用できません。無理に使用した場合、再生や作成ができないだけでなく、破損の原因になる場合があります。
 - AVCHD形式またはAVCREC形式のDVD
 - 名刺型、星型などの円形ではない、異形ディスク
 - 厚さが1.2mmを大きく越える、または大きく満たないディスク
 - 規格外に容量の大きな書き込みディスク
- また、特殊な形状のディスクや、ラベルがはってあるなど、重心バランスの悪いディスクを使用すると、ディスク使用時に異音や振動が発生する場合があります。このようなディスクは故障の原因になるため、使用しないでください。
- 光学ドライブにディスクをセットすると、「自動再生」画面が表示される場合があります。その場合は、実行したい操作をクリックしてください。実行したい操作がない場合は、ウィンドウの右上のをクリックしてください。
 - ディスクに飲み物などをこぼした場合、そのディスクは使用しないでください。
 - DVD、CDの表裏を確認して、光学ドライブのディスクトレイ中心の軸に、きちんとセットしてください。

光学ドライブを制限する

本機では、BIOSセットアップユーティリティのI/O制限で、USBコネクタの有効／無効を設定して、光学ドライブの使用を制限することができます。

また、添付のDeviceLock Liteで、光学ドライブに対し、読み込みや書き込みを制限することができます。



参照

- **I/O制限について**
「セキュリティ機能」の「[I/O制限 \(P. 212\)](#)」
- **DeviceLock Liteについて**
「セキュリティ機能」の「[DeviceLock Lite \(P. 226\)](#)」

外付け光学ドライブの取り付け

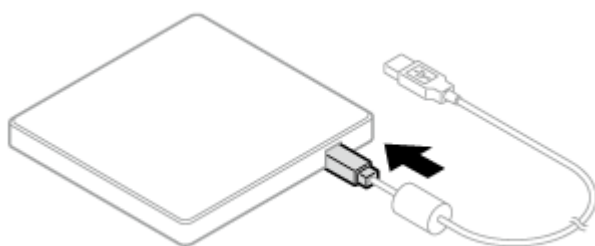
[021608-27]

接続のしかた

外付け光学ドライブを選択した場合に添付される光学ドライブをお使いになるには、次の手順で本機に接続してください。

1 光学ドライブ背面に、光学ドライブ用ケーブルのBマークのある方のプラグを接続する

プラグの向きに注意して、差し込んでください。



2 光学ドライブ用ケーブルを、本機のUSBコネクタに接続する

プラグの向きに注意して差し込んでください。



参照

USBコネクタ使用時の注意

「[USBコネクタ \(P. 182\)](#)」

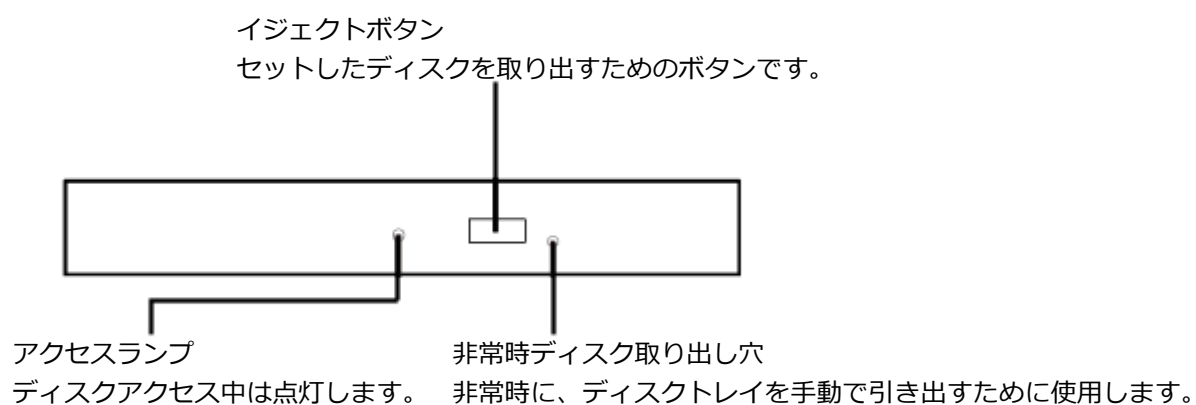
各部の名称と役割

[021602-27]



チェック

アクセスランプ点灯中は電源スイッチやイジェクトボタンを押さないでください。故障の原因になります。



メモ

イジェクトボタンやアクセスランプ、非常時ディスク取り出し穴の位置や形状は、図と多少異なることがあります。
また、アクセスランプがないものもあります。

使用できるディスク

[021603-27]

お使いのモデルの光学ドライブで使えるディスクは異なります。使用できるディスクについては、「サービス&サポート」の「商品情報検索」よりお使いの機種を検索し、「仕様一覧」をご覧ください。

<http://121ware.com/support/>

■ ディスク利用時の注意

- 記録用のDVDには、録画用（for Video）とデータ用（for Data）とがありますので、ご購入の際にはご注意ください。
- DVD-RAMには、カートリッジなしのディスクと、TYPE1（ディスク取り出し不可）、TYPE2（ディスク取り出し可能）、TYPE4（ディスク取り出し可能）の4種類があります。本機の光学ドライブでは、カートリッジなし、またはカートリッジからディスクを取り出せるタイプ（TYPE2、TYPE4）のみご利用になることができます。ご購入の際には、ご注意ください。
- 片面2.6GBのDVD-RAMおよび両面5.2GBのDVD-RAMは使用できません。
- 両面9.4GBのDVD-RAMは面ごとに4.7GBの記録／再生が可能です。同時に両面への記録／再生はできません。ディスクを取り出して、裏返して使用してください。

読み込みと再生

[021604-27]

本機の光学ドライブで、読み込みや再生ができるディスクについては、「サービス&サポート」の「商品情報検索」よりお使いの機種を検索し、「仕様一覧」をご覧ください。

<http://121ware.com/support/>

また、本機でDVDを再生するには、添付の「CyberLink PowerDVD」を使用してください。



チェック

- CyberLink PowerDVDは、工場出荷時にはインストールされていません。
- CyberLink PowerDVDでは音楽CD、ビデオCD、およびDVD-Audioは再生できません。



参照

CyberLink PowerDVDについて

「便利な機能とアプリケーション」の「[CyberLink PowerDVD \(P. 272\)](#)」

ディスク再生時の注意

本機でDVD、CDの読み込みや再生を行うときは、次のことに注意してください。

- 本機で記録したDVD、CDを他の機器で使用する場合、フォーマット形式や装置の種類などにより使用できない場合があります。
- 他の機器で記録したDVD、CDは、ディスク、ドライブ、記録方式などの状況により、本機では再生および再生性能を保証できない場合があります。
- コピーコントロールCDなどの一部の音楽CDは、現在のCompact Discの規格外の音楽CDです。規格外の音楽CDについては、音楽の再生や取り込みができないことがあります。
- 本機で音楽CDを使用する場合、ディスクレーベル面に規格準拠を示すCompact Discのマークの付いたディスクを使用してください。
- CD (Compact Disc) 規格外ディスクを使用すると、正常に再生ができなかったり、音質が低下したりすることがあります。
- CD TEXTのテキストデータ部は、読み出せません。
- 本機では、リージョンコード（国別地域番号）が「ALL」または「2」が含まれているDVDのみ再生することができます。
- 本機で再生できるCDまたはDVDのディスクサイズは8センチと12センチです。
- DVDや動画を再生する際は、再生に使用するアプリケーション以外のソフトウェアを終了することをおすすめします。本機での動画再生には高い処理能力が必要とされ、お使いのモデルや設定によっては、複数のアプリケーションを実行している状態で動画再生を行うと、映像の乱れやコマ落ちが発生する場合があります。
- 内蔵バッテリー無しモデルをお使いの場合、「ECOモード機能」で、省電力を優先する電源プランを割り当てているモードを選択している場合、DVDや動画の再生品質が低下する可能性があります。そのような場合は、「標準」などの性能を優先するモードを選択してください。



参照

ECOモード機能について

「省電力機能」の「[ECOモード機能 \(P. 40\)](#)」

- 本機でDVDを再生する場合、次のことに注意してください。
 - デュアルディスプレイ機能使用時に動画を再生し、表示が乱れた場合、デュアルディスプレイ機能を使用せずに本機の液晶ディスプレイまたは外部ディスプレイのみで動画の再生をしてください。
 - DVDの再生画面の上に他のウィンドウを重ねると、コマ落ちや音飛びが発生したり、再生画面にゴミが残る場合があります。DVDの再生中は、再生画面の上に他のウィンドウを重ねないでください。
 - DVDの再生時に画面がちらつく場合があります。また、再生するDVDの種類によっては、コマ落ちが発生する場合があります。

書き込みとフォーマット

[021605-27]

DVDスーパーマルチドライブモデルで、DVD、CDへの書き込み、書き換え、およびフォーマットをするには、「CyberLink Power2Go」を使用してください。



参照

CyberLink Power2Goについて

「便利な機能とアプリケーション」の「CyberLink Power2Go (P. 269)」



メモ

DVD、CDへの書き込みはWindowsの機能でも行うことができます。選択可能な各フォーマットの説明についてはWindowsのヘルプをご覧ください。

ご注意

- 書き込みに失敗したDVD、CDは読み込みできなくなります。書き込みに失敗したディスク、およびディスクに記録されていたデータの補償はできませんのでご注意ください。
- データの書き込みを行った後に、データが正しく書き込まれているかどうかを確認してください。
- 作成したメディアのフォーマット形式や装置の種類などにより、他の光学ドライブでは使用できない場合がありますのでご注意ください。
- お客様がオリジナルのCD-ROM、音楽CD、ビデオCD、およびDVD-Videoなどの複製や改変を行う場合、著作権を保有していなかったり、著作権者から複製・改変の許諾を得ていない場合は、著作権法または利用許諾条件に違反することがあります。複製などの際は、オリジナルのCD-ROMなどの利用許諾条件や複製などに関する注意事項に従ってください。
- コピーコントロールCDなどの一部の音楽CDは、現在のCompact Discの規格外の音楽CDです。規格外の音楽CDについては、音楽の再生や音楽CDの作成ができないことがあります。

非常時のディスクの取り出し方

[021606-27]

停電やソフトウェアの異常動作などにより、イジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこない場合は、非常時ディスク取り出し穴に太さ1.3mm程の針金を押し込むと、トレイを手動で引き出すことができます。針金は太めのペーパークリップなどを引き伸ばして代用できます。



チェック

- 強制的にディスクを取り出す場合は、本体の電源が切れていることを確認してから行ってください。
- 光学ドライブのイジェクトボタンを押してもディスクトレイが出てこないといった非常時以外は、非常時ディスク取り出し穴を使用して取り出さないようにしてください。

SDメモリーカードスロット

[022700-27]

SDメモリーカードスロットの使用上の注意や使い方などについて説明しています。

➤ 使用上の注意.....	123
➤ セットのしかた／取り出し方.....	125

使用上の注意

[022701-27]

- Windows上でSDメモリーカードのフォーマットやディスクデフラグを行わないでください。各メモリーカード対応機器との互換性や性能などで問題が生じる場合があります。
- 静電気や電氣的ノイズの影響を受ける場所ではSDメモリーカードを使わないでください。
- SDメモリーカードの取り扱いについては、それぞれのSDメモリーカード製品に添付のマニュアルや取扱説明などの指示に従ってください。
- 本機やSDメモリーカードの不具合により、音楽データの録音ができなかったり、データの破損、消去が起きた場合、データの内容の補償はいたしかねます。
- お客様が画像、音楽、データなどを記録（録画・録音などを含む）したものは、個人として楽しむなどのほかは、著作権法上、権利者に無断で使用できません。
- 大切なファイルはコピーして、バックアップを取ることをおすすめします。
- 本機のハードディスク（またはSSD）以外からSDメモリーカードにデータを保存する場合は、一度、本機のハードディスク（またはSSD）にデータを保存し、そこからSDメモリーカードにデータを保存してください。
- データの保存中にスリープ／休止状態にしないでください。メモリーカード内のデータが破損したり誤動作の原因になります。
- 本機がスリープ／休止状態にあるときは、メモリーカードを抜き挿ししないでください。また、スリープ／休止状態から復帰する際は、Windowsのログイン画面またはデスクトップ画面が表示されるまでメモリーカードを抜き挿ししないでください。メモリーカード内のデータが破損したり誤動作の原因になる場合があります。
- すべてのSDメモリーカードの動作を保証するものではありません。
- さまざまな規格のメディアがありますので、本機のSDメモリーカードスロットで使えるメディアかどうかや、メディアの使用方法をお確かめになり、お使いください。
- メモリーカードの端子面が汚れていると、メモリーカードを認識しなかったり、データの読み込み、書き出しができないことがあります。端子面が汚れた場合は、メモリーカードに添付のマニュアルをご覧ください。処置してください。
- メモリーカードにデータを保存中、または読み込み中に周辺機器を接続しないでください。
- DVD、CDを再生中にメモリーカードへの読み書きを行ったり、メモリーカード内の音声や動画ファイルを再生中にファイルのコピーを行うと、音声や動画がとぎれるなどの影響が出る場合があります。

SDメモリーカードを使用するときの注意

- SDメモリーカードは、標準フォーマットとして、それぞれ「SDメモリーカード」規格、「SDHCメモリーカード」規格、「SDXCメモリーカード」規格に準拠したフォーマットで出荷されており、すぐにお使いになれます。フォーマットが必要な場合は、デジタルカメラなどのSDメモリーカード対応機器か、SD規格対応フォーマット機能を搭載したアプリなどでフォーマットを行ってください。デジタルカメラなどでのフォーマット方法については、ご使用の機器などに添付のマニュアルをご覧ください。
- 「miniSDカード」「miniSDHCカード」「microSDカード」「microSDHCカード」「microSDXCカード」を使用するときは、必ず使用するメモリーカードに対応した、SDカード変換アダプタに装着してからセットしてください。詳しくはお使いのメモリーカードの取扱説明書をご覧ください。
- 「microSDカード」「microSDHCカード」「microSDXCカード」をご使用の際、miniSDカード変換アダプタに装着し、さらにSDカード変換アダプタに装着しての動作は保証しておりません。
- 本機では、2Gバイトまでの「SDメモリーカード」、32Gバイトまでの「SDHCメモリーカード」、256Gバイトまでの「SDXCメモリーカード」および128Gバイトまでの「microSDXCメモリーカード」で動作確認を行っています。2Gバイトを超える容量の「SDメモリーカード」、32Gバイトを超える容量の「SDHCメモリーカード」、256Gバイトを

超える容量の「SDXCメモリーカード」および128Gバイトを超える容量の「microSDXCメモリーカード」での動作は保証しておりません。

- 本機は、SDIOには対応していません。
- 裏面に通電性（電気を通す性質）がある金属が使用されているSDメモリーカードや変換アダプタは使用しないでください。本機内部のコネクタと接触し本機やメモリーカードの故障の原因になる場合がありますので、ご注意ください。
- 高速転送規格「UHS-II」はサポートしておりません。また、SDカード変換アダプタを利用した場合、高速転送規格「UHS-I」および「UHS-II」はサポートしておりません。

■ SDメモリーカードスロットを制限する

本機では、BIOSセットアップユーティリティのI/O制限で、SDメモリーカードスロットの有効／無効を設定して、使用を制限することができます。

また、添付のDeviceLock Liteで、SDメモリーカードスロットへの読み込みや書き込みを制限することができます。



参照

- **I/O制限について**
「セキュリティ機能」の「[I/O制限 \(P. 212\)](#)」
- **DeviceLock Liteについて**
「セキュリティ機能」の「[DeviceLock Lite \(P. 226\)](#)」

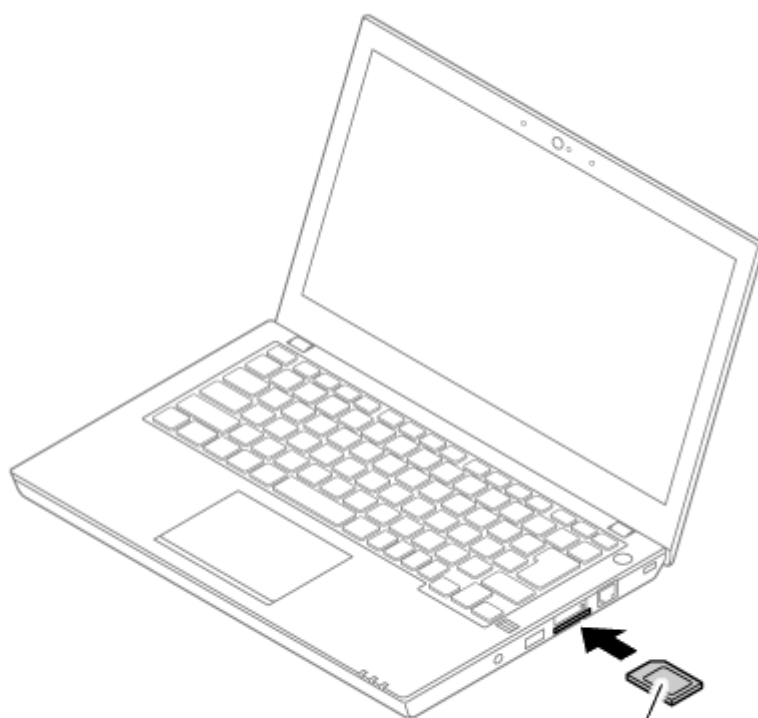
セットのしかた



チェック

- ダミーカードがセットされている場合は、セットをする前に「取り出し方」をご覧ください、ダミーカードを取り出してください。
- 「miniSDカード」、「miniSDHCカード」、「microSDカード」、「microSDHCカード」、および「microSDXCカード」も使用できます。ただしSDカード変換アダプタが必要になります。詳しくは、「[使用上の注意 \(P. 123\)](#)」をご覧ください。
- SDメモリーカードには表面と裏面があり、スロットへ差し込む方向が決まっています。間違った向きで無理やり差し込むと、カードやスロットが破損することがあります。詳しくは、SDメモリーカードに添付のマニュアルをご覧ください。

- 1 SDメモリーカードを向きに注意して、SDメモリーカードスロットに奥までしっかり差し込む**
表面を上にして差し込んでください。



SDメモリーカード

取り外し方

1 タスク バーの通知領域の  をクリックし、 または  をクリック

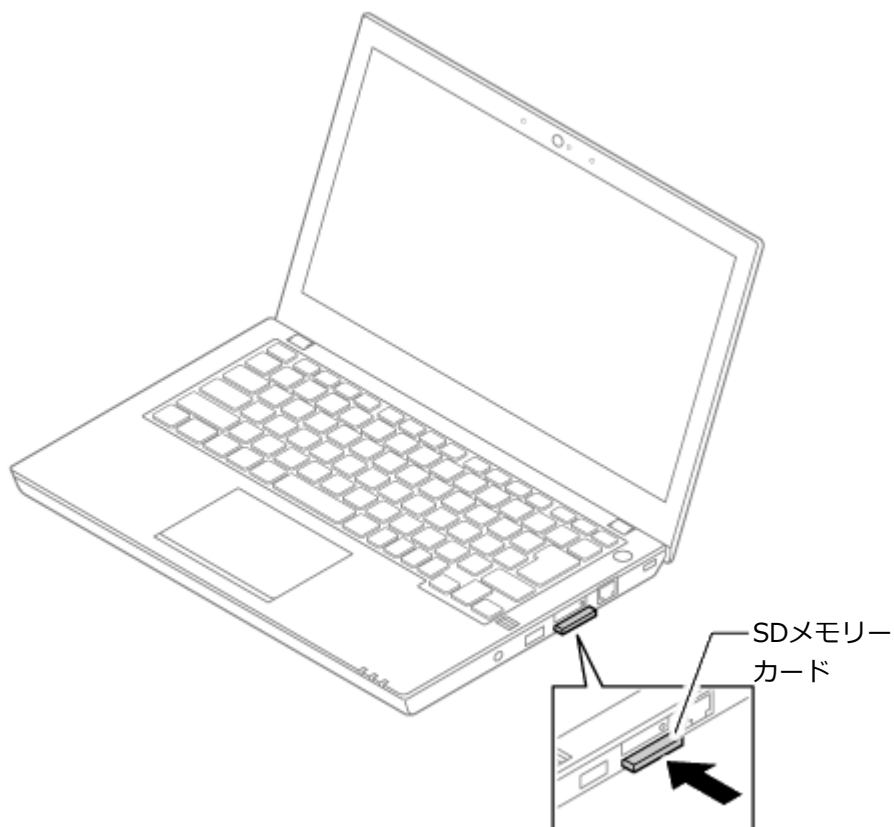
2 表示される「×××××の取り出し」から、取り外す周辺機器をクリック

安全に取り外しができるという内容のメッセージが表示されます。

表示される「×××××の取り出し」に取り外す周辺機器がない場合は手順3に進んでください。

3 SDメモリーカードを押す

SDメモリーカードが飛び出します。



4 SDメモリーカードを水平に引き抜く

本機の音量の調節や、サウンド機能に関する設定などについて説明しています。

- ▶ 音量の調節. 128
- ▶ マイクの設定. 130

音量の調節

[021702-27]

音量ミキサーを使う

Windowsの「音量ミキサー」で音量を調節することができます。

1 タスク バーの通知領域の （音量）をクリック

2 表示されたウィンドウから「ミキサー」をクリック

「音量ミキサー」が表示されます。

3 調節したいデバイスやアプリケーションのスライドで音量を調節する



参照

音量ミキサーについて
Windowsのヘルプ

キーボードで調節する

【Fn】 + 【F10】を押すと音量を大きく、【Fn】 + 【F9】を押すと音量を小さく調節することができます。

音声のオン／オフ（ミュート機能）

【Fn】 + 【F1】を押すと、音声のオン／オフを切り替えることができます。



参照

【Fn】について
「キーボード」の「[キーの使い方 \(P. 68\)](#)」

録音音量の調節

本機で録音音量を調節する場合は次の手順で行ってください。

1 タスク バーの通知領域の （音量）を右クリックし、表示されたメニューから「録音デバイス」をクリック

「サウンド」が表示されます。

ヘッドフォンマイクなどの録音機器を使用する場合は、接続してください。

2 使用する録音デバイスをクリックし、「プロパティ」ボタンをクリック



チェック

- 使用する録音デバイスが表示されていない場合は「次のオーディオ録音デバイスがインストールされています」の枠内を右クリックし、「無効なデバイスの表示」にチェックを入れ、表示されたデバイスを有効にしてください。
- 録音デバイスが複数ある場合は、使用するデバイスをクリックし、「既定値に設定」ボタンをクリックしてください。

3

「レベル」タブをクリックし、表示される画面で録音音量を調節する

4

「OK」ボタンをクリック

5

「OK」ボタンをクリック



チェック

「マイクのプロパティ」の「聴く」タブで「このデバイスを聴く」にチェックを入れないでください。チェックを入れると、常時ハウリングが発生します。

マイクの設定

[021706-27]

■「Realtek HD オーディオマネージャ」で設定する

「Realtek HD オーディオマネージャ」でマイクの設定を行うことができます。マイクの設定では、マイクでの録音時のノイズ抑制やエコーの軽減の設定などが行えます。マイクの設定は、次の手順で行ってください。

1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2 「ハードウェアとサウンド」をクリック

3 「Realtek HD オーディオマネージャ」をクリック

「Realtek HD オーディオマネージャ」が表示されます。

4 「マイク」タブをクリックし、「マイク効果」タブをクリック

5 マイク効果の設定を選択する

6 設定が完了したら「OK」ボタンをクリック

以上でマイクの設定は完了です。

本機のLAN（ローカルエリアネットワーク）機能を使用する際の注意や設定などについて説明しています。

➤ 本機を安全にネットワークに接続するために.	132
➤ 使用上の注意.	134
➤ LANへの接続.	135
➤ LAN機能の設定.	137
➤ リモートパワーオン（WoL（Wake on LAN））機能.	139
➤ ネットワークブート機能（PXE機能）.	143

本機を安全にネットワークに接続するために

[021801-27]

コンピュータウイルスやセキュリティ上の脅威を避けるためには、お客様自身が本機のセキュリティを意識し、常に最新のセキュリティ環境に更新する必要があります。

本機のLAN機能や無線LAN機能を使用して、安全にネットワークに接続するために、次の対策を行うことを強くおすすめします。



チェック

稼働中のネットワークに接続する場合は、接続先のネットワークの管理者の指示に従って接続を行ってください。



メモ

Windowsのセキュリティ機能（アクション センター）では、ファイアウォールの設定、自動更新、マルウェア対策ソフトウェアの設定、インターネットセキュリティの設定、ユーザーアカウント制御の設定などの、コンピュータ上のセキュリティに関する重要事項の状態をチェックすることができます。詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

セキュリティ対策アプリケーションの利用

コンピュータウイルスから本機を守るために、セキュリティ対策アプリケーションをインストールすることをおすすめします。

本機を利用する環境で、使用するセキュリティ対策アプリケーションが定められている場合は、そのアプリケーションを使用してください。

また、本機にはウイルスを検査・駆除するアプリケーションとしてウイルスバスター クラウドが添付されています。



参照

ウイルスバスター クラウドについて

「便利な機能とアプリケーション」の「[ウイルスバスター クラウド \(P. 278\)](#)」

ファイアウォールの利用

コンピュータウイルスによっては、ネットワークに接続ただけで感染してしまう例も確認されています。このようなコンピュータウイルスから本機を守るためにファイアウォール（パーソナルファイアウォール）を利用することをおすすめします。

本機を利用する環境で、ファイアウォールの利用についての規則などがある場合は、そちらの規則に従ってください。また、本機にインストールされているOSでは、標準で「Windows ファイアウォール」機能が有効になっています。「Windows ファイアウォール」について、詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

Windows® Update、またはMicrosoft® Update

最新かつ重要な更新プログラムが提供されています。

Windowsを最新の状態に保つため、ネットワークに接続後、定期的にWindows® Update、またはMicrosoft® Updateを実施してください。



チェック

- PCの安定動作およびセキュリティ向上のため、Windows® Update、またはMicrosoft® Updateを可能な限りOSのセットアップ直後に実施してください。アップデートの前にInternet Explorerのダウングレードなど、必要な作業項目がある場合は、各手順に従って対応してください。
- 本機には更新プログラムがインストールされています。更新プログラムをアンインストールすると、修正されていた問題が発生する可能性がありますので、更新プログラムのアンインストールは行わないでください。

使用上の注意

[021802-27]

LANに接続して本機を使用するときは、次の点に注意してください。

- システム運用中は、LANケーブルを外さないでください。ネットワークが切断されます。ネットワーク接続中にLANケーブルが外れたときは、すぐに接続することで復旧し、使用できる場合もありますが、使用できない場合は、Windowsを再起動してください。
- LAN回線を接続してネットワーク通信をする場合は、本機にACアダプタを接続して使用するようにしてください。バッテリーのみで使用すると、使用時間が短くなります。
- スリープ状態または休止状態では、ネットワーク機能がいったん停止しますので、ネットワークの通信中にはスリープ状態または休止状態にしないでください。
- ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合、使用するアプリケーションによっては、スリープ状態または休止状態から復帰した際にデータが失われることがあります。
あらかじめお使いのアプリケーションについてシステム管理者に確認のうえ、スリープ状態または休止状態を使用してください。
- 1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-Tシステムの保守については、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。

ユニバーサル管理アドレスについて

ユニバーサル管理アドレスは、IEEE（米国電気電子技術者協会）で管理されているアドレスで、主に他のネットワークに接続するときなどに使用します。次のコマンドを入力することで、LANまたは無線LANのユニバーサル管理アドレスを確認することができます。

コマンド プロンプトで次のいずれかのコマンドを入力し、【Enter】を押してください。

コマンド	確認方法
net config workstation	アダプタがアクティブな場合、「アクティブなネットワーク（ワークステーション）」という項目の（ ）内に表示されます。
ipconfig /all	アダプタごとに「物理アドレス」として表示されます。

本機には、1000BASE-T/100BASE-TX/10BASE-T（ギガビットイーサネット）対応のLAN機能が搭載されています。

LANの設置

初めてネットワークシステムを設置するためには、配線工事などが必要ですので、ご購入元または当社指定のサービス窓口にお問い合わせください。また、本機に接続するケーブル類やハブなどは、当社製品を使用してください。他社製品を使用し、システムに異常が発生した場合の責任は負いかねますので、ご了承ください。

接続方法

本機を有線ネットワークに接続するには、別売のLANケーブルが必要です。LANケーブルは、10BASE-Tで接続するにはカテゴリ3以上、100BASE-TXで接続するにはカテゴリ5以上、1000BASE-Tで接続するにはエンハンスドカテゴリ5以上のLANケーブルを使用してください。また、ネットワーク側のコネクタに空きがない場合、ハブやスイッチでコネクタを増やす必要があります。LANケーブルの接続は次の手順で行います。



チェック

- 本機を稼働中のLANに接続するには、システム管理者またはネットワーク管理者の指示に従って、ネットワークの設定とLANケーブルの接続を行ってください。
- 搭載されているLANアダプタは、接続先の機器との通信速度（1000Mbps/100Mbps/10Mbps）を自動検出して最適な通信モードで接続するオートネゴシエーション機能をサポートしています。なお、セットアップが完了したときに、オートネゴシエーション機能は有効に設定されています。接続先の機器がオートネゴシエーション機能をサポートしていない場合は、LANアダプタのプロパティで通信モードを接続先の機器の設定に合わせるか、接続先の機器の通信モードを半二重に設定してください。
- オートネゴシエーションのみサポートしているネットワーク機器でリンク速度を固定して接続する場合、「速度とデュプレックス/スピードと二重」の設定は「ハーフデュプレックス/半二重」に設定してください。「フルデュプレックス/全二重」に設定すると、通信速度が異常に遅かったり、通信ができないなどの問題が発生します。

1

本機の電源を切る

2

LANケーブルをLANコネクタ（品）に接続する



参照

LANコネクタの位置

「各部の名称」の「[各部の名称と説明 \(P. 17\)](#)」

3

ハブなどのネットワーク機器に、LANケーブルのもう一方のコネクタを接続する

4 本機の電源を入れる

ネットワーク側の接続や設定については、接続するネットワーク側の機器のマニュアルをご覧ください。

LAN機能の設定

[021804-27]

ここでは、LANに接続するために必要なネットワークのセットアップ方法を簡単に説明します。



参照

必要な構成要素の詳細について

Windowsのヘルプの中にあるネットワーク関連の項目

ネットワーク接続のセットアップ



チェック

工場出荷時は、ネットワークプロトコル（TCP/IP）が設定されています。

1

「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2

「ネットワークとインターネット」の「ネットワークの状態とタスクの表示」をクリック

3

左のメニューから「アダプターの設定の変更」をクリック

4

「ローカル エリア接続」を右クリックし、表示されたメニューから「プロパティ」をクリック

5

「ネットワーク」タブで必要な構成要素の設定をする



メモ

必要な構成要素がわからない場合は、システム管理者またはネットワーク管理者に相談してください。

6

「OK」ボタンをクリック

7



をクリック

以上でネットワーク接続のセットアップは完了です。
続いて、コンピュータ名などの設定を行います。

接続するネットワークとコンピュータ名の設定

接続するネットワークに関する設定と、ネットワークで表示されるコンピュータ名を設定します。

1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「システム」をクリック

3 「コンピューター名、ドメインおよびワークグループの設定」欄の「設定の変更」をクリック

4 「コンピューター名」タブの「変更」ボタンをクリック

5 「コンピューター名」、「ワークグループ」または「ドメイン」に必要な情報を入力する



メモ

入力する情報がわからない場合は、システム管理者またはネットワーク管理者に相談してください。

6 「OK」ボタンをクリック

「ワークグループ」を変更した場合は「xxx（xxxは設定したワークグループ名）ワークグループへようこそ。」と表示されます。「OK」ボタンをクリックしてください。
確認のメッセージが表示されます。

7 「OK」ボタンをクリック

8 「閉じる」ボタンをクリック

9 再起動を促すメッセージが表示された場合は、「今すぐ再起動する」ボタンをクリック

本機が再起動します。

以上でLANの設定は完了です。

リモートパワーオン (WoL (Wake on LAN)) 機能

[021805-27]

本機におけるLANによるリモートパワーオン (WoL (Wake on LAN)) 機能 (以降、WoL) は次の通りです。

- 電源の切れている状態から電源を入れる
- スリープ状態や休止状態からの復帰

WoLを使うように本機を設定している場合、本機の電源が切れているときも、LANアダプタには通電されています。管理者のパソコンから本機にパワーオンを指示する特殊なパケット (Magic Packet) を送信し、そのパケットを本機の専用コントローラが受信するとパワーオン動作を開始します。

これにより、管理者のパソコンが離れた場所にあっても、LANで接続された本機の電源を入れたり、スリープ状態や休止状態から復帰させることができます。



チェック

- WoLを利用するためには、管理者パソコンにMagic Packetを送信するためのソフトウェア (WebSAM Client Managerなど) のインストールが必要です。
- 前回のシステム終了 (電源を切る、休止状態にする、スリープ状態にする) が正常に行われなかった場合、WoLを行うことはできない、またはWoLで起動してもLANが正常に動作しないことがあります。一度電源スイッチを押してWindowsを起動させ、再度、正常な方法でシステム終了を行ってください。
- WoLを使用する場合は10M/100M/1000M Auto-negotiation機能を搭載したハブを使用してください。サポートする速度が1000MbpsのみのハブではWoLは使用できません。
- WoLの設定を行った場合は、工場出荷時の設定で使う場合にくらべて、本機のバッテリーの消費量が大きくなります。バッテリー駆動時間を優先して本機を使いたい場合は、WoLの設定は行わずに工場出荷時の設定で使用してください。
- WoLを使用する場合は、必ずACアダプタを接続した状態で本機をスリープ状態、休止状態または電源が切れている状態にしてください。

電源の切れている状態からWoLを利用するための設定

電源が切れている状態からWoLを利用するには、次の設定を行ってください。

1

電源を入れ、すぐに【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。



チェック

BIOS セットアップユーティリティが表示されない場合は、いったん本機を再起動して、すぐに【F2】を数回押してください。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて

『システム設定』の「システム設定」 - 「BIOSセットアップユーティリティについて」

- 2 「Config」メニューの「Network」で、「Wake On LAN」を「AC Only」または「AC and Battery」に設定する

- 3 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

- 4 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

以上で設定は完了です。



チェック

必要に応じて、起動時のパスワードの設定も行ってください。



参照

起動時のパスワードの設定

『システム設定』の「システム設定」 - 「設定項目一覧」 - 「Security」メニュー

電源の切れている状態からWoLを利用する設定の解除

電源の切れている状態からWoLを利用する設定を解除する場合は、次の手順で設定を行ってください。

- 1 電源を入れ、すぐに【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。



チェック

BIOS セットアップユーティリティが表示されない場合は、いったん本機を再起動して、すぐに【F2】を数回押してください。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて

『システム設定』の「システム設定」 - 「BIOSセットアップユーティリティについて」

2 「Config」メニューの「Network」で、「Wake On LAN」を「Disabled」に設定する

3 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

4 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

■ スリープ状態または休止状態からWoLを利用するための設定



チェック

- 以下の設定を行う前に、「電源の切れている状態からWoLを利用するための設定」(P. 139)の手順に従って、「Wake On LAN」を「AC Only」または「AC and Battery」に設定してください。
- 以下の設定を行う場合は、管理者（Administrator）権限を持つユーザーで行ってください。

1 「デバイス マネージャー (P. 11)」を開く

2 「ネットワーク アダプター」をダブルクリック

3 表示されたLANアダプタをダブルクリック

4 「詳細設定」タブをクリック

5 「プロパティ」欄の「PME をオンにする」をクリック

6 「値」欄で「有効」が選択されていない場合は、「有効」を選択する

7 「プロパティ」欄の「Wake On Magic Packet」をクリック

8 「値」欄で「有効」が選択されていない場合は、「有効」を選択する

9 「OK」ボタンをクリック

10 再度表示されたLANアダプタをダブルクリック

11 「電源の管理」タブをクリック

12 次の項目を確認し、チェックが付いていない場合はチェックを付ける

- 「電力の節約のために、コンピューターでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」
- 「このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」
- 「Magic Packet でのみ、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」

13 「OK」 ボタンをクリック

14 をクリック

以上で設定は完了です。

スリープ状態または休止状態からWoLを利用する設定の解除

スリープ状態または休止状態からWoLを利用する設定を解除する場合は、次の手順で設定を行ってください。

1 「デバイス マネージャー (P. 11)」を開く

2 「ネットワーク アダプター」をダブルクリック

3 表示されたLANアダプタをダブルクリック

4 「電源の管理」タブをクリック

5 下記の設定項目のチェックを外す

- 「このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」
- 「Magic Packet でのみ、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」

6 「OK」 ボタンをクリック

7 をクリック



チェック

再起動後、「電源の切れている状態からWoLを利用する設定の解除」 (P. 140)の手順に従って、「Wake On LAN」を「Disabled」に設定してください。

以上で設定は完了です。

ネットワークブート機能（PXE機能）

[021806-27]

ネットワークから起動して管理者パソコンと接続し、次の操作を行うことができます。

- OSインストール
- BIOSフラッシュ（BIOS ROMの書き換え）
- BIOS設定変更

ネットワークブートを使用する場合は、BIOSセットアップユーティリティで設定を行ってください。

1 電源を入れ、すぐに【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。



チェック

BIOS セットアップユーティリティが表示されない場合は、いったん本機を再起動して、すぐに【F2】を数回押してください。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて

『システム設定』の「システム設定」 - 「BIOSセットアップユーティリティについて」

2 「Config」メニューの「Network」で、「Ethernet LAN Option ROM」を「Enabled」に設定する

3 「Startup」メニューの「Network Boot」で、「PCI LAN」を選択する

4 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

5 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

以上でネットワークブートを使用するための設定は完了です。

本機の無線LAN機能の概要について説明しています。

- 概要. 145
- 本機を安全にネットワークに接続するために. 147
- 無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意. 149
- 使用上の注意. 151
- 無線LAN機能のオン／オフ. 153
- 無線LANの設定と接続. 156
- 無線LANに関する用語一覧. 166

無線LAN機能でできること

無線LAN機能を使用することで、次のようなことができます。

無線LAN対応周辺機器との無線接続

本機と無線LANに対応した別売の周辺機器を使用すると、ケーブルで接続せずにLANを利用できます。例えば、無線LANに対応したルータやターミナルアダプタなどを利用してインターネットに接続できます。

他の無線LAN対応コンピュータとの無線通信

本機と無線LANに対応した他のコンピュータとの間で、ケーブル接続やメモリーカードなどの媒体を使用せずに、ファイルのコピーなどが行えます。



チェック

- 無線LAN機能は、周囲にあるIEEE802.11a (5GHz)、IEEE802.11b (2.4GHz)、IEEE802.11g (2.4GHz)、IEEE802.11n (2.4/5GHz) およびIEEE802.11ac (5GHz) に対応した無線LAN機器を検出し、このうち1台を選択して接続できます。
- 40MHz、80MHzの帯域幅を利用した無線LAN通信を行うには、接続先の無線LAN機器もそれらの帯域幅に対応している必要があります。
- IEEE802.11n (2.4/5GHz) 規格、またはIEEE802.11ac (5GHz) 規格による無線通信を行う際は、暗号化方式をAESに設定してください。それ以外の方式に設定した場合、これらの規格が利用できません。
- WPA - エンタープライズ、WPA2 - エンタープライズまたは認証機能 (IEEE802.1X) を使用した接続を行う場合は、各項目の設定内容をネットワークの管理者にお問い合わせください。
- IEEE802.11a (5GHz) モード、IEEE802.11n (2.4/5GHz) モード、IEEE802.11ac (5GHz) モードでのアドホック接続はサポートしていません。

無線LAN機能使用上の注意

- 通信速度・通信距離は、無線LAN対応機器や電波環境・障害物・設置環境などの周囲条件によって異なります。
- 電波の性質上、通信距離が離れるに従って通信速度が低下する傾向があります。より快適にお使いいただくために、無線LAN対応機器同士は近い距離で使用することをおすすめします。
- 2.4GHz周波数帯を利用する機器（電子レンジなど）を同時に使用した場合、2.4GHz無線LAN対応機器の通信速度、通信距離が低下する場合があります。2.4GHz無線LAN対応機器と2.4GHz周波数帯を利用する機器（電子レンジなど）は離して使用することをおすすめします。
- Bluetooth機能と無線LAN機能を同時に使用した場合、それぞれの通信速度や通信距離が低下する場合があります。
- 2.4GHz無線LAN対応機器とBluetooth機器など、同じ周波数帯を利用する機器を同時に使用した場合、それぞれの機器の通信速度や通信距離が低下する場合があります。同じ周波数帯を利用する機器はいずれかをオフにするか、離して使用することをおすすめします。
- ネットワークへの接続には、別売の無線LANアクセスポイントなどが必要です。

- 医療機関で使用する場合には、医療機関側が本製品の使用を禁止した区域では、本製品の電源を切るか無線LAN機能をオフにしてください。また、医療機関側が本製品の使用を認めた区域でも、近くで医療機器が使用されている場合には、本製品の電源を切るか無線LAN機能をオフにしてください。
- スリープ状態または休止状態では、ネットワーク機能がいったん停止しますので、ファイルコピーなどの通信動作が終了してからスリープ状態または休止状態にしてください。また、使用するアプリケーションによっては、スリープ状態または休止状態から復帰した際にデータが失われることがあります。ネットワークを使用するアプリケーションを使う場合には、あらかじめお使いのアプリケーションについてシステム管理者に確認の上、スリープ状態または休止状態を使用してください。



参照

無線LAN機能のオン／オフについて
「無線LAN機能のオン／オフ (P. 153)」

無線LAN対応製品との接続

無線LAN対応製品

本製品と接続できる無線LAN対応製品には、無線LAN内蔵コンピュータ、無線LANアクセスポイント、無線LAN周辺機器などがあります。

無線LAN機器同士の接続互換性については、業界団体Wi-Fi Alliance による「Wi-Fi®」認定を取得している、同じ規格の製品をご購入されることをおすすめします。

本機を安全にネットワークに接続するために

[021801-27]

コンピュータウイルスやセキュリティ上の脅威を避けるためには、お客様自身が本機のセキュリティを意識し、常に最新のセキュリティ環境に更新する必要があります。

本機のLAN機能や無線LAN機能を使用して、安全にネットワークに接続するために、次の対策を行うことを強くおすすめします。



チェック

稼働中のネットワークに接続する場合は、接続先のネットワークの管理者の指示に従って接続を行ってください。



メモ

Windowsのセキュリティ機能（アクション センター）では、ファイアウォールの設定、自動更新、マルウェア対策ソフトウェアの設定、インターネットセキュリティの設定、ユーザーアカウント制御の設定などの、コンピュータ上のセキュリティに関する重要事項の状態をチェックすることができます。詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

セキュリティ対策アプリケーションの利用

コンピュータウイルスから本機を守るために、セキュリティ対策アプリケーションをインストールすることをおすすめします。

本機を利用する環境で、使用するセキュリティ対策アプリケーションが定められている場合は、そのアプリケーションを使用してください。

また、本機にはウイルスを検査・駆除するアプリケーションとしてウイルスバスター クラウドが添付されています。



参照

ウイルスバスター クラウドについて

「便利な機能とアプリケーション」の「[ウイルスバスター クラウド \(P. 278\)](#)」

ファイアウォールの利用

コンピュータウイルスによっては、ネットワークに接続ただけで感染してしまう例も確認されています。このようなコンピュータウイルスから本機を守るためにファイアウォール（パーソナルファイアウォール）を利用することをおすすめします。

本機を利用する環境で、ファイアウォールの利用についての規則などがある場合は、そちらの規則に従ってください。また、本機にインストールされているOSでは、標準で「Windows ファイアウォール」機能が有効になっています。「Windows ファイアウォール」について、詳しくはWindowsのヘルプをご覧ください。

Windows® Update、またはMicrosoft® Update

最新かつ重要な更新プログラムが提供されています。

Windowsを最新の状態に保つため、ネットワークに接続後、定期的にWindows® Update、またはMicrosoft® Updateを実施してください。



チェック

- PCの安定動作およびセキュリティ向上のため、Windows® Update、またはMicrosoft® Updateを可能な限りOSのセットアップ直後に実施してください。アップデートの前にInternet Explorerのダウングレードなど、必要な作業項目がある場合は、各手順に従って対応してください。
- 本機には更新プログラムがインストールされています。更新プログラムをアンインストールすると、修正されていた問題が発生する可能性がありますので、更新プログラムのアンインストールは行わないでください。

無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意

[021902-27]

無線LANでは、LANケーブルを使用する代わりに、電波を利用してコンピュータ等と無線LANアクセスポイント間で情報のやり取りを行うため、電波の届く範囲であれば自由にLAN接続が可能であるという利点があります。

その反面、電波はある範囲内であれば障害物（壁等）を越えてすべての場所に届くため、セキュリティに関する設定を行っていない場合、以下のような問題が発生する可能性があります。

● 通信内容を盗み見られる

悪意ある第三者によって、電波を故意に傍受され、

- IDやパスワードまたはクレジットカード番号等の個人情報
- メールの内容

等の通信内容を盗み見られる可能性があります。

● 不正に侵入される

悪意ある第三者によって、無断で個人や会社内のネットワークへアクセスされ、

- 個人情報や機密情報を取り出す（情報漏えい）
- 特定の人物になりすまして通信し、不正な情報を流す（なりすまし）
- 傍受した通信内容を書き換えて発信する（改ざん）
- コンピュータウイルスなどを流しデータやシステムを破壊する（破壊）

などの行為をされてしまう可能性があります。

本来、無線LANカードや無線LANアクセスポイントは、これらの問題に対応するためのセキュリティの仕組みを持っていますので、無線LAN製品のセキュリティに関する設定を行って製品を使用することで、その問題が発生する可能性は少なくなります。

セキュリティの設定を行わないで使用した場合の問題を十分理解した上で、お客様自身の判断と責任においてセキュリティに関する設定を行い、製品を使用することをおすすめします。

なお、無線LANの仕様上、特殊な方法によりセキュリティ設定が破られることもあり得ますので、ご理解の上、ご使用ください。

セキュリティ対策を施さず、あるいは、無線LANの仕様上やむを得ない事情によりセキュリティの問題が発生してしまった場合、当社は、これによって生じた損害に対する責任を負いかねます。

■ 本機で設定できるセキュリティ

盗聴（傍受）を防ぐ

WEP機能を使用して暗号キーを設定すると、同じ暗号キーを使用している通信機器間の無線LAN通信データを暗号化できるので、通信の盗聴や、関係のないコンピュータや機器からの接続を防ぐことができます。WEP機能には64bitWEP対応、128bitWEP対応、152bitWEP対応のものがあり、本機の無線LAN機能は、64bitWEPと128bitWEPに対応しています。ただし、暗号キーを設定していても、暗号キー自体を第三者に知られたり、暗号解読技術によって暗号を解読されたりする可能性があるため、設定した暗号キーは定期的に変更することをおすすめします。



チェック

WEP機能を利用するには、接続する無線LAN対応機器もWEP機能に対応している必要があります。

不正アクセスを防ぐ

- 無線LANアクセスポイントに任意のネットワーク名（SSID）を設定することで、同じSSIDを設定していない通信機器からの接続を回避できます。ただし、同じSSIDを設定していない機器でも、そのネットワークがどんなSSIDを使用しているかは検出できてしまうため、SSIDを設定しただけではセキュリティを保てません。これを回避するには、無線LANアクセスポイント側でSSIDを通知しないようにSSIDの隠ぺいの設定をする必要があります。
- 接続するコンピュータなどのMACアドレス（ネットワークカードが持っている固有の番号）を無線LANアクセスポイントに登録することで、登録した機器以外は無線LANアクセスポイントに接続できなくなります（MACアドレスフィルタリング）。

より高度なセキュリティ設定を行う

Wi-Fi Allianceが提唱するWPA（Wi-Fi Protected Access）やWPA2機能を利用します。IEEE802.1X/EAP（Extensible Authentication Protocol）規格によるユーザー認証、WEP機能に比べて大幅に暗号解読が困難とされる暗号化方式TKIP（Temporal Key Integrity Protocol）やAES（Advanced Encryption Standard）を使用することで、より高度なセキュリティ設定が行えます。



チェック

WPA機能を利用するには、接続する無線LAN対応機器とネットワーク環境がWPA機能をサポートしている必要があります。WPA2機能を利用するには、接続する無線LAN対応機器とネットワーク環境がWPA2機能をサポートしている必要があります。

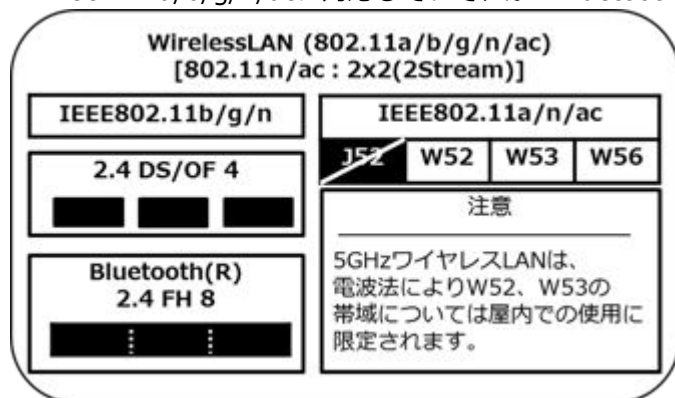
使用上の注意

[021903-27]

- 本製品には、2.4GHz帯高度化小電力データ通信システムが内蔵されています。本製品は、2.4GHz全帯域（2.4GHz～2.4835GHz）を使用する無線設備であり、移動体識別装置の帯域（2.427GHz～2.47075GHz）が回避可能です。変調方式としてDS-SS方式とOFDM方式を採用しており、与干渉距離は40mです。
- 本製品には、5GHz帯小電力データ通信システムが内蔵されています。本製品に内蔵されている無線設備は、5GHz帯域（5.15GHz～5.35GHz、5.47GHz～5.725GHz）を使用しており、以下のチャンネルに対応しています。
 - W52 : Ch36（5180MHz）,Ch40（5200MHz）,Ch44（5220MHz）,Ch48（5240MHz）
 - W53 : Ch52（5260MHz）,Ch56（5280MHz）,Ch60（5300MHz）,Ch64（5320MHz）
 - W56 : Ch100（5500MHz）,Ch104（5520MHz）,Ch108（5540MHz）,Ch112（5560MHz）,Ch116（5580MHz）,Ch120（5600MHz）,Ch124（5620MHz）,Ch128（5640MHz）,Ch132（5660MHz）,Ch136（5680MHz）,Ch140（5700MHz）
- W52、W53無線LANの使用は、電波法令により屋内に限定されます。
- 本製品は、日本国における電波法施行規則第6条第4項第4号「小電力データ通信システムの無線局」を満足した無線設備であり、日本国における端末設備等規則第36条「電波を使用する自営電気通信端末設備」を満足した端末設備です。
分解や改造などを行っての運用は違法であり、処罰の対象になりますので絶対に行わないでください。
また、本製品は日本国以外ではご使用になれません。
- 本製品の電波出力は、一般社団法人電波産業会が策定した「電波防護標準規格（RCR STD-38）」に基づく基準値を下回っています。
- 本製品の使用周波数帯では、電子レンジなどの産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ラインなどで使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。
- 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止してください。
- 自動ドアや火災報知機など、自動制御機器の周辺では、本製品は使用しないでください。自動制御機器の電子回路に影響を与え、誤動作の原因になる場合があります。
- 一般の電話機やテレビ、ラジオ、その他の無線を使用する機器などをお使いになっている近くで本製品を使用すると、それらの機器に影響を与えることがあります（本製品の電源を入／切することで影響の原因になっているかどうか判別できます）。この場合、次のような方法で電波干渉を取り除くようにしてください。
 - 本製品と影響を受けている装置の距離を離してください。
 - 影響を受けている装置が使用しているコンセントと別の電気系統のコンセントから、本製品の電力を供給してください。
 - 電話機やテレビ、ラジオの干渉について経験のある技術者に相談してください。
- トラック無線（CB無線）やアマチュア無線などを違法に改造した無線機から影響を受ける場合には、影響を受ける場所・時間を特定し、ご使用場所の管轄の電波管理局へ申し入れてください。
詳しくは、ご使用場所管轄の電波管理局へお問い合わせください。
- 他の無線機器から影響を受ける場合には、使用周波数帯域を変更するなど、混信回避のための処置を行ってください。
- 電子レンジなど、本製品と同じ周波数帯域を使用する産業・科学・医療用機器から影響を受ける場合には、使用周波数帯域を変更するなど、混信回避のための処置を行ってください。
- 本製品は、電波の特性上、設置場所によって通信距離や通信速度が異なります。

■ ワイヤレス注意ラベル（本体底面）

- IEEE802.11a/b/g/n/acに対応していて、かつBluetoothにも対応している場合



無線LAN機能のオン/オフ

[021904-27]

無線LAN機能のオン/オフを切り替えるには、次の方法があります。

- ワイヤレススイッチ（【Fn】 + 【F2】）で切り替える..... 153
- 「ワイヤレス ネットワーク接続」で切り替える..... 154
- 「Access Connections」で切り替える..... 155



メモ

無線LAN機能のオン/オフの設定は、電源を切った後も保存されます。



チェック

- 無線LAN機能のオン/オフを行う場合は、切り替えが完了したのを確認してから行うようにしてください。
- 他の機器に影響を与える場合や無線LAN機能を使用しない場合は、無線LAN機能をオフにすることをおすすめします。
- BIOSセットアップユーティリティで無線LAN機能そのものを無効にしている場合、これらの方法で無線LAN機能を有効にすることはできません。BIOSセットアップユーティリティで無線LAN機能を有効に設定してから操作を行ってください。
- 無線LAN機能のオン/オフは、Windows モビリティ センターから確認できます。

1

「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2

「ハードウェアとサウンド」をクリックし、「Windows モビリティ センター」をクリック

3

「ワイヤレス ネットワーク」を確認する



参照

BIOSセットアップユーティリティおよび設定項目について

『システム設定』の「システム設定」 - 「BIOSセットアップユーティリティについて」および「設定項目一覧」

ワイヤレススイッチ（【Fn】 + 【F2】）で切り替える

【Fn】 + 【F2】を押すことで、無線LAN機能のオン/オフを切り替えることができます。



チェック

- この方法でオフにした場合、無線LAN機能を含むすべてのワイヤレス機能がオフになります。
- 無線LAN機能を含むワイヤレス機能をオンにしたときに、Bluetoothのドライバのインストールが始まった場合は、インストールが完了するまでお待ちください。また、再起動を促すメッセージが表示された場合は、本機を再起動してください。
- 無線LAN機能を含むワイヤレス機能のオン/オフの際、Bluetoothのドライバの組み込み/取り外しに時間がかかる場合があります。
再度、無線LAN機能を含むワイヤレス機能のオン/オフを行う場合は、Bluetooth機能の切り替えが完了したのを確認してから行うようにしてください。Bluetooth機能の切り替えが完了しないうちに、連続してオン/オフの操作を行わないようにしてください。



参照

【Fn】について

「キーボード」の「[キーの使い方 \(P. 68\)](#)」

「ワイヤレス ネットワーク接続」で切り替える

Windows標準の無線LAN機能を使って、無線LAN機能のオン/オフを切り替えることができます。

オンにする場合

- 1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック
- 2 「ネットワークとインターネット」をクリックし、「ネットワークと共有センター」をクリック
- 3 左側の「アダプターの設定の変更」をクリック
- 4 「ワイヤレス ネットワーク接続」を右クリックし、表示されたメニューから「有効にする」をクリック

オフにする場合

- 1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック
- 2 「ネットワークとインターネット」をクリックし、「ネットワークと共有センター」をクリック
- 3 左側の「アダプターの設定の変更」をクリック
- 4 「ワイヤレス ネットワーク接続」を右クリックし、表示されたメニューから「無効にする」をクリック

■「Access Connections」で切り替える

「Access Connections」を使って、無線LAN機能のオン／オフを切り替えることができます。



参照

Access Connectionsについて

「Access Connections」の「[Access Connectionsでの無線LAN機能のオン／オフ \(P. 256\)](#)」

無線LANの設定と接続

[021905-27]

➤ 無線LANの設定をする.	156
➤ セキュリティとデータの暗号化について.	163
➤ 設定済みの接続先に接続する.	164
➤ 接続を切断する.	165
➤ 接続の確認.	165

無線LANの設定をする



メモ

- セキュリティ設定や周囲の無線環境によっては、接続までに時間がかかる場合や、通信速度が低下する場合があります。
- WPS（Wi-Fi Protected Setup）に対応した無線LANアクセスポイントと接続する場合、PINの入力や、ルーターのボタンを押すことを要求する画面が表示されることがあります。
これらの操作でも無線LANアクセスポイントと接続できますが、機器の組み合わせによっては接続に失敗することもありますので、その場合はセキュリティ キーを入力して接続を行ってください。
- WPSで接続する場合は、セキュリティが自動的に設定されます。
設定されたセキュリティについては、無線LANアクセスポイントの設定画面かマニュアルなどで確認してください。
- PINの記載箇所については、無線LANアクセスポイントのマニュアルをご覧ください。
- 「電源の管理」タブの設定は変更しないでください。
- 「Access Connections」を使用して、設定と接続を行う場合は「便利な機能とアプリケーション」の「[Access Connections \(P. 254\)](#)」をご覧ください。

接続する機器によって、設定手順が異なります。お使いの環境にあわせて設定を行ってください。

5GHzを使用しないで通信を行う場合

工場出荷時の状態では、2.4GHz/5GHzが使用できる設定になっています。屋外利用などで5GHzを使用しない場合は、次の手順で設定を変更してください。

1 「デバイス マネージャー (P. 11)」を開く

2 「ネットワーク アダプター」をダブルクリック

3 「Intel(R) Dual Band Wireless-AC 8260」をダブルクリック

4 「詳細設定」タブをクリック

5 「プロパティ」欄で「ワイヤレス モード」を選択する

6 「値」欄の▼をクリックし、「2. 802.11b」、「3. 802.11g」もしくは「4. 802.11b/g」を選択する

7 「OK」ボタンをクリック

これで設定は完了です。

IEEE802.11n規格による通信（2.4GHz帯のチャンネルを40MHz幅で接続）を行う場合

次の手順で設定を確認してください。

1 「デバイス マネージャー (P. 11)」を開く

2 「ネットワーク アダプター」をダブルクリック

3 「Intel(R) Dual Band Wireless-AC 8260」をダブルクリック

4 「詳細設定」タブをクリック

5 「プロパティ」欄で「2.4 GHz 用 802.11n チャンネル幅」を選択する

6 「値」欄が「自動」になっているかを確認する

「自動」になっていない場合は、▼をクリックして「自動」を選択してください。

7 「OK」ボタンをクリック

これで設定の確認は完了です。

IEEE802.11ac 規格による通信（5GHzモードを使用して接続）を行う場合

次の手順で設定を行ってください。

1 「デバイス マネージャー (P. 11)」を開く

2 「ネットワーク アダプター」をダブルクリック

3 「Intel(R) Dual Band Wireless-AC 8260」をダブルクリック

4 「詳細設定」タブをクリック

5 「プロパティ」欄で「HT モード」を選択する

6 「値」欄の▼をクリックし、「VHT モード」を選択する

7 「OK」ボタンをクリック

これで設定は完了です。

ネットワーク名（SSID）を通知する無線LANアクセスポイントに接続する場合

1 無線LAN機能がオンになっていることを確認する

「無線LAN機能のオン／オフ」をご覧ください。無線LAN機能がオフになっている場合は、無線LAN機能をオンにしてください。



参照

無線LAN機能のオン／オフについて

[「無線LAN機能のオン／オフ \(P. 153\)」](#)

2 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

3 「ネットワークとインターネット」をクリックし、「ネットワークと共有センター」をクリック

4 「ネットワーク設定の変更」欄の「ネットワークに接続」をクリック

ネットワーク名（SSID）と信号状態の一覧が表示されます。

5 接続する無線LANアクセスポイントのネットワーク名（SSID）をクリック



チェック

- 選択した無線LANアクセスポイントに間違いがないか、ネットワーク名（SSID）を確認してください。
- ネットワーク名（SSID）の一覧に接続するネットワーク名（SSID）が表示されない場合は、 ボタンをクリックしてください。それでもネットワーク名（SSID）が表示されない場合は、無線LANアクセスポイントがネットワーク名（SSID）を通知しない設定になっている場合があります。無線LANアクセスポイントの設定を確認し、[「ネットワーク名（SSID）を通知しない無線LANアクセスポイントに接続する場合 \(P. 159\)」](#)の手順で設定を行ってください。

6 「自動的に接続する」にチェックが付いていることを確認して、「接続」ボタンをクリック



メモ

- 「自動的に接続する」のチェックを外した場合、設定は保存されません。
- 自動的に接続する設定は、後から変更できます。

7 「セキュリティ キー」の入力を要求する画面が表示された場合は、接続先に設定されているものと同じネットワーク セキュリティ キーを入力して、「OK」 ボタンをクリック

これで設定は完了です。

ネットワーク名（SSID）を通知しない無線LANアクセスポイントに接続する場合

1 無線LAN機能がオンになっていることを確認する

「無線LAN機能のオン/オフ」をご覧ください。無線LAN機能がオフになっている場合は、無線LAN機能をオンにしてください。



参照

無線LAN機能のオン/オフについて
「無線LAN機能のオン/オフ (P. 153)」

2 「スタート」 ボタン→「コントロール パネル」をクリック

3 「ネットワークとインターネット」をクリックし、「ネットワークと共有センター」をクリック

4 「ネットワーク設定の変更」欄の「新しい接続またはネットワークのセットアップ」をクリック

5 「ワイヤレス ネットワークに手動で接続します」を選択し、「次へ」 ボタンをクリック

ワイヤレス ネットワークの情報を入力する画面が表示されます。

6 「ネットワークがブロードキャストを行っていない場合でも接続する」にチェックを付ける

7 接続先の無線LANアクセスポイントにあわせて設定を行う

- 「ネットワーク名」
接続先の無線LANアクセスポイントのネットワーク名（SSID）を入力します。
- 「セキュリティの種類」、「暗号化の種類」
接続先の無線LANアクセスポイントの設定にあわせて選択します。
セキュリティと暗号化の種類については、「[セキュリティとデータの暗号化について \(P. 163\)](#)」をご覧ください。

- 「セキュリティ キー」

接続先の無線LANアクセスポイントに設定されているものと同じネットワーク セキュリティ キーを入力します。

- 「この接続を自動的に開始します」

チェックを付けると、接続先が通信可能範囲にある場合、自動で接続するように設定されます。

8 「次へ」 ボタンをクリック

9 「正常に <ネットワーク名 (SSID) > を追加しました」と表示されたら、次の手順を行う

- 設定を変更しない場合

手順10に進んでください。

- 設定を変更する場合

「接続の設定を変更します」をクリックし、表示される画面で設定を行ってください。

設定が完了したら「OK」 ボタンをクリックし、手順10へ進んでください。



チェック

接続先の無線LANアクセスポイントにWEPキーが設定されており、暗号化キー番号（キーインデックス）が「1」以外に設定されている場合は、ここで設定を変更する必要があります。「接続の設定を変更します」をクリックし、「セキュリティ」タブの「キー インデックス」で設定を行ってください。

10 「閉じる」 ボタンをクリック

これで設定は完了です。

手順7で「この接続を自動的に開始します」にチェックを付けなかった場合は、「[設定済みの接続先に接続する \(P. 164\)](#)」をご覧ください、手動で接続を行ってください。

コンピュータ同士で通信（アドホック通信）する場合



チェック

- 本機では、IEEE802.11a (5GHz) モード、IEEE802.11n (2.4/5GHz) モード、IEEE802.11ac (5GHz) モードでのアドホック接続はサポートしていません。
- アドホック接続の通信状況が不安定な場合は、一度接続を切断してから電波状況のよい場所にコンピュータを移動させ、再度接続設定を行ってください。

●他のコンピュータに本機を接続する場合

アドホック接続の設定が完了している他のコンピュータと本機を接続する場合は次の手順で行います。

1 無線LAN機能がオンになっていることを確認する

「無線LAN機能のオン／オフ」をご覧ください、無線LAN機能がオフになっている場合は、無線LAN機能をオンにしてください。



参照

無線LAN機能のオン/オフについて
「無線LAN機能のオン/オフ (P. 153)」

- 2 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック
- 3 「ネットワークとインターネット」をクリックし、「ネットワークと共有センター」をクリック
- 4 「ネットワーク設定の変更」欄の「ネットワークに接続」をクリック
ネットワーク名（SSID）と信号状態の一覧が表示されます。
- 5 接続先のコンピュータのネットワーク名（SSID）を選択して、「接続」ボタンをクリック
- 6 「セキュリティ キー」または「パスフレーズ」の入力を要求する画面が表示された場合は、接続先に設定されているものと同じネットワーク セキュリティ キーを入力して、「OK」ボタンをクリック

これで設定は完了です。

●他のコンピュータが本機に接続できるようにする場合

他のコンピュータが接続できるように本機を設定するには次の手順で行います。

- 1 無線LAN機能がオンになっていることを確認する

「無線LAN機能のオン/オフ」をご覧ください。無線LAN機能がオフになっている場合は、無線LAN機能をオンにしてください。



参照

無線LAN機能のオン/オフについて
「無線LAN機能のオン/オフ (P. 153)」

- 2 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック
- 3 「ネットワークとインターネット」をクリックし、「ネットワークと共有センター」をクリック
- 4 「ネットワーク設定の変更」欄の「新しい接続またはネットワークのセットアップ」をクリック
- 5 「ワイヤレス アドホック(コンピューター相互) ネットワークを設定します」を選択し、「次へ」ボタンをクリック
- 6 「次へ」ボタンをクリック

ワイヤレス ネットワークの情報を入力する画面が表示されます。

7 「ネットワーク名」欄にアドホック接続に使用するネットワーク名（SSID）を入力する

8 「セキュリティの種類」を設定する

9 「セキュリティ キー」欄にネットワーク セキュリティ キーを入力する

10 「このネットワークを保存します」にチェックを付けて、「次へ」ボタンをクリック

11 「閉じる」ボタンをクリック

接続設定が保存され、アドホック接続待ちの状態になります。

これで設定は完了です。

アドホック接続を接続待ちの状態にする場合

設定済みのアドホック接続を接続待ちの状態にする場合は次の手順で行います。

1 無線LAN機能がオンになっていることを確認する

「無線LAN機能のオン／オフ」をご覧ください。無線LAN機能がオフになっている場合は、無線LAN機能をオンにしてください。



参照

無線LAN機能のオン／オフについて

[「無線LAN機能のオン／オフ \(P. 153\)」](#)

2 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

3 「ネットワークとインターネット」をクリックし、「ネットワークと共有センター」をクリック

4 「ネットワーク設定の変更」欄の「ネットワークに接続」をクリック

ネットワーク名（SSID）と信号状態の一覧が表示されます。

5 接続待ち状態にするアドホック接続のネットワーク名（SSID）を選択し、「接続」ボタンをクリック

以上で設定は完了です。

セキュリティとデータの暗号化について

セキュリティと暗号化の方式は、無線LANアクセスポイントや接続する機器同士で設定をあわせる必要があります。本機の無線LAN機能で設定できる、セキュリティと暗号化の方式は次の通りです。

選択できるセキュリティと暗号化の方式

●無線LANアクセスポイントに接続する場合

セキュリティの種類	暗号化の種類
認証なし（オープン システム）	なし、WEP
共有キー	WEP
WPA2 - パーソナル	TKIP、AES
WPA - パーソナル	
WPA2 - エンタープライズ	
WPA - エンタープライズ	
802.1X	WEP

●コンピュータ同士で通信（アドホック通信）する場合

セキュリティの種類	暗号化の種類
認証なし（オープン システム）	なし、WEP
WPA2 - パーソナル	AES



メモ

- セキュリティは設定することを強く推奨します。セキュリティの設定を行わない場合は、「無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意 (P. 149)」の内容をご確認の上、使用してください。
- WPA2 - エンタープライズ、WPA - エンタープライズ、および認証機能（IEEE802.1X）を使用した接続を行う場合は、各項目の設定内容をネットワークの管理者にお問い合わせください。

ネットワーク セキュリティ キー

データの暗号化を行う場合、ネットワーク セキュリティ キーを設定します。
ネットワーク セキュリティ キーは、通信を行う無線LANアクセスポイントや相手のコンピュータと同じ設定にします。

暗号化の方式と、ネットワーク セキュリティ キーとして使用できる文字種と文字数は以下の通りです。

●WEPの場合

キーの長さが長い（bit数が大きい）ほど、通信内容の解読がされにくくなり、安全性が高くなります。

入力形式	長さ	キーに使用する文字	説明
ASCIIテキスト	64bit	半角英数字で5文字	相手の機器が64bit暗号キーに対応している場合に使えます。64bitのうち40bitをユーザーが指定し、24bitはシステムが設定します。

16進数		16進数（0～9、A～Fの半角英数字）で10文字	
ASCIIテキスト	128bit	半角英数字で13文字	相手の機器が128bit暗号キーに対応している場合に使えます。128bitのうち104bitをユーザーが指定し、24bitはシステムが設定します。
16進数		16進数（0～9、A～Fの半角英数字）で26文字	

●WPA - パーソナル（TKIP、AES）またはWPA2 - パーソナル（TKIP、AES）の場合

入力されたネットワーク セキュリティ キーを元にして、一定時間ごとにキー自体が自動更新されるため、WEPよりも安全性が高くなります。

入力形式	キーに使用する文字
ASCIIテキスト	半角英数字で8文字以上63文字以下
16進数	16進数（0～9、A～Fの半角英数字）で64文字



チェック

WPA - パーソナルやWPA2 - パーソナルによる暗号化を使用するには、接続する相手の機器も同じセキュリティ機能に対応している必要があります。

■ 設定済みの接続先に接続する

設定済みの接続先に接続するには、次の手順で行います。

1

無線LAN機能がオンになっていることを確認する

「無線LAN機能のオン/オフ」をご覧ください。無線LAN機能がオフになっている場合は、無線LAN機能をオンにしてください。



参照

無線LAN機能のオン/オフについて
[「無線LAN機能のオン/オフ \(P. 153\)」](#)

2

タスク バーの通知領域のネットワークアイコン (📶) をクリック

ネットワーク名 (SSID) と信号状態の一覧が表示されます。



チェック

表示されるアイコンは、接続しているネットワークや接続状況により変化します。

3

接続先をクリックし、「接続」ボタンをクリック

以上で接続は完了です。

接続を切断する

接続中のネットワーク接続を切断するには、次の手順で行います。

1 タスク バーの通知領域のネットワークアイコン (📶) をクリック

ネットワーク名 (SSID) と信号状態の一覧が表示されます。



チェック

表示されるアイコンは、接続しているネットワークや接続状況により変化します。

2 切断する接続先をクリックし、「切断」ボタンをクリック



メモ

現在接続中の接続先には「接続」と表示されています。



チェック

接続の状態の表示は、接続しているネットワークや接続状況により変化します。

以上で切断は完了です。

接続の確認

接続の状態を確認するには、次の手順で行います。

1 タスク バーの通知領域のネットワークアイコン (📶) をクリック

ネットワーク名 (SSID) と信号状態の一覧が表示されます。



チェック

表示されるアイコンは、接続しているネットワークや接続状況により変化します。

2 状態を確認したい接続先にマウスカーソルを合わせる

接続先の詳細な情報が表示されます。



参照

無線LANの設定について

Windows標準の無線LAN機能の詳細については、Windowsのヘルプをご覧ください。

無線LANに関する用語一覧

[021913-27]

ここでは無線LANに関する用語について説明します。無線LANの設定をするときにご覧になると便利です。

用語	説明
AES	Advanced Encryption Standardの略。 米国政府内での情報処理用に採用された「次世代標準暗号化方式」のこと。規定の基準（暗号強度、処理速度など）を満足しており、その仕様も公開されていることから、広い分野での利用が行われている。IEEE802.11iの暗号化方式の1つに採用されている。
ANYプローブ応答禁止	SSIDの問い合わせを拒否する設定。
ANY接続拒否	SSIDを「ANY」にセットした無線LAN端末もしくはSSIDに任意の文字列を入れた端末からの接続を拒否する設定。
EAP	Extensible Authentication Protocolの略。 任意の認証機能を用いるための仕様。ダイヤルアップで用いられるPPP（Point-to-Point Protocol）の拡張として開発された。 ユーザー名・パスワード以外にもスマートカード（ICカード）やデジタル証明書などさまざまな認証方式をサポートできる。EAP-TLS、EAP-TTLSなどがある。
EAP-TLS	Transport Layer Security の略。 EAP方式の認証プロトコルの1つで、利用にはクライアント証明書とサーバ証明書が必要となる。
EAP-TTLS	Tunneled Transport Layer Security の略。 EAP方式の認証プロトコルの1つで、EAP-TLSとは異なり、クライアント証明書は必要とせず、代わりにユーザー名・パスワードが用いられる。
IEEE802.11a	IEEEが標準化した5GHz帯の電波を使い最大54Mbpsの転送速度の無線LANの物理層の規格。
IEEE802.11b	IEEEが標準化した2.4GHz帯の電波を使い最大11Mbpsの転送速度の無線LANの物理層の規格。
IEEE802.11g	IEEEが標準化した2.4GHz帯の電波を使い最大54Mbpsの転送速度の無線LANの物理層の規格。
IEEE802.11i	IEEEが標準化を進めている「無線LAN用セキュリティ規格」認証方式や暗号化方式、暗号化キーの取り扱いなどについて規定している。
IEEE802.11n	IEEEが標準化した2.4GHz、5GHz帯のいずれかの電波を使い最大600Mbps（理論値）の転送速度の無線LANの物理層の規格。
IEEE802.11ac	IEEEが標準化した5GHz帯の電波を使い最大6.93Gbps（理論値）の転送速度の無線LANの物理層の規格。
IEEE802.1X	無線LAN上で認証と動的なキーの生成と配送を行う仕組み。 IEEE標準。有線LANでポートアクセス管理を行うためにも用いられる。EAPとRADIUSを用いる。

MACアドレスフィルタリング	無線LAN端末固有のMACアドレスを無線LANアクセスポイントに設定することで、無線LAN端末を無線LANアクセスポイントに接続するか否かを制御するセキュリティ方式。															
PSK	Pre-Shared Keyの略。 暗号化キーを生成するために用いられる共有（秘密）鍵のこと。この鍵を用いて直接暗号化を行うものではなく、暗号鍵を生成するためのものであることから“事前共有鍵”と呼ばれる。PSKとは、事前共有鍵を用いる認証方式を表す場合がある。															
RADIUS	Remote Authentication Dial-in User Serviceの略。 ネットワークアクセス全般に対する認証、アクセス承認、課金管理を行うプロトコル。															
SSID	Service Set Identifierの略。 無線LANを構成する無線LANアクセスポイントと端末に付けられた識別子のこと。無線LANをグループ化するために用いられる。 無線LANアクセスポイントと端末に同じSSIDが設定されていないと通信できない。無線LANアクセスポイントを中心とした1つのグループであるBSS（Basic Service Set）が、802.11による無線LANのインフラストラクチャ通信の最小単位となるが、複数の無線LANアクセスポイントにまたがった際のローミングを考慮し、BSSを複数束ねたESS（Extended Service Set）が定義されている。このため、SSIDはESSIDと呼ばれることもある。 無線LAN接続ツールによっては、ネットワーク名と記載している場合もある。															
SSIDの隠ぺい	SSIDを無線LANアクセスポイントにより定期的に送信されるビーコン中に含まないように設定すること。															
TKIP	Temporal Key Integrity Protocol の略。 暗号化方式の一種で、WPAの暗号化方式として採用されている。 PSKと呼ばれる“事前共有鍵”を元に暗号化キーを一定のデータ量また時間ごとに生成し、暗号化を行う。															
WEPキー	WEP暗号化方式で用いられる“暗号化キー”のこと。種類は共有（秘密）鍵である。															
WPA	① Wi-Fi Protected Accessの略。 Wi-Fi Alliance が規格化した、新しいセキュリティ規格のこと。 WEP方式よりセキュリティ強度が強化されている。暗号化方式と認証プロトコルにより、以下の4つに分類できる。 <table border="1"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="2">認証</th></tr> <tr> <th>PSK</th><th>EAP</th></tr> <tr> <th rowspan="2">暗号</th><th>TKIP</th><td>(1)</td><td>(2)</td></tr> <tr> <th>AES</th><td>(3)</td><td>(4)</td></tr> </table> ※WPA仕様書では、暗号プロトコル「AES」は必須ではないため、WPAをサポートしていても、AESをサポートしていない場合がある。 ② WPAにて認証に外部サーバを用いる方式を表す。上記表内の（2）または（4）の方式。					認証		PSK	EAP	暗号	TKIP	(1)	(2)	AES	(3)	(4)
		認証														
		PSK	EAP													
暗号	TKIP	(1)	(2)													
	AES	(3)	(4)													
WPA - パーソナル	WPAにて認証に外部サーバも用いない方式を表す。上記表内の（1）または（3）の方式。															
アドホック（ad hoc）通信	無線LANアクセスポイントを使わず、無線LAN端末同士で通信を行うモードの通信。															

暗号化キー	暗号化を行う鍵のことで、暗号化方式により、公開鍵と共有（秘密）鍵の2種類ある。
インフラストラクチャ通信	無線LAN端末と無線LANアクセスポイントを利用した形態の通信。
オープンシステム認証	無線LANの認証方式の1つ。無線LAN端末からは資格情報なしに無線LANアクセスポイントに認証依頼を行い、無線LANアクセスポイントは依頼された認証をそのまま受け入れる。そのため、ネットワークキーによる認証は行われていない（サーバ認証とは別）。
キーインデックス	WEP暗号化方式では、仕様上4つのWEPキーを切り替えることができる。WEP暗号化方式では、無線LANアクセスポイントと無線LAN端末の両方のキーインデックスを同じにしなければいけない。製品によってはキーインデックスの値が「0～3」のものと「1～4」のものがあり、設定に注意しなければならない。
キー更新間隔	暗号化キーを生成するデータ量間隔または時間間隔のこと。
共有キー認証	無線LANの認証方式の1つ。無線LANアクセスポイントと端末はネットワークキーを用いたチャレンジレスポンス認証を行う。
ネットワークキー	共有キー認証の「“認証キー”」と暗号化機能の「“暗号化キー”または“PSK”」の両方に用いられる“キー”のこと。
ネットワーク認証	無線LANの認証方式の総称。オープンシステム認証、共有キー認証、WPA、WPA - パーソナル、WPA2、WPA2 - パーソナルなどがある。
無線LANアクセスポイント	ネットワークに無線LAN端末を接続する機器であり、一般的には有線LANのHUBに相当する機能を持つ。

本機の無線WAN機能について説明しています。無線WANモデルをお使いの場合のみご覧ください。

➤ 概要.....	170
➤ 使用上の注意.....	171
➤ 無線WAN機能を使用する準備.....	173
➤ 無線WAN機能のオン／オフ.....	176
➤ 接続とセキュリティ.....	177

■ 無線WAN機能について

無線WAN（Wide Area Network）機能とは、本機を携帯電話、LAN（Local Area Network）や無線LANアクセスポイントに接続することなく、インターネットなどのデータ通信を行う機能です。

本機はLTE通信に対応した無線WAN機能が搭載されています。



チェック

LTE通信のためには、各キャリアとの回線契約が必要です。

対応周波数帯およびバンドは以下の通りです。

- LTE Band 1 (2100MHz), 3 (1800MHz), 19 (800MHz), 21 (1500MHz)
- 3G Band 1 (2100MHz), 6 (800MHz), 19 (800MHz)

使用上の注意

[022802-27]

- 無線WAN機能をお使いになる前に、添付の『安全にお使いいただくために』を必ずご覧ください。
- ネットワークとの通信中は、本機を休止状態やスリープ状態にしないでください。
- ネットワーク通信をすると、バッテリーのみで使用可能な時間が短くなります。長時間使用するときは、本機にACアダプタを接続し、コンセントからの電源を使用してください。
- 本製品には、日本の電波法に基づき工事設計認証された無線設備が内蔵されています。
- 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに無線WAN機能をオフにしてください。
- 自動ドアや火災報知機など、自動制御機器の周辺では、本製品は使用しないでください。自動制御機器の電子回路に影響を与え、誤動作の原因になる場合があります。
- 植込み型医療機器（心臓ペースメーカ及び除細動器）装着部位から15センチ以上離して使用してください。電波により植込み型医療機器の作動に影響を与える場合があります。
- 装着型医療機器を使用する場合、装着部位から15センチ以上離して使用し、医療機関へもご相談ください。
- 航空機内や医療機関内などの無線機器の使用を禁止された区域では、本製品の電源を切るかモバイルブロードバンドを含むワイヤレス機能をオフにしてください。電子機器や医療機器に影響を与える場合があります。
- トンネル・地下・建物の中や陰などで電波が届かない場所、屋外でも電波の弱い場所、および通信キャリアのサービスエリア圏外では、無線WAN機能を使用できません。
- ビルの高層階など見晴らしの良い場所であっても、無線WAN機能を使用できない場合があります。
- 電波が強い場所で移動せずに使用している場合でも、通信が切れてしまう場合があります。
- 分解や修理・改造をしないでください。本機内部に触ると感電の原因になります。
- ガソリンスタンドなど引火性ガスの発生する場所では、無線WAN機能を含むワイヤレス機能をオフにしてください。爆発や火災が発生するおそれがあります。
- スリープ状態、休止状態、シャットダウン、再起動などに移行する際、通信の切断処理が行われます。データ通信中に状態の移行が行われた場合は、通信中のデータを失うことがあります。
- その他、本製品から移動体識別用特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、ご購入元、またはNECまでご相談ください。
- 本製品（タイプVB）は、Body SARの対象となる無線通信機（モジュールを含む）※1を搭載しており、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準および電波防護の国際ガイドラインに適合しています。
- 無線WAN搭載モデルは、国が定めた電波の人体吸収に関する技術基準※2ならびに、これと同等な国際ガイドラインが推奨する電波防護の許容値を遵守するよう設計されています。この国際ガイドラインは世界保健機関（WHO）が支持するガイドラインと同等のものとなっており、その許容値は使用者の年齢や健康状況に関係なく十分な安全率（約50倍の安全率）となっています。
- 国の法律および国際ガイドラインは電波防護の許容値を人体に吸収される電波の平均エネルギー量を表す比吸収率（SAR : Specific Absorption Rate）で定めており、無線WAN搭載モデルに対する局所SARの許容値は2.0W/kg（手のひらを除く手足は4W/Kg）です。

※1 2014年4月1日現在、対象となる無線通信機（モジュール含む）は、携帯電話、衛星携帯電話およびWiMAX。

※2 技術基準については、電波法関連省令（無線設備規則第14条の2）で規定されています。

Body SARについて、さらに詳しい情報をお知りになりたい方は、下記のホームページをご参照ください。

総務省 電波利用ホームページ：

<http://www.tele.soumu.go.jp/>

<http://www.tele.soumu.go.jp/j/sys/ele/pr/>



参照

- 無線WAN機能のオン／オフ
「無線WAN機能のオン／オフ (P. 176)」
- NECのお問い合わせ先について
『保証規定 & 修理に関するご案内』

無線WAN機能を使用する準備

[022803-27]

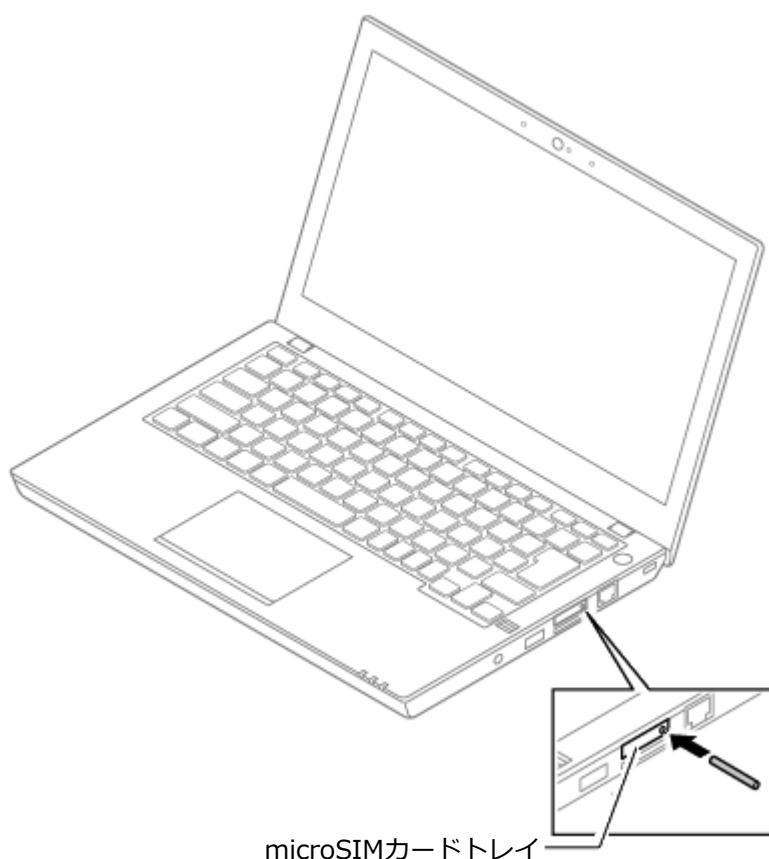
microSIMカードの取り付け／取り外し

microSIMカードの取り付け

本機へのmicroSIMカードの取り付けは、次の手順で行います。

- 1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る**
- 2 電源コードのプラグをACコンセントから抜き、ACアダプタを本機から取り外す**
- 3 太さ0.8mm程の針金をmicroSIMカードトレイの穴に差し込む**

針金はペーパークリップなどを引き伸ばして代用できます。
microSIMカードトレイが少し出てきます。



microSIMカードトレイ

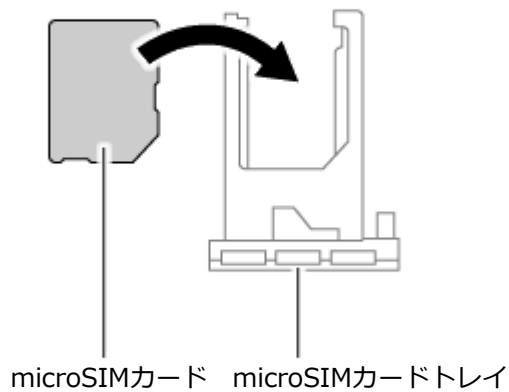


チェック

太さ0.8mmより太い針金は使用しないでください。無理に差し込むとmicroSIMカードトレイの破損の原因となります。

4 microSIMカードトレイをゆっくり引き出す

5 microSIMカードの向きに注意してmicroSIMカードトレイに取り付ける



チェック

- 下側にあるSDカードスロットへ挿入しないようにしてください。破損の原因となります。
- microSIMカードの向きに注意して正しく取り付けてください。誤った向きに取り付けると、故障の原因になります。

6 microSIMカードトレイを挿入し、ACアダプタを取り付ける

microSIMカードの取り外し

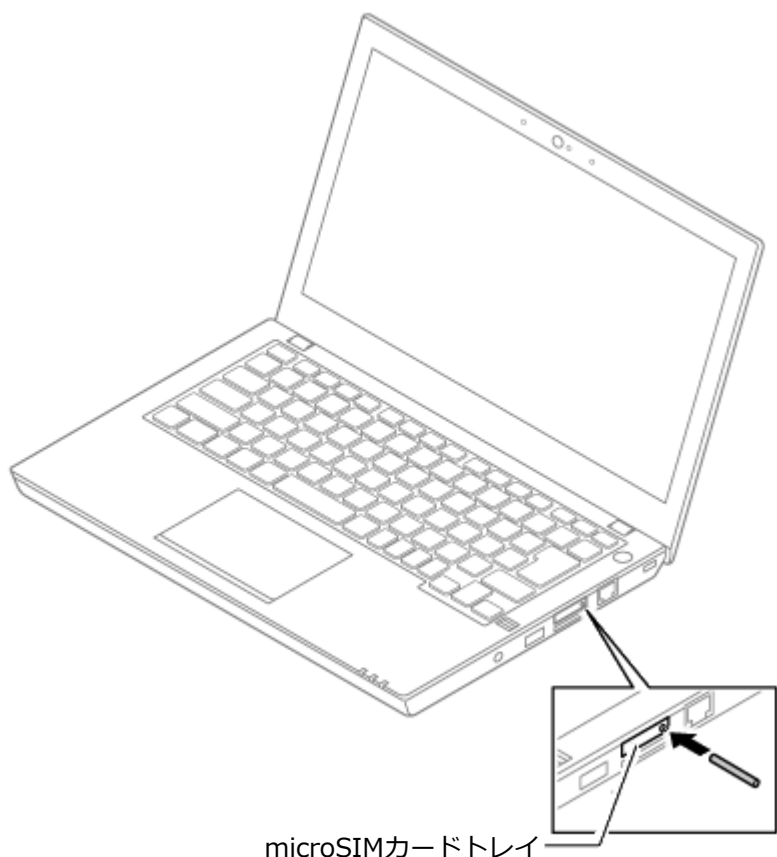
長期間、無線WAN機能を使用しない場合などは、microSIMカードを本機から取り外してください。microSIMカードの取り外しは、次の手順で行います。

1 本機を使用中の場合は、本機の電源を切る

2 電源コードのプラグをACコンセントから抜き、ACアダプタを本機から取り外す

3 太さ0.8mm程の針金をmicroSIMカードトレイの穴に差し込む

針金はペーパークリップなどを引き伸ばして代用できます。
microSIMカードトレイが少し出てきます。



microSIMカードトレイ



チェック

太さ0.8mmより太い針金は使用しないでください。無理に差し込むとmicroSIMカードトレイの破損の原因となります。

4 microSIMカードトレイをゆっくり引き出す

5 microSIMカードを取り外す

6 microSIMカードトレイを挿入し、ACアダプタを取り付ける

無線WAN機能のオン/オフ

[022804-27]

無線WAN機能のオン/オフを切り替えるには、次の方法があります。



メモ

無線WAN機能のオン/オフの設定は、電源を切った後も保存されます。



チェック

- 他の機器に影響を与える場合や無線WAN機能を使用しない場合、無線WAN機能が使用できない環境で本機を使用する場合は、無線WAN機能をオフにしてください。
- BIOSセットアップユーティリティで無線WAN機能そのものを無効にしている場合、これらの方法で無線WAN機能を有効にすることはできません。BIOSセットアップユーティリティで無線WAN機能を有効に設定してから操作を行ってください。

ワイヤレススイッチ（【Fn】 + 【F2】）で切り替える

【Fn】 + 【F2】を押すことで、無線WAN機能のオン/オフを切り替えることができます。



チェック

- この方法でオフにした場合、無線WAN機能を含むすべてのワイヤレス機能がオフになります。
- 無線WAN機能を含むワイヤレス機能のオン/オフは、タスクバーの通知領域のネットワークアイコンの表示により確認できます。

アイコン	状態
	ワイヤレス機能：オン。接続先を設定すればネットワーク通信できます。
	ワイヤレス機能：オフ。ワイヤレス機能がオフになっています。
	ワイヤレス機能：オン（接続中）。アンテナの本数で現在の受信感度の強さを表示しています。



参照

【Fn】について

「キーボード」の「キーの使い方 (P. 68)」

インターネットへの接続／切断

ここでは、本機の無線WAN機能を使用して、インターネットへ接続、または切断する方法について説明します。



チェック

本機は海外での無線WANの使用をサポートしておりません。しかし、契約によっては、国際ローミングにより接続できる場合があります。

その際、データ通信料が非常に高額になる場合がありますので、ご利用の際は十分ご注意ください。

インターネットへの接続

インターネットへの接続は以下の手順で行います。

1 microSIMカードを本体にセットする



参照

microSIMカードの取り付けについて

[「microSIMカードの取り付け／取り外し \(P. 173\)」](#)

2 本機の電源を入れる

3 タスク バーの通知領域にあるワイヤレスアイコンで、無線WAN機能を含むワイヤレス機能がオンになっていることを確認する

オフになっている場合は、「無線WAN機能のオン／オフ」をご覧ください、ワイヤレス機能をオンにしてください。



参照

無線WAN機能のオン／オフについて

「無線LAN機能」の[「無線WAN機能のオン／オフ \(P. 176\)」](#)

4 タスク バーの通知領域のネットワークアイコンまたはをクリック

ネットワーク名と信号状態の一覧が表示されます。



チェック

表示されるアイコンは、接続しているネットワークや接続状況により変化します。

5 「モバイルブロードバンド接続」欄の接続先をクリック



メモ

ネットワーク名は、ネットワークから取得した情報を表示します。固定文字列ではありません。
(例：JP DOCOMO)

6 「接続」をクリック

「ネットワーク接続」画面が表示されます。

7 接続先情報（アクセスポイント名、ユーザー名、パスワード）を入力する

8 「続行」をクリック

9 メニューから自動接続の設定を選択する

- 「ローミング時を除いて自動的に接続する」
- 「常に自動的に接続する」
- 「自動的に接続しない」

10 「続行」をクリック

以上でインターネットへの接続は完了です。

インターネットからの切断

確立したネットワークからの切断は、次の手順で行います。

1 タスク バーの通知領域のネットワークアイコンをクリック

ネットワーク名と信号状態の一覧が表示されます。



チェック

表示されるアイコンは、接続しているネットワークや接続状況により変化します。

2 「モバイルブロードバンド接続」欄の接続先をクリック



メモ

ネットワーク名は、ネットワークから取得した情報を表示します。固定文字列ではありません。
(例：JP DOCOMO)

3 「切断」をクリック

「ネットワーク接続」画面が表示されます。

以上で確立したネットワークからの切断は完了です。

セキュリティの設定

microSIMカードには、第三者による無断使用を防ぐために暗証番号「PIN」が存在します。ここでは「PIN」の設定、利用方法について説明します。



チェック

セキュリティの設定にてPINの認証処理が実行されますが、許容回数以上連続で認証に失敗すると、SIMがブロックされます。
SIMのブロックを解除しない限りインターネットへの接続は行えません。

セキュリティを有効にする

セキュリティを有効にする場合は次の手順で行います。

1 タスク バーの通知領域のネットワークアイコンをクリック

ネットワーク名と信号状態の一覧が表示されます。



チェック

表示されるアイコンは、接続しているネットワークや接続状況により変化します。

2 「モバイルブロードバンド接続」欄の接続先を右クリックして表示されるメニューの「プロパティ」をクリック



メモ

ネットワーク名は、ネットワークから取得した情報を表示します。固定文字列ではありません。
(例：JP DOCOMO)

3 表示された画面の「セキュリティ」タブを選択する

4 「PIN の有効化」 をクリック

PINコードの入力画面が表示されます。

5 現在のPINコードを入力します。

6 「PIN の有効化」 をクリック

7 「PIN が有効になりました。」 と表示されたら、「OK」 をクリック

PIN認証に成功すると、次回以降はネットワークへの接続時にPIN認証によるロック解除が必要となります。

セキュリティを無効にする

セキュリティを無効にする場合は次の手順で行います。

1 タスク バーの通知領域のネットワークアイコン をクリック

ネットワーク名と信号状態の一覧が表示されます。



チェック

表示されるアイコンは、接続しているネットワークや接続状況により変化します。

2 「モバイルブロードバンド接続」 欄の接続先をクリック



メモ

ネットワーク名は、ネットワークから取得した情報を表示します。固定文字列ではありません。
(例：JP DOCOMO)

3 表示された画面の「セキュリティ」タブを選択する

4 「PIN の無効化」 をクリック

PINコードの入力画面が表示されます。

5 現在のPINコードを入力します。

6 「PIN の無効化」 をクリック

7 「PIN が無効になりました。」と表示されたら、「OK」をクリック

PIN認証に成功すると、次回以降はネットワークへの接続時にPIN認証によるロック解除が不要となります。

PINコードの変更

PINコードを変更する場合は次の手順で行います。

1 タスク バーの通知領域のネットワークアイコンをクリック

ネットワーク名と信号状態の一覧が表示されます。



チェック

表示されるアイコンは、接続しているネットワークや接続状況により変化します。

2 「モバイルブロードバンド接続」欄の接続先をクリック



メモ

ネットワーク名は、ネットワークから取得した情報を表示します。固定文字列ではありません。
(例：JP DOCOMO)

3 表示された画面の「セキュリティ」タブを選択する

4 「PIN の変更」をクリック

5 「現在の PIN」欄に現在のPINコードを、「新しい PIN」欄と「新しい PIN の確認入力」欄に新しいPINコードを入力する

6 「PIN の変更」をクリック

7 「PIN コードが変更されました。」と表示されたら、「OK」をクリック

- 使用上の注意..... 183
- USB機器の取り付け／取り外し..... 185

使用上の注意

[022001-27]

- 本機のUSBコネクタには、USB 1.1対応機器、USB 2.0対応機器、USB 3.0対応機器が取り付け可能です。ただし、対応する規格の異なるUSBコネクタにUSB機器を取り付けたときの、動作規格（転送速度）については次の表をご覧ください。

		本体側コネクタ
		USBコネクタ (USB 3.0対応) 
取り付ける機器	USB 1.1対応機器	USB 1.1 (12Mbps※1)
	USB 2.0対応機器	USB 2.0※2 (480Mbps※1)
	USB 3.0対応機器	USB 3.0※3 (5Gbps※1)

※1 記載の速度は理論値（最大）です。

※2 USBハブ、USBケーブルもUSB 2.0に対応したものをを使用する必要があります。

※3 USBハブ、USBケーブルもUSB 3.0に対応したものをを使用する必要があります。

- USB機器の取り付け／取り外しを行うときは、3秒以上の間隔をおいて行ってください。
- USBコネクタにプラグをすばやく抜き差ししたり斜めに差したり半差しにしたりすると、正常に認識されないことがあります。その場合はプラグをUSBコネクタから抜いて、正しく差しなおしてください。
- 初めてUSB機器を取り付けたときに、画面に何も表示されない場合は、USBコネクタにプラグを正しく差し込めていない可能性があります。いったんプラグを抜き、再度差し込んでみてください。
- スリープ状態に移行する前にUSB機器（マウスまたはキーボード以外）を取り外してください。USB機器を取り付けた状態ではスリープ状態に移行または復帰できない場合があります。
- 省電力状態（スリープ状態や休止状態）の時や、省電力状態への移行中、省電力状態からの復帰中は、USB機器の取り付け／取り外しをしないでください。
- 省電力状態への移行中は、取り付けているUSB機器を操作しないでください。
- 外付けUSBハブ経由でUSB機器を使用する場合は、USBハブを本機に取り付けてから、USBハブにUSB機器を取り付けるようにしてください。USB機器を取り付けた状態でUSBハブを本機に取り付けると、USB機器が正常に認識されないことがあります。
- USB機器の有無にかかわらず「デバイス マネージャー」にある「ユニバーサル シリアル バス コントローラー」は削除、無効にしないでください。
- 印刷中にプリンタが停止し、「印刷キュー」に印刷中のドキュメントが残っている場合は、すべてのドキュメントを一度キャンセルし、プリンタに取り付けているUSBケーブルを抜き差ししてから再度印刷してください。
なお、印刷中ドキュメントのキャンセルには時間がかかる場合があります。



メモ

- 本機でのUSB機器の動作確認情報については、各機器に添付のマニュアルをご覧ください。各機器の発売元にお問い合わせください。なお、NEC製のUSB対応機器の情報は、NECの「ビジネスPC」サイト (<http://jpn.nec.com/bpc/>) から、次の手順で確認してください。

1 「サポート情報（ダウンロード）」をクリック

2 「商品情報・ドライバ」にある「製品型番検索」にお使いのモデル型番を入力し、をクリック

お使いのモデルの型番で検索し、取り付け可能なUSB対応機器を確認してください。

- 取り付ける機器によっては、接続ケーブルが必要な場合があります。

USB機器を制限する

本機では、BIOSセットアップユーティリティのI/O制限で、USBコネクタの有効／無効を設定して、USB機器の使用を制限することができます。

また、添付のDeviceLock Liteでも、取り付けているUSB機器単位で読み込みや書き込みを制限することができます。



参照

- **I/O制限について**
「セキュリティ機能」の「[I/O制限 \(P. 212\)](#)」
- **DeviceLock Liteについて**
「セキュリティ機能」の「[DeviceLock Lite \(P. 226\)](#)」

USB機器の取り付け／取り外し

[022002-27]

取り付けの前に

機器によっては、使用するためにドライバやアプリケーションのインストール、設定の変更などが必要になる場合があります。

USB機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。必要な準備を行ってください。



メモ

- 取り付けてすぐ使うことができるUSB機器がありますが、そのままではいくつかの機能が制限される可能性があります。必ず添付のマニュアルをよく読んでください。
- USB機器は、本機の電源を入れたままの状態でも取り付けることができます。取り付け前に電源を切る必要はありません。
- 外付けUSBハブ経由でUSB機器を使用する場合は、はじめにUSBハブを本機に取り付けてから、USBハブにUSB機器を取り付けるようにしてください。

USB機器の取り付け

1 USBコネクタ（USB 3.0対応）（または）にプラグを差し込む

プラグの向きに注意して、止まるまで軽く押し込んでください。

取り付けたUSB機器が正しく本機に認識されたかどうかを確認してください。確認する方法は、機器の種類によって異なります。機器によっては、取り付けた後で別の設定作業が必要になる場合があります。詳しくは、各USB機器に添付のマニュアルなどをご覧ください。

USB機器の取り外し

1 タスク バーの通知領域のをクリックし、またはをクリック

このアイコンが表示されていない場合は手順3に進んでください。

2 表示された「×××××の取り出し」から、取り外したいUSB機器をクリック

安全に取り外しができるという内容のメッセージが表示されます。

表示された「×××××の取り出し」に取り外したいUSB機器がない場合は手順3に進んでください。

3 USB機器を取り外す

以上でUSB機器の取り外しは完了です。

別売の増設RAMボード（以降、メモリ）の取り付け方／取り外し方や増設後の確認方法について説明しています。

- 取り付け前の確認..... 187
- メモリの取り付け／取り外し..... 188
- メモリ変更時の確認..... 194

取り付け前の確認

[022201-27]

取り付けられるメモリ



チェック

- 増設RAMボード（メモリ）を本機に取り付ける場合、必ずNECの「ビジネスPC」サイト（<http://jpn.nec.com/bpc/>）で取り付け可能となっているメモリをお使いください。
なお、市販のメモリに関する動作保証やサポートはNECでは行っていません。販売元にお問い合わせください。
- 最大16GBのメモリを搭載可能ですが、PCIデバイスなどのメモリ領域を確保するために、すべての領域を使用することはできません。なお、装置構成によって利用可能なメモリ容量は異なります。

本機に取り付け可能なメモリの情報は、NECの「ビジネスPC」サイト（<http://jpn.nec.com/bpc/>）から次の手順で確認してください。

1

「サポート情報（ダウンロード）」をクリック

2

「商品情報・ドライバ」にある「製品型番検索」にお使いのモデル型番を入力し、をクリック

お使いのモデルの型番で検索し、取り付け可能なメモリを確認してください。

メモリの取り付け／取り外し

[022202-27]



チェック

- メモリは静電気に大変弱く、身体に静電気を帯びた状態でメモリを扱うと破損する原因になります。メモリに触れる前に、アルミサッシやドアのノブなど身近な金属に手を触れて、静電気を取り除いてください。
- メモリのコネクタ部分には手を触れないでください。接触不良など、故障の原因になります。
- ボード上の部品やハンダ付け面には触れないよう注意してください。
- メモリを間違った向きで無理に取り付けようとすると、本機のコネクタ部やメモリが故障する原因になります。取り付け方向に注意してください。
- 取り付け前に、本機で使えるメモリであることを確認してください。
- 底面カバーのネジをゆるめるため、プラスドライバーを用意してください。
- メモリの取り付け／取り外しをしているときに、ACアダプタを接続したり、電源を入れないようにしてください。また、メモリの取り付け／取り外しを行う前に、BIOSセットアップユーティリティでバッテリーを使用できない状態にしてください。

バッテリーを使用できない状態にする



チェック

- メモリの取り付け／取り外しをする前に、バッテリーを使用できない状態にしてください。
- 再度バッテリーを使用できる状態にするには、本機にACアダプタを取り付けます。

1

本機を使用中の場合は、本機の電源を切る

2

電源コードのプラグをACコンセントから抜き、ACアダプタを本機から取り外す

3

電源を入れ、すぐに【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。



チェック

BIOS セットアップユーティリティが表示されない場合は、いったん本機を再起動して、すぐに【F2】を数回押してください。



参照

『システム設定』の「システム設定」-BIOSセットアップユーティリティについて
「BIOSセットアップユーティリティについて」

4 「Config」メニューの「Power」を選択し、【Enter】を押す

5 「Disable Built-in Battery」を選択し、【Enter】を押す

6 「Yes」が選択されていることを確認し、【Enter】を押す

バッテリーが使用できない状態になり、電源が切れます。

PCが冷たくなるまで3～5分待ちます。

メモリの取り付け

1 バッテリーを使用できない状態にする



参照

バッテリーを使用できない状態にするには
「[バッテリーを使用できない状態にする \(P. 188\)](#)」

2 液晶ディスプレイを閉じて、本体を裏返す

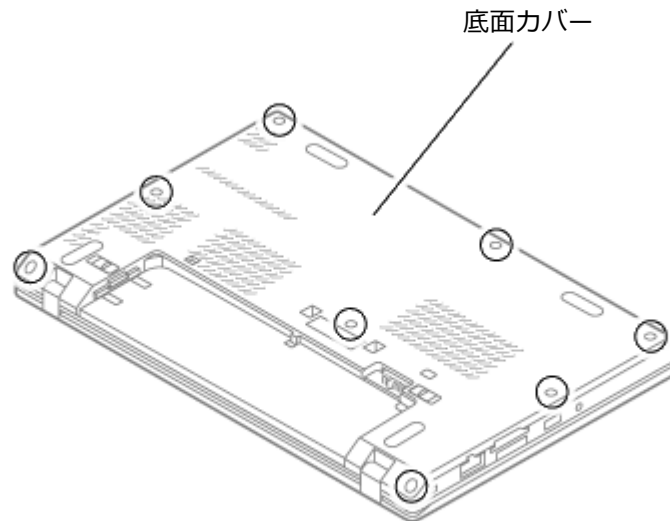
3 バッテリーパックを本体から取り外す



参照

バッテリーパックの取り外しについて
「[バッテリー](#)」の「[バッテリーパックの取り付け／取り外し \(P. 51\)](#)」

4 図のネジをプラスドライバーでゆるめ、底面カバーを取り外す

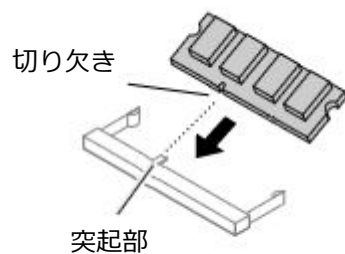


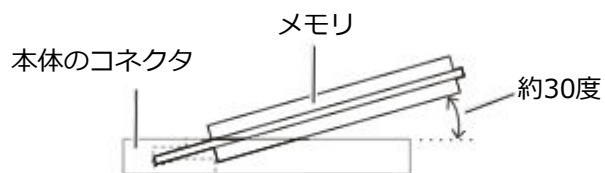
5 メモリの切り欠き部分を本体のコネクタの突起部に合わせ、本体のコネクタに対して約30度の挿入角度で、メモリの端子が当たるまで挿入する



チェック

- メモリ上の部品やハンダ付け面には、手を触れないよう注意してください。メモリを手を持つ際は、メモリの両端面を持つようにしてください。
- メモリの表と裏が逆の場合は、メモリの切り欠きとコネクタの突起部が合わず、挿入することができませんので、よく確認してください。
- 挿入するときに、固いことがあります。奥までしっかり押し込んでください。しっかり押し込まずに次の手順を行うと、コネクタを破損するおそれがあります。
- メモリの基板は薄いため、破損しないよう十分に注意してください。

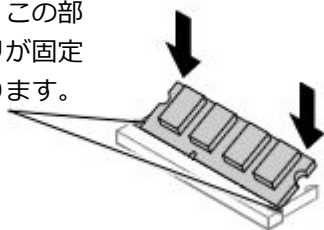




※横から見たところ

6 カチッと音がする位置までメモリを本体のコネクタに強く倒し込む

メモリを倒し込むとき、この部分が左右に開き、メモリが固定されると元の位置に戻ります。

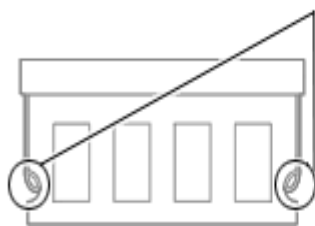


実物と図は多少異なる場合があります。



チェック

両方がロックされ、メモリがコネクタにしっかり固定されたことを確認してください。



7 底面カバーを元に戻してネジを固定する

8 バッテリーパックとACアダプタを取り付ける

ACアダプタを取り付けると、自動的にバッテリーが使用できる状態になります。



参照

バッテリーパックの取り付けについて

「バッテリー」の「[バッテリーパックの取り付け／取り外し \(P. 51\)](#)」

以上でメモリの取り付けは完了です。



メモ

メモリを取り付けた後は、「[メモリ変更時の確認 \(P. 194\)](#)」に従って、変更が正しく行われたかどうか確認してください。

メモリの取り外し

1 バッテリーを使用できない状態にする



参照

バッテリーを使用できない状態にするには
「[バッテリーを使用できない状態にする \(P. 188\)](#)」

2 液晶ディスプレイを閉じて、本体を裏返す

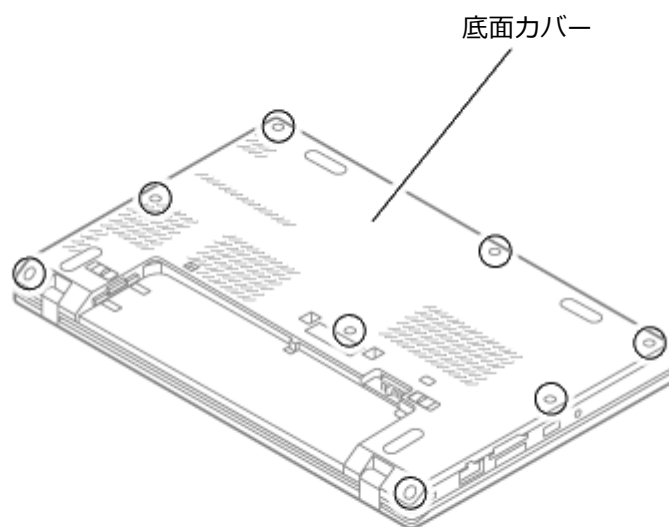
3 バッテリーパックを本体から取り外す



参照

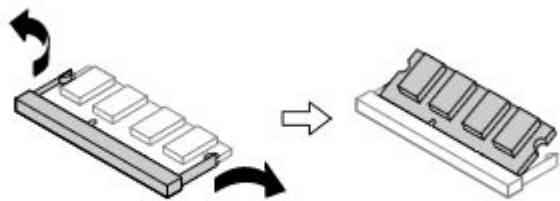
バッテリーパックの取り外しについて
「[バッテリー](#)」の「[バッテリーパックの取り付け／取り外し \(P. 51\)](#)」

4 図のネジをプラスドライバーでゆるめ、底面カバーを取り外す



5 コネクタの両端部分を左右に押し広げる

メモリが図のように起き上がります。



実物と図は多少異なる場合があります。



チェック

- メモリの基板は薄いため、破損しないよう十分に注意してください。
- メモリ上の部品やハンダ付け面には、手を触れないよう注意してください。引き抜くときは、両端面をつかんで引き抜いてください。

6 そのままメモリを斜めに引き抜く

7 底面カバーを元に戻してネジを固定する

8 バッテリーパックとACアダプタを取り付ける

ACアダプタを取り付けると、自動的にバッテリーが使用できる状態になります。



参照

バッテリーパックの取り付けについて

「バッテリー」の「[バッテリーパックの取り付け／取り外し \(P. 51\)](#)」

以上でメモリの取り外しは完了です。



メモ

メモリを取り外した後は、「[メモリ変更時の確認 \(P. 194\)](#)」に従って、変更が正しく行われたかどうか確認してください。

メモリ変更時の確認

[022203-27]

メモリの取り付け／取り外しが正しく行われ、メモリが本機に認識されているかどうかを確認します。

1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2 「システムとセキュリティ」をクリックし、「システム」をクリック

「システム」欄の「実装メモリ（RAM）」に表示されている「***GB」が総メモリ容量です。

メモリ容量が正しくない場合は、メモリが正しく取り付けられているか、再度確認してください。



チェック

- 最大16GBのメモリを搭載可能ですが、PCIデバイスなどのメモリ領域を確保するために、すべての領域を使用することはできません。なお、装置構成によってご利用可能なメモリ容量は異なります。
- BIOSセットアップユーティリティの「Main」メニューでも、確認することができます。
- メモリを増設した後に休止状態の機能を使用する場合は、増設したメモリ容量分のハードディスク（またはSSD）の空き領域が必要です。

本機のBluetooth機能について説明しています。

➤ 概要.....	196
➤ セキュリティに関するご注意.....	198
➤ 使用上の注意.....	199
➤ Bluetooth機能の設定と接続.....	201
➤ Bluetooth機能のオン／オフ.....	206

Bluetooth機能について

Bluetooth（ワイヤレステクノロジー）機能は、Bluetoothワイヤレステクノロジーが搭載された機器とデータ通信を行うBluetooth Special Interest Group（SIG）が策定した世界標準の通信規格です。

Bluetooth機能でできること

次のような、Bluetooth機器とワイヤレスで接続することができます。

- マウスやキーボード
- 携帯電話、タブレット
- ヘッドセット、ヘッドフォン

など

最大で7台のBluetooth機器を同時に接続できます。



チェック

- Bluetooth機能をお使いになる前に、添付の『安全にお使いいただくために』を必ずご覧ください。
- 同時に利用するBluetooth機器の台数が多い場合、通信負荷が大きくなり動作に影響をおよぼすことがあります。
- Bluetooth機器によっては、複数同時に使用できない仕様のものがあります。
- 同じ種類のBluetooth機器でも機能差がある場合があります。
- Bluetooth機能は、すべてのBluetooth機器に対して動作を保証するものではありません。Bluetooth機器の動作環境と接続の可否を確認してください。

接続できる機器

本機のBluetooth機能は、Ver.1.1以降でVer.4.0までのいずれかの規格に対応した機器（マウスやキーボードなど）と接続できます。ただし、接続する機器が、Bluetoothプロファイルに対応している必要があります。また、使用する機器やソフトによっては接続できないことがあります。機器をご購入する前に製造元や販売店に確認してください。

対応しているBluetoothプロファイルについては、「サービス&サポート」の「商品情報検索」よりお使いの機種を検索し、「仕様一覧」をご覧ください。

<http://121ware.com/support/>

シンプルペアリング機能（Ver.2.1以降）に対応した機器と接続する場合は、ペアリングコード（PINコード）を入力することなく機器同士をペアリングすることができます。

また、次の機能が強化されています。

- **省電力機能（Ver.2.1以降）**

Ver.2.0+EDRよりも省電力が強化され、マウスやキーボードなどのバッテリー駆動時間の延長に効果があります。

- **ペアリング機能**

第三者の介入によって情報が傍受される可能性を排除する防御機能が搭載されています。

- **Enhanced Data Rate（EDR）機能**

従来の規格の約3倍（理論上）の速度で通信を行えます。

- **Advanced Frequency Hopping（AFH）機能**

無線LAN（IEEE802.11b/g/n）など、他の2.4GHz帯域を利用する無線機器が利用している周波数を避けて干渉の可能性を低減させます。



チェック

- 回避できる周波数帯域が確保できない場合は、この機能の効果が得られないことがあります。
- 2.4GHz帯域の中でも無線LAN（IEEE802.11n）はより強い干渉を受ける場合があります。

- **Low Energy機能（Ver.4.0以降）**

従来の機器に比べて低消費電力のBluetooth Smart機器（マウスなど）と接続することが可能です。

通信距離と速度

通信できる距離

本機は、相手の機器間と見通して10mの範囲まで通信できます。ただし、10m以内でもデータ通信タイミングを必要とする音楽データ通信などは音とびが発生する場合があります。

通信速度

実際の通信速度は、各通信モードの規格値の半分程度を目安にしてください。

Enhanced Data Rate（EDR）規格に対応した機器同士の最大通信速度は3Mbps（規格値）です。

前述のHSおよびEDRに対応していない機器の場合（Basic Rate:BR）は、最大通信速度（非同期）は1Mbps（規格値）です。



チェック

接続する機器、電波環境、周囲の障害物、設置環境、使用状況、ご使用のソフト、およびOSなどによって、通信速度や距離は大きく変化します。

セキュリティに関するご注意

[023102-27]

Bluetooth機能では、セキュリティを確保するため、機器ごとに割り振られた固有のIDで機器の識別をしています。さらにペアリングコード（PINコード）を設定して接続認証を行ったり、通信データを暗号化することで通信を傍受された場合にもデータの内容を守ることができます。また、通信中に使用する周波数帯域を接続単位ごとにランダムに変更しながら通信することで通信傍受されにくくなっています。



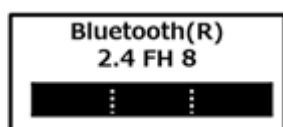
チェック

- これらの設定は危険性をより低くするための手段であり、安全性を100%保証するものではありません。
- 身に覚えのない接続を要求された場合は、無視するか受付をしないでください。

使用上の注意

[023103-27]

- 接続相手と通信中（ファイル転送中やプリンタで印刷中、オーディオ機器で音楽再生中など）に、本機を休止状態やスリープ状態にしないでください。
- 本製品に標準内蔵以外のBluetooth® ワイヤレステクノロジー機器をセットアップして使用しないでください。
- Bluetooth対応オーディオ機器をご使用になる場合は、SCMS-T方式の著作権保護機能をサポートした機器をおすすめします。本機を用いて著作権保護されたデータのコピーを作成することは違法となる場合があります。
- 本製品には、2.4GHz帯高度化小電力データ通信システムが内蔵されています。本製品は、2.4GHz全帯域（2.4GHz～2.4835GHz）を使用する無線設備であり、移動体識別装置の帯域（2.427GHz～2.47075GHz）と重複しており、この重複する周波数帯での干渉を回避することができません。変調方式としてFH-SS方式を採用しており、与干渉距離は80mです。



- 本製品は、日本国における電波法施行規則第6条第4項第4号「小電力データ通信システムの無線局」を満足した無線設備であり、日本国における端末設備等規則第36条「電波を使用する自営電気通信端末設備」を満足した端末設備です。分解や改造などを行っての運用は違法であり、処罰の対象になりますので絶対に行わないでください。また、本製品は日本国以外ではご使用になれません。
- 本製品の電波出力は、一般社団法人 電波産業会が策定した「電波防護標準規格（RCR STD-38）」に基づく基準値を下回っています。
- 本製品の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか、工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）が運用されています。
- 本製品を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局が運用されていないことを確認してください。
- 万一、本製品から移動体識別用の構内無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに電波の発射を停止してください。
- 自動ドアや火災報知機等、自動制御機器の周辺では、本製品は使用しないでください。自動制御機器の電子回路に影響を与え、誤動作の原因になる場合があります。
- 一般の電話機やテレビ、ラジオ、その他の無線を使用する機器などをお使いになっている近くで本製品を使用すると、それらの機器に影響を与えることがあります（本製品の電源を入／切することで影響の原因になっているかどうか判別できます）。この場合、次のような方法で電波干渉を取り除くようにしてください。
 - 本製品と影響を受けている装置の距離を離してください。
 - 影響を受けている装置が使用しているコンセントと別の電気系統のコンセントから、本製品の電力を供給してください。
 - 電話機やテレビ、ラジオの干渉について経験のある技術者に相談してください。
- トラック無線（CB無線）やアマチュア無線などを違法に改造した無線機から影響を受ける場合には、影響を受ける場所・時間を特定し、ご使用場所の管轄の電波管理局へ申し入れてください。詳しくは、ご使用場所の管轄の電波管理局へお問い合わせください。
- 本製品は、電波の特性上、設置場所によって通信距離や通信速度が異なります。
- 本製品は、Bluetooth® ペアリング コード（PINコード）や暗号化機能等を使用することにより、無線ネットワークでの不正アクセスを防止することが可能ですが、日頃からの接続デバイスの管理をされることをおすすめします。

- 病院内や航空機内など電子機器、無線機器の使用が禁止されている区域では使用しないでください。機器の電子回路に影響を与え、誤作動や事故の原因になるおそれがあります。
- 埋め込み型心臓ペースメーカーを装備されているかたは、本商品をペースメーカー装置部から30cm以上離して使用してください。
- その他、本製品から移動体識別用特定小電力無線局に対して電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、NECまたはご購入元にお問い合わせください。

Bluetooth機能の設定と接続

[023104-27]



メモ

安定した通信のため、次の点にご注意ください。

- 本機と接続するBluetooth機器との距離は、できるだけ近くする
- 接続するBluetooth機器との間に障害物を置かないようにする
- 金属製のパソコンラックなどで本機を使用しない
- 通信中は近くで同じ周波数帯域を使用する電子レンジや他の無線機器を使用しない

Bluetooth機器の接続

Bluetooth機器を接続するときは、機器に添付のマニュアルもあわせてご覧ください。

1 接続するBluetooth機器を接続可能な状態にする

2 タスク バーの通知領域の をクリックして表示される (Bluetooth デバイス) をクリックし、表示されたメニューから「デバイスの追加」をクリック



メモ

 (Bluetooth デバイス) がない場合、または  が表示されている場合は、「[Bluetooth機能のオン/オフ \(P. 206\)](#)」をご覧ください、Bluetooth機能をオンにしてください。

「デバイスの追加」画面が表示され、Bluetooth機器が検索され一覧に表示されます。

3 接続するBluetooth機器を選択し、「次へ」ボタンをクリック



チェック

デバイスの追加で認証エラーが発生し自動で接続できない場合には「再実行」をクリックし、デバイスを選んで「次へ」をクリックします。「ペアリングオプションの選択」でデバイスのマニュアルに記載のデバイスのペアリングコードを入力するか、もしくはペアリングコードを使用しないを選択して接続を繰り返してみてください。



メモ

- 接続したい対象が表示されない場合は画面下の「Windows でデバイスが検出されない場合の対処方法」をクリックして対処を実施してください。
- 登録済みのデバイスを確認する場合は、タスク バーの通知領域の  をクリックして表示される  (Bluetooth デバイス) をクリックし、「Bluetooth デバイスの表示」をクリックして一覧を開いて確認してください。

4 「このデバイスは、このコンピューターに正常に追加されました」と表示されたら「閉じる」ボタンをクリック



チェック

- Bluetoothキーボードを接続するときにペアリング コード (PINコード) の入力を求められたときは、画面に表示されたコードを入力して最後に【Enter】を押してください。その他の機器でペアリング コード (PINコード) の入力を求められたときは、その製品に添付のマニュアルなどでご確認ください。
- ドライバのインストール中に本機の動作が遅くなる場合があります。
- ドライバによっては再起動を求められる場合があります。
- Bluetooth対応オーディオ機器を使用する場合は、SCMS-T方式の著作権保護機能をサポートした機器をおすすめします。
- Bluetooth機器によってサポートしている機能に差分があったりアプリケーションソフトが対応できなかったりする場合がありますので、ご購入前にサポート機能の確認を行ってください。



メモ

- Bluetooth対応オーディオ機器 (ステレオヘッドフォンなど) を接続していて音が切れる (音飛びする) 場合は、一度切断して本機のBluetooth側から再接続することをおすすめします。これはオーディオ機器によるホスト処理の負荷が高いため、遅れが出る場合があるからです。解決しない場合は、本機と接続機器の距離を近くするか、バッテリー駆動の機器の場合はバッテリー容量の残量を確認してください。
- 無線LANを使用していない (アクセスポイントに接続していない) ときに、接続しているBluetooth機器の動作が不安定 (オーディオ機器のノイズ、マウスのカクツキなど) な場合は、無線LAN機能のみをオフにしてください。システム処理の負荷を軽減することができます。



参照

無線LAN機能のオン/オフについて

「無線LAN機能」の「[無線LAN機能のオン/オフ \(P. 153\)](#)」

Bluetooth機能の設定を変更する

必要に応じてBluetooth機能の設定を変更することができます。設定の変更は次の手順で行ってください。

- 1 タスク バーの通知領域の  をクリックして表示される  (Bluetooth デバイス) をクリックし、表示されたメニューから「設定を開く」をクリック



メモ



(Bluetooth デバイス) がない場合、または  が表示されている場合は、「Bluetooth機能のオン/オフ (P. 206)」をご覧ください。Bluetooth機能をオンにしてください。

「Bluetooth 設定」 - 「オプション」タブの詳細は、「Bluetooth デバイスの設定を変更します。」をクリックして表示される「Windows ヘルプとサポート」を参照ください。

「Bluetooth 設定」 - 「COM ポート」タブの詳細は、「Bluetooth デバイスの COMポートを選択します。」をクリックして表示される「Windows ヘルプとサポート」を参照ください。



チェック

接続したBluetooth機器の設定変更の方法は、機器に添付のマニュアルを参照ください。

Bluetooth接続でのファイルの送受信

Bluetooth機器間で一時的に小さなファイルを簡単にやりとりすることができます。

ファイルの送信

ファイルの送信は次の手順で行います。



メモ

受信側のBluetooth機器でのファイル受信については、機器により異なるので受信側の機器のマニュアルをご覧ください。

1 送信するファイルを右クリックし、表示されたメニューから「送る」→「Bluetooth」をクリック



チェック

複数のファイルをまとめて送信したい場合でも、フォルダの送信はできません。ファイルを送信してください。

2 「次へ」をクリック

3 リストに表示される送信先のデバイスを選択し、「次へ」ボタンをクリック

送信先が見つからない場合は「更新」ボタンをクリックしてください。

4 受信側（送信先）でファイルの受け取りを承諾する

受信側で受信を許可すると、「Bluetoothデバイスのファイル送信ウィザード」上でファイルの送信が開始されます。

「転送が完了しました。」と表示されれば送信終了です。

5 「完了」ボタンをクリック

ファイルの受信



メモ

送信元のBluetooth機器でのファイル送信については、機器により異なるので送信元の機器のマニュアルをご覧ください。

1 送信元のBluetooth機器で、本機へファイルを送信する処理を行う

2 「ファイルを受信中です」画面で「承諾」をクリック



チェック

身に覚えのない相手の場合は、「拒否」をクリックし、キャンセルしてください。

3 ファイルの受信が終了し、「受信したオブジェクト」画面が表示されたら、リストの受信したファイル名を選び「開く」をクリック

受信したファイルを確認することができます。

ファイルの受信に使用するフォルダは、工場出荷時の状態では、次のフォルダに設定されています。

- **ファイル受信時の格納先、フォルダ共有時の共有フォルダ**：「スタート」ボタン→「ドキュメント」の「受信したファイル」

Bluetooth機器の接続の切断

接続先のデバイスのマニュアルを参照し、切断してください。

Bluetooth機器の登録削除

使用しないBluetooth機器の登録を削除する場合は、次の手順で行います。

1 タスク バーの通知領域の をクリックして表示される (Bluetooth デバイス) をクリックし、表示されたメニューから「Bluetooth デバイスの表示」をクリック



メモ

 (Bluetooth デバイス) がない場合、または  が表示されている場合は、「Bluetooth機能のオン/オフ (P. 206)」をご覧ください、Bluetooth機能をオンにしてください。

Bluetooth機器の一覧が表示されます。

2 登録を削除したいBluetooth機器のアイコンを右クリックし、表示されたメニューから「デバイスの削除」をクリック

デバイス削除の確認画面が表示されます。

3 「はい」 ボタンをクリック

Bluetooth機能のオン／オフ

[023105-27]

Bluetooth機能のオン／オフを切り替えるには、次の方法があります。

- ▶ ワイヤレススイッチ（【Fn】 + 【F2】）で切り替える. 206
- ▶ 「デバイス マネージャー」で切り替える. 207



チェック

- 他の機器に影響を与える場合やBluetooth機能を使用しない場合、Bluetooth機能が使用できない環境で本機を使用する場合は、Bluetooth機能をオフにしてください。
- BIOSセットアップユーティリティでBluetooth機能そのものを無効にしている場合、これらの方法でBluetooth機能を有効にすることはできません。BIOSセットアップユーティリティでBluetooth機能を有効に設定してから操作を行ってください。



参照

BIOSセットアップユーティリティおよび設定項目について

『システム設定』の「システム設定」 - 「BIOSセットアップユーティリティについて」および「設定項目一覧」

Bluetooth機能の状態については、タスク バーの通知領域の  をクリックして表示されるアイコンで確認できます。

アイコン	Bluetooth機能の状態
	スタンバイ／動作中
アイコン無し、または 	オフ

ワイヤレススイッチ（【Fn】 + 【F2】）で切り替える

【Fn】 + 【F2】を押すことで、Bluetooth機能を含むワイヤレス機能のオン／オフを切り替えることができます。



チェック

- この方法でオフにした場合、Bluetooth機能を含むすべてのワイヤレス機能がオフになります。
- Bluetooth機能を含むワイヤレス機能をオンにした時に、Bluetoothのドライバのインストールが始まった場合は、インストールが完了するまでお待ちください。また、再起動を促すメッセージが表示された場合は、本機を再起動してください。
- Bluetooth機能のオン／オフ切り替え時、ドライバの組み込み／取り外しに時間がかかる場合があります。再度、Bluetooth機能のオン／オフを行う場合は、切り替えが完了したのを確認してから行うようにしてください。切り替えが完了しないうちに、連続してオン／オフの操作を行わないようにしてください。



参照

【Fn】について

「キーボード」の「[キーの使い方 \(P. 68\)](#)」

「デバイス マネージャー」で切り替える

Bluetooth機能のみをオフにしたい場合は、「デバイス マネージャー」でBluetooth機能を無効にしてください。
「デバイス マネージャー」でのBluetooth機能のオン／オフの切り替えは、次の手順で行います。

オンにする

- 1 「デバイス マネージャー (P. 11)」を開く
- 2 「Bluetooth 無線」をダブルクリック
- 3 「インテル(R) ワイヤレス Bluetooth(R)」を右クリックし、表示されたメニューから「有効」をクリック

オフにする

- 1 「デバイス マネージャー (P. 11)」を開く
- 2 「Bluetooth 無線」をダブルクリック
- 3 「インテル(R) ワイヤレス Bluetooth(R)」を右クリックし、表示されたメニューから「無効」をクリック

確認画面が表示されます。

- 4 「はい」 ボタンをクリック

本機で利用可能なセキュリティ機能について説明しています。

➤ セキュリティ機能について.....	209
➤ スーパバイザパスワード／パワーオンパスワード.....	210
➤ ハードディスクパスワード機能.....	211
➤ I/O制限.....	212
➤ 指紋認証機能.....	213
➤ 盗難防止用ロック.....	219
➤ DEP（Data Execution Prevention）機能.....	220
➤ 暗号化ファイルシステム（EFS）.....	221
➤ ウイルス検出・駆除.....	222
➤ セキュリティチップ機能.....	223
➤ ハードディスク・アクティブプロテクション・システム.....	224
➤ NASCA.....	225
➤ DeviceLock Lite.....	226

セキュリティ機能について

[022501-27]

本機には、機密データの漏えいや改ざんを防止したり、コンピュータウイルスの侵入を防ぐために、次のようなセキュリティ機能があります。



チェック

- お使いのモデルによっては使用できない場合があります。詳しくは各機能の説明をご覧ください。
- 工場出荷時にインストールされていない機能やアプリケーションのインストールには、光学ドライブが必要です。
- 本機の各種セキュリティ機能は、完全なセキュリティを保証するものではありません。セキュリティ機能を使用している場合でも、重要なデータなどの管理や取り扱いには十分注意してください。

➤ スーパーバイザパスワード/パワーオンパスワード.....	210
➤ ハードディスクパスワード機能.....	211
➤ I/O制限.....	212
➤ 指紋認証機能.....	213
➤ 盗難防止用ロック.....	219
➤ DEP (Data Execution Prevention) 機能.....	220
➤ 暗号化ファイルシステム (EFS)	221
➤ ウイルス検出・駆除.....	222
➤ セキュリティチップ機能.....	223
➤ ハードディスク・アクティブプロテクション・システム.....	224
➤ NASCA.....	225
➤ DeviceLock Lite.....	226

スーパバイザパスワード／パワーオンパスワード

[022502-27]

スーパバイザパスワード／パワーオンパスワードは、BIOSセットアップユーティリティの起動や設定、本機の使用を制限するためのパスワードです。

■ BIOSセットアップユーティリティの使用者の制限

スーパバイザパスワード／パワーオンパスワードを設定すると、BIOSセットアップユーティリティ起動時にパスワードの入力画面が表示されます。スーパバイザパスワードまたはパワーオンパスワードを入力しない限り、BIOSセットアップユーティリティは起動できません。

また、スーパバイザパスワードとパワーオンパスワードの両方を設定した状態でパワーオンパスワードを入力してBIOSセットアップユーティリティを起動した場合、設定可能な項目が制限されます。本機の管理者と使用者が異なるときに、使用者が設定変更してしまうことを防止する場合などに有効です。

■ 本機の不正使用の防止（BIOS認証）

スーパバイザパスワード／パワーオンパスワードを設定し、BIOSセットアップユーティリティの「Security」メニューの「Password」で「Password at Power-On」を「Enabled」に設定してください。

本機の起動時にパスワード入力画面が表示され、本機を使用するにはスーパバイザパスワードまたはパワーオンパスワードの入力が必要になります。



チェック

- NECに本機の修理を依頼される際は、設定してあるパスワードは解除しておいてください。
- 設定したパスワードは忘れないようにしてください。パスワードは本機を再セットアップしても解除できません。パスワードを忘れてしまった場合、有償での解除処置となります。
- パワーオンパスワードに加えて、ハードディスクパスワードを設定している場合は、通常の起動の際にパワーオンパスワード／ハードディスクパスワードを両方入力する必要がありますが、パワーオンパスワードとハードディスクパスワードを同一に設定するとパスワード入力は1回になります。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて

『システム設定』の「システム設定」 - 「BIOSセットアップユーティリティについて」

ハードディスクパスワード機能

[022503-27]

本機のハードディスク（またはSSD）にハードディスクパスワードを設定することで、本機のハードディスク（またはSSD）を本機以外のパソコンに取り付けて使用するときパスワードの入力が必要になり、不正使用や重要なデータの漏えいを防止できます。

また、本機はハードディスクパスワードを設定すると、起動時にハードディスクパスワードの入力が必要になり、本機の不正使用防止にもなります。

ハードディスクパスワードには、ハードディスクマスタパスワードとハードディスクユーザパスワードの2つがあります。

■ ハードディスクマスタパスワード

管理者がハードディスク（またはSSD）の認証やハードディスクパスワードの設定変更を行うパスワードです。

■ ハードディスクユーザパスワード

使用者がハードディスク（またはSSD）の認証やハードディスクパスワードの設定変更を行うためのパスワードです。



チェック

- 購入元またはNECに本機の修理を依頼される際は、設定したパスワードは解除または無効にしておいてください。また、起動できずにパスワードを解除または無効にできない場合は、修理から戻ってきた際に、使用していたマスタパスワードとユーザパスワードを再設定してください。
- ハードディスクパスワードを忘れてしまった場合、NECに持ち込んでもロックの解除はできません。ハードディスク（またはSSD）に保存されているデータは二度と使用できなくなり、ハードディスク（またはSSD）も有償で交換することになります。ハードディスクパスワードは忘れないように十分注意してください。
- ハードディスクパスワードに加えて、パワーオンパスワードを設定している場合は、通常の起動の際にパワーオンパスワード／ハードディスクパスワードを両方入力する必要がありますが、パワーオンパスワードとハードディスクパスワードを同一に設定するとパスワード入力は1回になります。



参照

ハードディスクパスワードの設定について

『システム設定』の「システム設定」 - 「設定項目一覧」 - 「Security」メニュー

I/O制限

[022504-27]

本機では、BIOSセットアップユーティリティで、各種デバイスのI/O（データの入出力）を制限することができます。この機能を利用することで、部外者のデータアクセスや、システムに影響を及ぼすアプリケーションのインストールを制限することができます。



参照

I/O制限について

『システム設定』の「システム設定」 - 「設定項目一覧」 - 「Security」メニュー」

指紋認証機能

[022516-27]



チェック

- 「指紋認証機能」は内蔵指紋センサ（ライン型）モデルのみ使用できます。
- DeviceLock Liteで指紋センサの機能を制限しないでください。機能を制限すると、指紋認証機能が使用できません。
- BIOSセットアップユーティリティの「Security」メニューの「I/O Port Access」で「Fingerprint Reader」が「Disabled」に設定されている場合は、指紋認証を使用することができません。
- NASCAでは、BIOSセットアップユーティリティ起動時に要求されるBIOSパスワードの入力を指紋認証で代用することをサポートしていません。

指紋認証機能とはパスワード入力の代わりに、内蔵指紋センサ（ライン型）を使用して指紋による認証を行うシステムです。

本機では、NASCAと連携して、Windowsのセキュリティを強化することができます。



参照

- **NASCAについて**
「本機の機能」の「セキュリティ機能」 - 「[NASCA \(P. 225\)](#)」
- **DeviceLock Liteについて**
「便利な機能とアプリケーション」の「[DeviceLock Lite \(P. 261\)](#)」

使用上の注意

指紋の登録時

指紋の登録は登録しやすい指を、複数本登録されることをおすすめします。

次のような場合は、指紋の登録が難しいことがあります。

- 汗や脂が多く、指紋の間が埋まっている
- 極端に乾いている
- 指紋が小さすぎる
- 指紋が大きすぎる
- 指紋が渦を巻いていない
- 手が荒れている
- 摩耗により指紋が薄い

汗や脂が多い場合には指をよく拭き、手荒れや乾いている場合にはクリームなどを塗ることにより改善されます。

また、指先が小さい場合は、なるべく大きな親指などで登録してください。

指紋の読み取り時

次のような場合には、指紋の特徴が変化し、照合時に不一致が起きやすくなります。

- 夏期など、汗や脂が多い場合
- 冬期など、極端に乾いている場合
- 手が荒れたり、けがをした場合
- 急に太ったり、痩せたりした場合

登録が難しい場合は、照合時にも不一致がおきやすい傾向があります。

指紋によるBIOS認証

本機起動時のBIOS認証を行うように設定した場合に、BIOSパスワード（スーパーバイザパスワード）の入力の代わりに、指紋認証によって認証を行うことができます。

指紋によるBIOS認証を使用するためには、次の設定を行う必要があります。

- BIOSセットアップユーティリティで、本機起動時のBIOS認証を行うように設定する
- NASCAで、BIOS認証のBIOSパスワード入力を指紋認証で代用するための設定をする



チェック

- NASCAでは、BIOSセットアップユーティリティ起動時に要求されるBIOSパスワードの入力を指紋認証で代用することをサポートしていません。
- BIOSパスワード入力を指紋認証で代用する設定を行ったあと、初回の指紋認証時は「×」マークが出てパスワードの入力を求められます。2回目以降は指紋のみで認証が可能となります。

設定方法

1

電源を入れ、すぐに【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。



チェック

BIOS セットアップユーティリティが表示されない場合は、いったん本機を再起動して、すぐにを数回押してください。



参照

BIOSセットアップユーティリティおよび設定項目について

『システム設定』の「システム設定」 - 「BIOSセットアップユーティリティについて」および「設定項目一覧」

2

「Security」メニューの「Password」 - 「Power-On Password」でパワーオンパスワードを設定する

3

「Security」メニューの「Fingerprint」 - 「Predesktop Authentication」を「Enabled」に設定する

4 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

5 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

これでBIOSセットアップユーティリティでの設定は完了です。

続けて、NASCAでBIOS認証のBIOSパスワード入力を、指紋認証で代用するための設定をしてください。



チェック

本機起動時のBIOS認証のために登録できる指紋の数は15です。



参照

「NASCA」の設定について

「本機の機能」の「セキュリティ機能」 - 「NASCA (P. 225)」

認証方法

1 本機の電源を入れる

2 次の認証画面が表示されたら、登録済みの指紋を読み取らせる



Swipe finger to authorize access, or
press Esc to enter your power-on password.



チェック

- 指紋を登録した指を負傷したなどの理由で、指紋認証が行えない場合は【Esc】を押してください。パスワード入力画面に切り替わるので設定したBIOSパスワードを入力してください。
- 指紋の照合失敗や指紋の読み取りが約20秒以上なかった回数が、合計で3回に達した場合もパスワード入力画面に切り替わります。
- パソコンの起動や再起動時にOSの負荷状態によっては指紋認証でログオンできない場合があります。その場合はしばらく待った後、再度指紋認証でログオンしていただくか、または、キーボードからパスワードを入力してログオンしてください。

設定の解除方法

起動時の指紋認証の設定を解除する場合は、NASCAでBIOS認証のBIOSパスワード入力を指紋認証で代用する設定を解除してください。



チェック

- 本機を再セットアップしても、指紋認証によるBIOS認証のBIOSパスワード入力の代用は無効になりません。
- 登録した指紋は、BIOSセットアップユーティリティの「Security」メニュー→「Fingerprint」→「Reset Fingerprint Data」で削除することができます。



メモ

BIOSセットアップユーティリティで、BIOS認証そのものを無効にした場合は、指紋認証も行われなくなります。



参照

「NASCA」の設定について

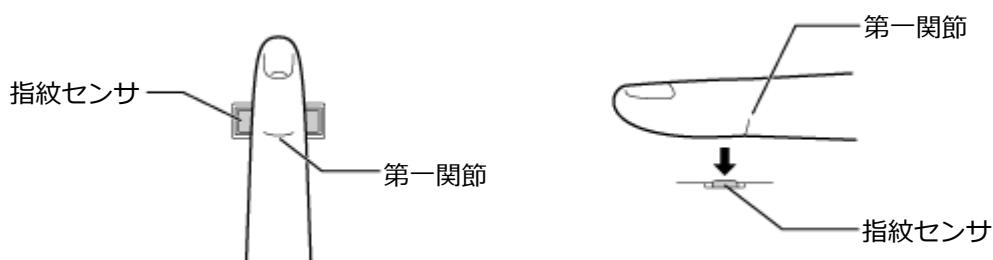
「本機の機能」の「セキュリティ機能」 - 「[NASCA \(P. 225\)](#)」

指紋の読み取り方

指紋センサの高い照合精度を維持するために、「正しい指の動かし方」でご使用ください。図は、多少異なることがあります。

1

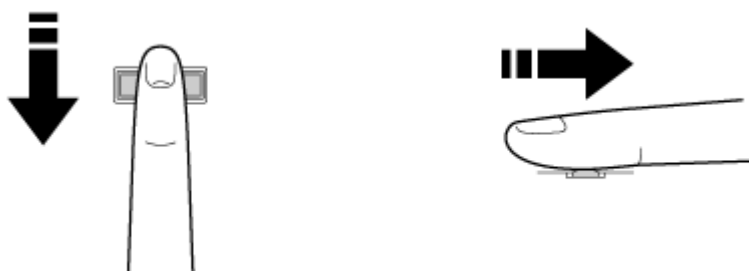
読み取る指の第一関節の少し先あたりをセンサに密着させる



2

指をセンサに密着させながら、なぞるようにゆっくり引く

指先まで指がセンサから浮かないように引いてください。





メモ

- 指が乾燥しているかたは、センサに指を少し強くあてながら引くと、読み取れる場合があります。
- 何度も読み取りに失敗する場合は、再度指紋を登録し直してください。



チェック

- 指が汚れたり、汗や脂などで濡れている場合は、ハンカチなどで指先を拭いてから指紋の読み取りを行ってください。
- センサは直接指で触れるため、指の汚れが付着します。常にセンサをきれいにしてください。



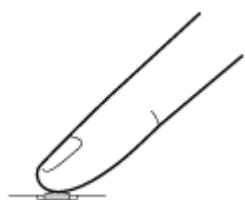
参照

指紋センサ（ライン型）のお手入れについて

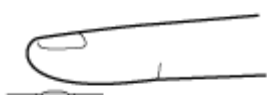
『メンテナンスとアフターケアについて』

間違った指紋の読み取り方

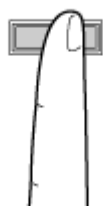
- 指先しか触れていない（指を立て過ぎている）。



- 途中でセンサから指が浮く。



- 指が斜めに傾いている。



- センサに対して指を横に引く。
- 指を前に押し出す。
- 指をジグザグに動かす。
- 指先まで引かずに途中で指を止める。

指紋センサ（ライン型）のお手入れ



参照

指紋センサ（ライン型）のお手入れについて
『メンテナンスとアフターケアについて』

盗難防止用ロック

[022505-27]

別売のセキュリティーケーブル（PC-VP-WS15/PC-VP-WS16）を利用することで、本機を机などに繋ぐことができ、本機の盗難防止に効果的です。



チェック

当社製セキュリティーケーブル（PK-SC/CA01）は、本機では使用できません。ご注意ください。



参照

盗難防止用ロックについて

「各部の名称」の「[各部の名称と説明 \(P. 17\)](#)」

DEP（Data Execution Prevention）機能

[022507-27]

不正なプログラムやデータの実行をハードウェア的に防止する機能です。コンピュータウイルスが不正にプログラムコードを書き込んだり、実行しないようにすることができます。

暗号化ファイルシステム（EFS）

[022510-27]

EFS（Encrypting File System）は、Windows 7 Professionalの標準ファイルシステムであるNTFSが持つファイルやフォルダの暗号化機能です。暗号化を行ったユーザー以外、データ復号化が行えないため、高いセキュリティ効果をもたらすことが可能です。

ウイルス検出・駆除

[022508-27]



チェック

ウイルスバスター クラウドは、工場出荷時にはインストールされていません。

コンピュータウイルスの検出、識別、および駆除を行うためのアプリケーションとして「ウイルスバスター クラウド」が添付されています。



参照

ウイルスバスター クラウドについて

「便利な機能とアプリケーション」の「[ウイルスバスター クラウド \(P. 278\)](#)」

セキュリティチップ機能

[022509-27]

本機はTPM（Trusted Platform Module）と呼ばれるセキュリティチップを実装しており、セキュリティチップ内で暗号化や復号化、鍵の生成を行うことで、強固なセキュリティを実現します。

また、セキュリティチップ上に暗号化キーを持つため、ハードディスク（またはSSD）を取り外して持ち出されても、セキュリティチップ上の暗号化キーを用いて暗号化したデータは読み取られることはありません。



チェック

セキュリティチップは、データやハードウェアの完全な保護を保証していません。重要なデータなどの管理や取り扱いには十分注意して、運用を行ってください。

再セットアップを行った場合は、セキュリティチップの状態を確認し、必要に応じてセキュリティチップの初期化を行ってください。

ハードディスク・アクティブプロテクション・システム

[022518-27]



チェック

- ハードディスク・アクティブプロテクション・システムは、工場出荷時はインストールされていません。
- ハードディスク・アクティブプロテクション・システムは、落下あるいは振動によるハードディスク損傷の危険性を軽減することができますが、ハードディスクを完全に保護するものではありません。
- ハードディスク・アクティブプロテクション・システムは、ストレージドライブの保護機能のほかに省電力管理機能も兼ねています。

ハードディスク・アクティブプロテクション・システムは、本機の落下などによる加速度や振動を内蔵センサーが検知し、ハードディスクのヘッドを安全な場所に退避してハードディスク損傷の危険性を軽減するユーティリティです。



参照

ハードディスク・アクティブプロテクション・システムについて

「便利な機能とアプリケーション」の「[ハードディスク・アクティブプロテクション・システム \(P. 252\)](#)」



チェック

- NASCAは、工場出荷時にはインストールされていません。下記「NASCAのダウンロードについて」よりお使いの機種を検索し、各種ドライバー一覧の表中、「NASCA」の行に記載されているお使いのタイプの「○」をクリックしてダウンロードしてください。
- NASCAをご利用になる前に、必ず制限事項や注意事項を確認してください。詳細は、下記「NASCAのダウンロードについて」よりお使いの機種を検索し、対象OSの「ご利用前に必ずお読みください」をご覧ください。
- **NASCAのダウンロードについて**
「<http://jpn.nec.com/bpc/>」から
「サポート情報(ダウンロード)」－「商品情報・ドライバ」－「ドライバ・ソフトウェア」－「ドライバ提供対象OS」－「ご利用のパソコンの型番から検索」
- 内蔵指紋センサ搭載モデルでのみ使用できます。ただし、セキュリティチップを利用した機能は利用できません。

NASCAは、複数の認証方法を使用した高度な個人認証機能です。

認証情報を登録していない第三者が本機を使用することを防止したり、Webサイトへのアクセスやアプリケーションの実行に必要な情報（パスワードなど）を自動的に保存、入力することができます。



チェック

DeviceLock Liteは、工場出荷時にはインストールされていません。

DeviceLock Liteは、各種周辺機器の使用を制限することができるアプリケーションです。



参照

DeviceLock Liteについて

「便利な機能とアプリケーション」の「[DeviceLock Lite \(P. 261\)](#)」

本機で利用可能なマネジメント機能について説明しています。

➤ マネジメント機能について.	228
➤ リモートパワーオン（WoL（Wake on LAN））機能.	229
➤ ネットワークブート機能（PXE機能）.	233
➤ インテル® vProテクノロジー.	234
➤ インテル® AMT.	235

マネジメント機能について

[022601-27]

本機には、システム管理者のパソコンからネットワークに接続された他のパソコンの電源やシステムを遠隔操作して管理するために、次のようなマネジメント機能があります。

➤ リモートパワーオン（WoL（Wake on LAN））機能.....	229
➤ ネットワークブート機能（PXE機能）.....	233
➤ インテル® vProテクノロジー.....	234
➤ インテル® AMT.....	235

リモートパワーオン（WoL（Wake on LAN））機能

[021805-27]

本機におけるLANによるリモートパワーオン（WoL（Wake on LAN））機能（以降、WoL）は次の通りです。

- 電源の切れている状態から電源を入れる
- スリープ状態や休止状態からの復帰

WoLを使うように本機を設定している場合、本機の電源が切れているときも、LANアダプタには通電されています。管理者のパソコンから本機にパワーオンを指示する特殊なパケット（Magic Packet）を送信し、そのパケットを本機の専用コントローラが受信するとパワーオン動作を開始します。

これにより、管理者のパソコンが離れた場所にあっても、LANで接続された本機の電源を入れたり、スリープ状態や休止状態から復帰させることができます。



チェック

- WoLを利用するためには、管理者パソコンにMagic Packetを送信するためのソフトウェア（WebSAM Client Managerなど）のインストールが必要です。
- 前回のシステム終了（電源を切る、休止状態にする、スリープ状態にする）が正常に行われなかった場合、WoLを行うことはできない、またはWoLで起動してもLANが正常に動作しないことがあります。一度電源スイッチを押してWindowsを起動させ、再度、正常な方法でシステム終了を行ってください。
- WoLを使用する場合は10M/100M/1000M Auto-negotiation機能を搭載したハブを使用してください。サポートする速度が1000MbpsのみのハブではWoLは使用できません。
- WoLの設定を行った場合は、工場出荷時の設定で使う場合にくらべて、本機のバッテリーの消費量が大きくなります。バッテリー駆動時間を優先して本機を使いたい場合は、WoLの設定は行わずに工場出荷時の設定で使用してください。
- WoLを使用する場合は、必ずACアダプタを接続した状態で本機をスリープ状態、休止状態または電源が切れている状態にしてください。

電源の切れている状態からWoLを利用するための設定

電源が切れている状態からWoLを利用するには、次の設定を行ってください。

1

電源を入れ、すぐに【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。



チェック

BIOS セットアップユーティリティが表示されない場合は、いったん本機を再起動して、すぐに【F2】を数回押してください。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて

『システム設定』の「システム設定」 - 「BIOSセットアップユーティリティについて」

- 2 「Config」メニューの「Network」で、「Wake On LAN」を「AC Only」または「AC and Battery」に設定する

- 3 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

- 4 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

以上で設定は完了です。



チェック

必要に応じて、起動時のパスワードの設定も行ってください。



参照

起動時のパスワードの設定

『システム設定』の「システム設定」 - 「設定項目一覧」 - 「Security」メニュー

電源の切れている状態からWoLを利用する設定の解除

電源の切れている状態からWoLを利用する設定を解除する場合は、次の手順で設定を行ってください。

- 1 電源を入れ、すぐに【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。



チェック

BIOS セットアップユーティリティが表示されない場合は、いったん本機を再起動して、すぐに【F2】を数回押してください。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて

『システム設定』の「システム設定」 - 「BIOSセットアップユーティリティについて」

2 「Config」メニューの「Network」で、「Wake On LAN」を「Disabled」に設定する

3 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

4 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

■ スリープ状態または休止状態からWoLを利用するための設定



チェック

- 以下の設定を行う前に、「電源の切れている状態からWoLを利用するための設定」(P. 229)の手順に従って、「Wake On LAN」を「AC Only」または「AC and Battery」に設定してください。
- 以下の設定を行う場合は、管理者（Administrator）権限を持つユーザーで行ってください。

1 「デバイス マネージャー (P. 11)」を開く

2 「ネットワーク アダプター」をダブルクリック

3 表示されたLANアダプタをダブルクリック

4 「詳細設定」タブをクリック

5 「プロパティ」欄の「PME をオンにする」をクリック

6 「値」欄で「有効」が選択されていない場合は、「有効」を選択する

7 「プロパティ」欄の「Wake On Magic Packet」をクリック

8 「値」欄で「有効」が選択されていない場合は、「有効」を選択する

9 「OK」ボタンをクリック

10 再度表示されたLANアダプタをダブルクリック

11 「電源の管理」タブをクリック

12 次の項目を確認し、チェックが付いていない場合はチェックを付ける

- 「電力の節約のために、コンピューターでこのデバイスの電源をオフにできるようにする」
- 「このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」
- 「Magic Packet でのみ、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」

13 「OK」ボタンをクリック

14 をクリック

以上で設定は完了です。

スリープ状態または休止状態からWoLを利用する設定の解除

スリープ状態または休止状態からWoLを利用する設定を解除する場合は、次の手順で設定を行ってください。

1 「デバイス マネージャー (P. 11)」を開く

2 「ネットワーク アダプター」をダブルクリック

3 表示されたLANアダプタをダブルクリック

4 「電源の管理」タブをクリック

5 下記の設定項目のチェックを外す

- 「このデバイスで、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」
- 「Magic Packet でのみ、コンピューターのスタンバイ状態を解除できるようにする」

6 「OK」ボタンをクリック

7 をクリック



チェック

再起動後、「電源の切れている状態からWoLを利用する設定の解除」 (P. 230)の手順に従って、「Wake On LAN」を「Disabled」に設定してください。

以上で設定は完了です。

ネットワークブート機能（PXE機能）

[021806-27]

ネットワークから起動して管理者パソコンと接続し、次の操作を行うことができます。

- OSインストール
- BIOSフラッシュ（BIOS ROMの書き換え）
- BIOS設定変更

ネットワークブートを使用する場合は、BIOSセットアップユーティリティで設定を行ってください。

1 電源を入れ、すぐに【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。



チェック

BIOS セットアップユーティリティが表示されない場合は、いったん本機を再起動して、すぐに【F2】を数回押してください。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて

『システム設定』の「システム設定」 - 「BIOSセットアップユーティリティについて」

2 「Config」メニューの「Network」で、「Ethernet LAN Option ROM」を「Enabled」に設定する

3 「Startup」メニューの「Network Boot」で、「PCI LAN」を選択する

4 【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

5 「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

以上でネットワークブートを使用するための設定は完了です。



チェック

インテル® vPro テクノロジー対応モデルのみ使用できます。

高水準の運用管理性を提供するプラットフォーム技術です。

別途インテル® vProテクノロジーに対応した運用管理ソフトウェアが必要です。



参照

インテル® vProテクノロジーの設定について

- 「[インテル® AMT \(P. 235\)](#)」
- 『システム設定』の「システム設定」 - 「設定項目一覧」 - 「「Config」メニュー」
- 『システム設定』の「システム設定」 - 「ME BIOS Extensionについて」
- 『システム設定』の「システム設定」 - 「ME BIOS Extensionの設定項目一覧」

インテル® AMTに対応した運用管理ソフトウェアによる高水準の運用管理機能を利用できます。



チェック

- インテル® AMTはインテル® vPro テクノロジー対応モデルのみサポートされています。
- インテル® AMTを使用する場合、別途、インテル® AMTに対応した運用管理ソフトウェアが必要です。

インテル® AMTを利用するには、BIOSセットアップユーティリティでインテル® AMTを有効に設定する必要があります。

インテル® AMTを有効にする

1

電源を入れ、すぐに【F2】を数回押す

BIOSセットアップユーティリティが表示されます。



チェック

BIOS セットアップユーティリティが表示されない場合は、いったん本機を再起動して、すぐに【F2】を数回押してください。



参照

BIOSセットアップユーティリティについて

『システム設定』の「システム設定」 - 「BIOSセットアップユーティリティについて」

2

「Config」メニューの「Intel(R) AMT」で、「Intel (R) AMT Control」を「Enabled」に設定する

3

【F10】を押す

確認の画面が表示されます。

4

「Yes」が選択されていることを確認して【Enter】を押す

設定値が保存され、BIOSセットアップユーティリティが終了し、本機が再起動します。

以上でインテル® AMTが有効になりました。



参照

インテル® AMTの設定について

- 『システム設定』の「システム設定」 - 「設定項目一覧」 - 「「Config」メニュー」
- 『システム設定』の「システム設定」 - 「ME BIOS Extensionについて」
- 『システム設定』の「システム設定」 - 「ME BIOS Extensionの設定項目一覧」

便利な機能とアプリケーション

[060000-27]

➤ アプリケーションの種類と機能.	238
➤ アプリケーションのインストール/アンインストールについて.	240
➤ Internet Explorer 11.	242
➤ Office Personal 2016.	244
➤ Office Home & Business 2016.	248
➤ ハードディスク・アクティブプロテクション・システム.	252
➤ Access Connections.	254
➤ DeviceLock Lite.	261
➤ Acrobat Reader DC.	263
➤ ECOモード設定ツール.	265
➤ ピークシフト設定ツール.	267
➤ CyberLink Power2Go.	269
➤ CyberLink PowerDVD.	272
➤ CyberLink PowerBackup.	276
➤ ウイルスバスター クラウド.	278

アプリケーションの種類と機能

[060100-27]

本機にインストール、または添付されているアプリケーションはモデルによって異なります。

標準でインストール、または添付されているアプリケーション

アプリケーション	機 能
Internet Explorer	インターネットへ接続する ファイルをダウンロードする
Access Connections	ネットワークの設定、接続、切り替えおよびロケーション・プロファイルのインポートとエクスポートをする
Acrobat Reader DC	PDF形式のマニュアルを表示、閲覧、印刷する
ハードディスク・アクティブプロテクション・システム※1	ハードディスクの損傷を防ぐ
DeviceLock Lite	周辺機器の使用を制限する
バッテリー・リフレッシュ & 診断ツール※2	バッテリーのリフレッシュと性能診断
NASCA※3	ID・パスワードの保護と管理
ハードディスクデータ消去ツール※4	ハードディスク（またはSSD）のデータを消去する
ウイルスバスター クラウド	ウイルス対策とマルウェア対策などを行う包括的で高速なセキュリティソフトウェア

※1 機能の詳細、使用方法については「便利な機能とアプリケーション」の「ハードディスク・アクティブプロテクション・システム (P. 252)」をご覧ください。

※2 機能の詳細、使用方法については「本機の機能」-「バッテリー」の「バッテリー・リフレッシュ & 診断ツール (P. 59)」をご覧ください。

※3 NASCAについては「本機の機能」の「セキュリティ機能」-「NASCA (P. 225)」をご覧ください。

※4 再セットアップ用メディアが必要です。機能の詳細、使用方法については『メンテナンスとアフターケアについて』をご覧ください。

モデルによってインストール、または添付されているアプリケーション

◆Office Personal 2016モデル

アプリケーション	機 能
Word 2016	文章を作成する HTMLを作成する
Excel 2016	表計算をする
Outlook 2016	予定やスケジュールを管理する 住所録を作る

	ファイルを管理する 電子メールを送受信する
--	--------------------------

◆Office Home & Business 2016モデル

アプリケーション	機 能
Word 2016	文章を作成する HTMLを作成する
Excel 2016	表計算をする
Outlook 2016	予定やスケジュールを管理する 住所録を作る ファイルを管理する 電子メールを送受信する
PowerPoint 2016	プレゼンテーションや企画書を作成する
OneNote 2016	電子ノートブック機能

◆Webカメラ搭載モデル

アプリケーション	機 能
YouCam 5 BE※1	Webカメラを利用して省電力動作へ移行させたり、コンピュータを監視カメラとして使用する

※1 機能の詳細、使用方法については「本機の機能」の「Webカメラ」 - 「[Webカメラについて \(P. 107\)](#)」をご覧ください。

◆DVD-ROMドライブモデル

アプリケーション	機 能
CyberLink PowerDVD	DVDを再生する

◆DVDスーパーマルチドライブモデル

アプリケーション	機 能
CyberLink PowerDVD	DVDを再生する
CyberLink Power2Go	CD-Rなどにデータを保存する
CyberLink PowerBackup	ファイルをバックアップする

◆内蔵バッテリー無しモデル

アプリケーション	機 能
ECOモード設定ツール	【Fn】 + 【F4】、または設定したホットキーでモード（電源プラン）を切り替える
ピークシフト設定ツール	電力需要がピークに達する時間帯の電力消費を他の時間帯に移行する

アプリケーションのインストール/アンインストールについて

[060200-27]

本機にインストールまたは添付されているアプリケーションの概要とインストール方法およびアンインストール方法について説明します。

インストールやアンインストールをする場合、Windowsおよびインストールされているアプリケーションについての知識が必要になります。

■ インストールについて

本機にインストール、または添付されているアプリケーションをインストールする場合は、各アプリケーションの説明をご覧ください。



チェック

- アプリケーションのインストールは、必ず管理者（ユーザー名は半角英数字）でログオンして行ってください。
- 「ユーザー アカウント制御」画面が表示された場合は、表示された内容をよく確認し、操作を行ってください。
- 再セットアップの後に続けてアプリケーションのインストールを行う場合は必ずWindowsの再起動後に行ってください。
- 光学ドライブが添付されていないモデルをお使いの場合は、別売の光学ドライブが必要です。
- アプリケーションの修復インストールはできません。
いったんアンインストールしてから、インストールし直してください。



メモ

- 「管理者」とはAdministrator権限を持つユーザーを指し、コンピュータの全体的な構成を管理することができます。
ユーザーアカウントに関する詳細についてはWindowsのヘルプをご覧ください。
- 光学ドライブをDドライブとした場合の手順を説明します。
必要に応じて読み替えてください。

■ アンインストールについて

本機にインストールされているアプリケーションまたは購入後にインストールされた本機添付のアプリケーションのアンインストールの手順を説明します。

ご自分でインストールされた別売のアプリケーションのアンインストールについては、そのアプリケーションに添付されたマニュアルをご覧ください。



チェック

- アプリケーションのアンインストールは、必ず管理者（ユーザー名は半角英数字）でログオンして行ってください。
- 「コントロールパネル」→「プログラム」の「プログラムのアンインストール」でアプリケーションを選択して「アンインストール」、または「アンインストールと変更」をクリックした後は、中断してもそのままではアプリケーションを使用できない場合があります。
その際にはWindowsを再起動後、アプリケーションを使用してください。
- アプリケーションをアンインストールした後に、システムの復元機能でアンインストール前の状態に復元しても、復元されたアプリケーションは正常に動作しない場合があります。
また、復元されたアプリケーションを「コントロールパネル」→「プログラム」の「プログラムのアンインストール」からアンインストールしても、アンインストールできない場合があります。
その場合は、そのアプリケーションのマニュアルをご覧ください。インストールの操作を行ってください。
復元の状況によって、インストールもしくはアンインストールが開始されます。
アンインストールが開始されたら、画面の指示に従い、アンインストールを行ってください。
インストールが開始されたら、画面の指示に従ってインストールを行い、インストール完了後にマニュアルをご覧ください。アンインストールを行ってください。
- アプリケーションのアンインストール中に、すでにアンインストールされている旨のメッセージが表示されることがあります。その場合でも正常にアンインストールは完了しており、動作に影響はありません。

コントロール パネルからアンインストールする

コントロール パネルからアプリケーションをアンインストールする場合は、次の手順で行います。

1

「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2

「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

3

一覧から、アンインストールしたいアプリケーションをクリック

4

「アンインストール」、「変更」、「アンインストールと変更」のいずれかをクリック



メモ

アプリケーションによってクリックするボタン名が異なります。必要に応じて読み替えてください。

5

画面が表示された場合は、画面の指示に従って操作を進める

以上でアンインストールは完了です。

Internet Explorer 11

[060500-07]

概要.....	242
インストール.....	242
アンインストール.....	243

概要

インターネットへの接続を行い、ホームページを表示します。
機能の詳細や操作方法については、以下をご覧ください。

●機能の詳細や操作方法

ヘルプ（Internet Explorer 11上で【Alt】を押し、「ヘルプ」→「Internet Explorer ヘルプ」をクリック）



チェック

Internet Explorer 11のヘルプやオンライン サポートなどを確認するには、インターネットに接続している必要があります。

●Internet Explorerの最新情報

<http://windows.microsoft.com/ja-JP/internet-explorer/products/ie/home>



チェック

Webサイトを定期的にご覧になり、最新情報を確認することをおすすめします。

起動方法



「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Internet Explorer」をクリック

Internet Explorer 11画面が表示されます。

インストール



チェック

- 本機では、Internet Explorer 11はインストールされています。
- Internet Explorer 11をインストールする場合は、再セットアップを行うことをおすすめします。
『再セットアップガイド』をご覧ください。

アンインストール



チェック

- Internet Explorer 11をアンインストールした場合、Internet Explorer 11、および更新プログラムで修正されていた問題が発生する可能性があります。
- Internet Explorer 11をアンインストールする場合は、ご購入時のセットアップ直後、または再セットアップ直後のいずれかの状態で行ってください。
なお、アンインストールするとWindows® Internet Explorer® 8 になります。
- Internet Explorer 11が起動している場合は、終了させてください。

Internet Explorer 11のアンインストール



チェック

- Internet Explorer 11のアンインストール後、お気に入りフォルダに以下のフォルダが追加されます。
 - 「Microsoft の Web サイト」
 - 「MSN の Web サイト」
 - 「Windows Live」
- Internet Explorer 11のアンインストール後は、Windows® Updateを行い、Windows® Internet Explorer® 8用の最新の更新プログラムを適用することをおすすめします。

1

Windowsを起動する

2

「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

3

「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4

左側に表示されている「インストールされた更新プログラムを表示」をクリック

5

「更新プログラムのアンインストール」の「Microsoft Windows」配下にある「Internet Explorer 11」を選択し、「アンインストール」をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

6

再起動を促すメッセージが表示された場合は、「今すぐ再起動する」ボタンをクリック

再起動を促すメッセージが表示されない場合は、Windowsを再起動してください。

以上でInternet Explorer 11のアンインストールは終了です。

Office Personal 2016

[063500-07]

概要	244
初回起動手順	244
使用上の注意	245
インストール	245
アンインストール	246

概要

Word 2016、Excel 2016、Outlook 2016が同梱されています。
機能の詳細や操作方法、最新情報については、以下をご覧ください。

●機能の詳細や操作方法

各Office アプリケーションのヘルプ

●Office Personal 2016の最新の情報

<http://office.microsoft.com/ja-jp/>



チェック

Webサイトを定期的にご覧になり、最新情報を確認することをおすすめします。

初回起動手順

Office Personal 2016モデルでは、工場出荷時の状態で、Office Personal 2016の各アプリがインストールされています。

初回起動によりライセンス認証を完了させる必要があります。

以下の初回起動手順を行ってください。



チェック

- ライセンス認証が完了していない場合、アプリ起動時に認証画面が表示されます。初回起動した日から5日間試用することができます。5日間を経過すると機能が制限され、認証が完了するまで閲覧専用となります。
- ライセンス認証が完了すると、ほかのOfficeアプリで再度行う必要はありません。
- 初回起動手順は、マイクロソフト社によるアップデートなどで変更される場合があります。その場合は、画面の手順に従って入力してください。

1

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」からWord2016、Excel2016などOfficeアプリのいずれかをクリック

2 「開始する」画面が表示されたら、「ライセンス認証」をクリック

3 「プロダクト キーを入力してください」と表示されたら、プロダクトキーを入力し、「インストール」をクリック



チェック

プロダクト キーはOfficeカード自体に記載されています。

4 「最初に行う設定です。」と表示されたら、「同意する」をクリック

「使用許諾契約書を読む」の内容を確認後、「OK」ボタンをクリックし、また「同意する」をクリックしてください。

5 「準備ができました。」画面が表示されたら、「XXXX（Office アプリ名）の使用を開始」をクリック

Officeアプリの画面に戻ります。

以上で初回起動手順は終了です。

■ 使用上の注意

Microsoft® Updateについて

Office の安定性と安全性を向上させるための更新プログラムが提供されています。

Office を最新の状態に保つために、Microsoft® Updateを定期的の実施してください。



チェック

- Microsoft® Updateを行うにはインターネットに接続できる環境が必要です。
- Microsoft® Updateは必ずOfficeの「[初回起動手順 \(P. 244\)](#)」を済ませてから実施してください。

■ インストール

ここでは、工場出荷時と同じ状態にインストールする方法を説明します。



チェック

インストールを行うには、インターネットへの接続環境が必要となります。

Office Personal 2016のインストール

Internet Explorerのお気に入り登録されている「Office を再インストールする」へアクセスして、再インストールを行ってください。

■ アンインストール

「Microsoft Office IME 2010 (Japanese)」のアンインストール



チェック

Office Personal 2016をアンインストールする前に「Microsoft Office IME 2010 (Japanese)」をアンインストールする必要があります。

1

Windowsを起動する

2

「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

3

「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4

「Microsoft Office IME 2010 (Japanese)」を選択し、「アンインストール」をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5

アンインストールが完了したら、「OK」ボタンをクリック

6

Windowsを再起動する

以上で「Microsoft Office IME 2010 (Japanese)」のアンインストールは終了です。
次に「[Office Personal 2016のアンインストール \(P. 246\)](#)」へ進んでください。

Office Personal 2016のアンインストール

1

Windowsを起動する

2

「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

3

「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4

「Microsoft Office Personal 2016 - ja-jp」を選択し、「アンインストール」をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 アンインストールが完了したら、「閉じる」ボタンをクリック

6 Windowsを再起動する

以上でOffice Personal 2016のアンインストールは終了です。

Office Home & Business 2016

[063600-07]

➤ 概要.....	248
➤ 初回起動手順.....	248
➤ 使用上の注意.....	249
➤ インストール.....	249
➤ アンインストール.....	250

概要

Word 2016、Excel 2016、Outlook 2016、PowerPoint 2016、OneNote 2016が同梱されています。
機能の詳細や操作方法、最新情報については、以下をご覧ください。

●機能の詳細や操作方法

各Office アプリケーションのヘルプ

●Office Home & Business 2016の最新の情報

<http://office.microsoft.com/ja-jp/>



チェック

Webサイトを定期的にご覧になり、最新情報を確認することをおすすめします。

初回起動手順

Office Home & Business 2016モデルでは、工場出荷時の状態で、Office Home & Business 2016の各アプリがインストールされています。

初回起動によりライセンス認証を完了させる必要があります。

以下の初回起動手順を行ってください。



チェック

- ライセンス認証が完了していない場合、アプリ起動時に認証画面が表示されます。初回起動した日から5日間試用することができます。5日間を経過すると機能が制限され、認証が完了するまで閲覧専用となります。
- ライセンス認証が完了すると、ほかのOfficeアプリで再度行う必要はありません。
- 初回起動手順は、マイクロソフト社によるアップデートなどで変更される場合があります。その場合は、画面の手順に従って入力してください。

1

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」からWord2016、Excel2016などOfficeアプリのいずれかをクリック

2 「開始する」画面が表示されたら、「ライセンス認証」をクリック

3 「プロダクト キーを入力してください」と表示されたら、プロダクトキーを入力し、「インストール」をクリック



チェック

プロダクト キーはOfficeカード自体に記載されています。

4 「最初に行う設定です。」と表示されたら、「同意する」をクリック

「使用許諾契約書を読む」の内容を確認後、「OK」ボタンをクリックし、また「同意する」をクリックしてください。

5 「準備ができました。」画面が表示されたら、「XXXX（Office アプリ名）の使用を開始」をクリック

Officeアプリの画面に戻ります。

以上で初回起動手順は終了です。

■ 使用上の注意

Microsoft® Updateについて

Office の安定性と安全性を向上させるための更新プログラムが提供されています。

Office を最新の状態に保つために、Microsoft® Updateを定期的の実施してください。



チェック

- Microsoft® Updateを行うにはインターネットに接続できる環境が必要です。
- Microsoft® Updateは必ずOfficeの「初回起動手順 (P. 248)」を済ませてから実施してください。

■ インストール

ここでは、工場出荷時と同じ状態にインストールする方法を説明します。



チェック

インストールを行うには、インターネットへの接続環境が必要となります。

Office Home & Business 2016のインストール

Internet Explorerのお気に入り登録されている「Office を再インストールする」へアクセスして、再インストールを行ってください。

■ アンインストール

「Microsoft Office IME 2010 (Japanese)」のアンインストール



チェック

Office Home & Business 2016をアンインストールする前に「Microsoft Office IME 2010 (Japanese)」をアンインストールする必要があります。

1

Windowsを起動する

2

「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

3

「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4

「Microsoft Office IME 2010 (Japanese)」を選択し、「アンインストール」をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5

アンインストールが完了したら、「OK」ボタンをクリック

6

Windowsを再起動する

以上で「Microsoft Office IME 2010 (Japanese)」のアンインストールは終了です。

次に「Office Home & Business 2016のアンインストール (P. 250)」へ進んでください。

Office Home & Business 2016のアンインストール

1

Windowsを起動する

2

「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

3

「プログラム」の「プログラムのアンインストール」をクリック

4

「Microsoft Office Home and Business 2016 - ja-jp」を選択し、「アンインストール」をクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 アンインストールが完了したら、「閉じる」ボタンをクリック

6 Windowsを再起動する

以上でOffice Home & Business 2016のアンインストールは終了です。

ハードディスク・アクティブプロテクション・システム

[060900-27]

➤ 概要.....	252
➤ 使用上の注意.....	252
➤ インストール.....	253
➤ アンインストール.....	253

概要

ハードディスク・アクティブプロテクション・システムを使うと、本体の落下などによる加速度や振動を検知センサーが感知した場合に、ハードディスクのヘッドを安全な場所に退避させるのでハードディスク損傷の危険性を軽減することができます。

また、ハードディスク・アクティブプロテクション・システムの設定ユーティリティでは、ハードディスク・アクティブプロテクション・システムのハードディスク保護機能を一時的に無効にしたり、検知センサーの感度を調節することができます。

SSDモデルの場合はヘッドが存在しないため、ハードディスク保護機能のご利用は必要ありません。



チェック

ハードディスク・アクティブプロテクション・システムは、ストレージドライブの保護機能のほかに省電力管理機能も兼ねています。

機能の詳細や操作方法、制限事項については、以下を参照してください。

●機能の詳細や操作方法、制限事項

ハードディスク・アクティブプロテクション・システムのヘルプ（「スタート」ボタン→「コントロール パネル」→「システムとセキュリティ」→「NEC - HDD プロテクション」→表示されたウィンドウで「ヘルプ」ボタンをクリック）

起動方法

1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」→「システムとセキュリティ」→「NEC - HDD プロテクション」をクリック

ハードディスク・アクティブプロテクション・システムの設定ユーティリティが表示されます。

使用上の注意

- ハードディスク・アクティブプロテクション・システムはパソコン本体の傾き・落下・衝撃を検出するとハードディスクのヘッドを退避し、ハードディスクが損傷する危険性を軽減するものです。
ただし、ハードディスクの無破損・無故障を完全に保証するものではありませんので、重要なデータはこまめにバックアップをとることをおすすめします。
- 衝撃を感知するとハードディスクのヘッドを退避するため、パソコンを操作することができません。ヘッドの退避が解除されるまでしばらくお待ちください。

インストール

ハードディスク・アクティブプロテクション・システムのインストール

- 1 Windowsを起動する
- 2 光学ドライブに「アプリケーションディスク」をセットする
- 3 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック
- 4 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック
 - Windows 7 64ビットをお使いの場合
D:¥APS¥setup.exe
 - Windows 7 32ビットをお使いの場合
D:¥APS VB¥setup.exe

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

- 5 「InstallShield ウィザードを完了しました」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック
- 6 「ハードディスク・アクティブプロテクション・システムのInstaller 情報」画面で「はい」ボタンをクリック

Windowsが再起動します。

- 7 光学ドライブから「アプリケーションディスク」を取り出す

以上でハードディスク・アクティブプロテクション・システムのインストールは終了です。

アンインストール

ハードディスク・アクティブプロテクション・システムをアンインストールする場合は、「[アンインストールについて \(P. 240\)](#)」を参照してください。



チェック

アンインストール中に「インストールを継続するには、次のアプリケーションを閉じる必要があります」と表示されたら、「セットアップの完了後、アプリケーション自動的に終了して、再起動する(C)」を選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。

Access Connections

[061100-27]

概要	254
使用上の注意	255
Access Connectionsでの無線LAN機能のオン／オフ	256
Access Connectionsでの無線LANの設定と接続	257
Access Connectionsでの有線LANの設定と接続	259
インストール	259
アンインストール	259

概要

Access Connectionsはネットワークの設定、接続、切り替えおよびロケーション・プロファイルのインポートとエクスポートができます。

機能の詳細や操作方法、最新情報については、以下をご覧ください。



チェック

Access Connectionsは、工場出荷時にはインストールされていません。



メモ

Windows標準の無線LAN機能を使用して無線LANのオン／オフや設定、接続をする場合は、「本機の機能」の「[無線LAN機能 \(P. 144\)](#)」をご覧ください。

●機能の詳細や操作方法

Access Connectionsのヘルプ（Access Connectionsを起動し、 ボタンをクリック→「Access Connections ヘルプ」をクリック）



チェック

ヘルプに記載されている機能は、実際に利用できる機能と多少異なる場合があります。

起動方法

1

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Access Connections」をクリック

Access Connectionsのメインウィンドウが表示されます。



チェック

Access Connectionsは複数のユーザーで同時に使用することはできません。

複数のユーザーがログオンしている環境で他のユーザーがAccess Connectionsのメインウィンドウを起動すると「Access Connectionsは、別のユーザーによって使用されています。別のユーザーをログオフし、もう一度実行してください。」と表示され、Access Connectionsを使用することができません。

ユーザーの切り替えを行う場合、Access Connectionsのメインウィンドウを閉じてからユーザーを切り替えてください。

使用上の注意

- 本アプリケーションを使用する前に、「本機の機能」の「無線LAN機能」に記載している以下の内容をあわせてご覧ください。
 - 概要..... 145
 - 本機を安全にネットワークに接続するために..... 147
 - 無線LAN製品ご使用時におけるセキュリティに関するご注意..... 149
 - 使用上の注意..... 151
- 有線LANのリモートパワーオンについて
有線LANのプロファイルの設定にある「イーサネットのWake-On-LAN設定を選択する」をご使用になる場合は以下をご覧ください、リモートパワーオン機能を有効にしてください。



参照

リモートパワーオン (WoL (Wake on LAN)) 機能について

「本機の機能」の「LAN機能」 - 「リモートパワーオン (WoL (Wake on LAN)) 機能 (P. 139)」

- ネットワークの切断について
ネットワークの切断を行うと無線LAN機能が自動的にオフに変更されます。無線LAN機能がオフになった場合、下記の手順で無線LAN機能をオンにしてください。

1

「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2

「ハードウェアとサウンド」をクリックし、「Windows モビリティ センター」をクリック

3

「ワイヤレス ネットワーク」にある「ワイヤレスをオンにする」ボタンをクリック

- カスタムテキストサイズの設定について
カスタムテキストサイズの設定 (DPI) を既定の100%から150%に変更した場合、Access Connectionsが画面からはみ出る場合があります。その場合は、カスタムテキストサイズの設定 (DPI) を150%から既定の100%に変更してご使用ください。

1

「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2

「デスクトップのカスタマイズ」をクリック

3

「ディスプレイ」の「テキストやその他の項目の大きさの変更」をクリック

4 「小 - 100% (既定)」を選択し「適用」ボタンをクリック

カスタムテキストサイズの設定 (DPI) でテキストのサイズを変更する場合は、左側の「カスタム テキストサイズの設定 (DPI)」をクリックして設定してください。

5 ログオフを促すメッセージが表示されたら、「今すぐログオフ」ボタンをクリック

Windowsからログオフします。

ログオン画面が表示されたら、ログオンしなおしてください。

● インターネットに接続されていない場合について

本アプリケーションは.NET Frameworkの仕様で、起動時にMicrosoft社のサーバーへアクセスを試みます。本機がインターネットに接続されていない場合は、サーバーを見つけようとするために通常より起動に時間がかかることがあります。

Access Connectionsでの無線LAN機能のオン／オフ

タスク バーの通知領域から「ワイヤレス ステータス アイコン ()」を使って、無線LAN機能のオン／オフを切り替えることができます。



チェック

インストール直後の状態では、タスク バーの通知領域に「ワイヤレス ステータス アイコン ()」は表示されません。

以下の手順でタスク バーの通知領域に「ワイヤレス ステータス アイコン ()」を表示する設定を行ってください。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Access Connections」をクリック

2 「切替」が「アドバンスへ」と表示されている場合は「アドバンスへ」ボタンをクリック

「切替」が「ベーシックへ」と表示されている場合は手順3へ進んでください。

3 「ツール」にある「グローバル設定」をクリック

4 「グローバル設定」画面の「通知」タブにある「タスク トレイにワイヤレス ステータス アイコンを表示する」にチェックを付ける

5 「OK」ボタンをクリック

無線LAN機能をオンにする場合



チェック

この方法で切り替えるには、ワイヤレス機能がオンになっている必要があります。

1 タスク バーの通知領域にある「ワイヤレス ステータス アイコン (📶)」をクリック

2 表示されるメニューから「無線をオンにする」をクリック

無線LAN機能をオフにする場合

1 タスク バーの通知領域にある「ワイヤレス ステータス アイコン (📶)」をクリック

2 表示されるメニューから「無線をオフにする」をクリック

Access Connectionsでの無線LANの設定と接続

無線LANの設定をする

「ベーシック・ビュー」で設定する方法を説明します。

「アドバンス・ビュー」の「インターネットに接続」や「アドバンス・ビュー」の「プロファイル」で設定したい場合は、「Access Connections ヘルプ」をご覧ください。

1 無線LAN機能がオンになっていることを確認する

無線LAN機能がオフになっている場合は、「[Access Connectionsでの無線LAN機能のオン／オフ \(P. 256\)](#)」をご覧ください。



参照

無線LAN機能のオン／オフについて

「本機の機能」の「無線LAN機能」 - 「[無線LAN機能のオン／オフ \(P. 153\)](#)」

2 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Access Connections」をクリック

3 「切替」が「アドバンスへ」と表示されている場合は「アドバンスへ」ボタンをクリック

「切替」が「ベーシックへ」と表示されている場合は手順4へ進んでください。

4 「インターネットに接続」タブをクリック

ネットワーク名 (SSID) の一覧が表示されます。

5 接続する無線LANアクセスポイントのネットワーク名（SSID）をクリック



チェック

- 選択した無線LANアクセスポイントに間違いがないか、ネットワーク名（SSID）を確認してください。
- ネットワーク名（SSID）の一覧に接続するネットワーク名（SSID）が表示されない場合は、「再検索」ボタンをクリックしてください。それでもネットワーク名（SSID）が表示されない場合は、無線LANアクセスポイントがネットワーク名（SSID）を通知しない設定になっている場合があります。無線LANアクセスポイントの設定を確認し、「Access Connections ヘルプ」をご覧ください。また「アドバンス・ビュー」の「ロケーション プロファイルの作成」で無線LANの設定を行ってください。

6 「接続」ボタンをクリック

7 「ネットワークにはネットワーク・キーが必要です。」と表示されたら、「パスワード」を入力して「接続」ボタンをクリック

8 「この接続をロケーションの1つとして保存しますか？」と表示されたら、「ロケーション名」を入力して「保存」ボタンをクリック

以上で設定は完了です。

設定済みの接続先に接続する

1 無線LAN機能がオンになっていることを確認する

無線LAN機能がオフになっている場合は、「[Access Connectionsでの無線LAN機能のオン／オフ \(P. 256\)](#)」をご覧ください。無線LAN機能をオンにしてください。



参照

無線LAN機能のオン／オフについて

「本機の機能」の「無線LAN機能」 - 「[無線LAN機能のオン／オフ \(P. 153\)](#)」

2 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Access Connections」をクリック

3 「切替」が「アドバンスへ」と表示されている場合は「アドバンスへ」ボタンをクリック

「切替」が「ベーシックへ」と表示されている場合は手順4へ進んでください。

4 「ロケーション」にある接続先から接続するロケーション プロファイルを選択し、「接続」ボタンをクリック

以上で接続は完了です。

■ Access Connectionsでの有線LANの設定と接続

Access Connectionsで有線LANの設定や接続をする場合は、「Access Connections ヘルプ」をご覧ください。

■ インストール

Access Connectionsのインストール

- 1 Windowsを起動する**
- 2 光学ドライブに「アプリケーションディスク」をセットする**
- 3 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック**
- 4 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック**
D:¥Nxsetup.exe
- 5 「Access Connections」を選択し、「インストール」ボタンをクリック**
これ以降の操作は画面の指示に従ってください。
- 6 「InstallShield ウィザードを完了しました」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック**
- 7 再起動を促すメッセージが表示されたら、「はい」ボタンをクリック**
- 8 Windowsを再起動後、光学ドライブから「アプリケーションディスク」を取り出す**

以上でAccess Connectionsのインストールは終了です。

■ アンインストール

Access Connectionsをアンインストールする場合は、「[アンインストールについて \(P. 240\)](#)」を参照してください。



チェック

- 「ユーザー アカウント制御」画面にある「発行元」が「不明」と表示されますが問題ありません。
- アンインストール中に「システムの実行中に更新できないファイルまたはサービスを、セットアップで更新する必要があります。続行する場合は、セットアップを完了するために再起動が必要となります。」と表示されたら、「OK」ボタンをクリックしてください。
- アンインストール中に「Access Connections プロファイルを続けてご利用になりますか？」と表示されたら、「いいえ」ボタンをクリックしてください。

DeviceLock Lite

[061200-27]

➤ 概要.....	261
➤ 使用上の注意.....	261
➤ インストール.....	262
➤ アンインストール.....	262

概要

DeviceLock Lite (以下、DeviceLock) は、外部デバイスへのデータ漏えいを防止する情報漏えい対策ソフトウェアです。機能の詳細や操作方法、制限事項については、以下をご覧ください。



チェック

- DeviceLockは、工場出荷時にはインストールされていません。
- DeviceLockのインストールには、Windows 10 Pro 64ビット用の「アプリケーションディスク」が必要です。

●機能の詳細や操作方法、制限事項

DeviceLock User Manual (Windows 10 Pro 64ビット用の「アプリケーションディスク」内の「DeviceLock ¥DeviceLock User Manual.chm」)

使用上の注意

CyberLink Power2Goと同時に使用する場合の注意

DeviceLockで書き込みを制限していると、CyberLink Power2Goを使用してメディアへ書き込みやファイルバックアップはできません。

メディアへ書き込みやファイルバックアップを行う場合は、DeviceLockで光学ドライブを機器単位で有効に設定するか、書き込み制限を解除してください。

CyberLink PowerDVDと同時に使用する場合の注意

バッテリー駆動中に、CyberLink PowerDVDを使用してDVDを再生する場合は、CyberLink PowerDVDの電源設定を変更する必要があります。

設定方法については、「CyberLink PowerDVD」の「使用上の注意 (P. 272)」をご覧ください。

Bluetoothの制御をする場合の注意

Bluetoothの制御機能は、マウス、キーボードのみ使用禁止にできます。

携帯電話等とのファイル送受信については使用禁止にできません。

各種デバイス接続時の注意

DeviceLockの制御機能は、接続したデバイスを監視するため、通常の接続よりも認識に時間がかかる場合があります。

インストール

DeviceLockのインストール

- 1 Windowsを起動する
- 2 光学ドライブに、Windows 10 Pro 64ビット用の「アプリケーションディスク」をセットする
- 3 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック
- 4 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック
D:¥Nxsetup.exe
- 5 「DeviceLock」を選択し、「インストール」ボタンをクリック
これ以降の操作は画面の指示に従ってください。
- 6 インストールが終了したら、Windowsを再起動する
- 7 Windowsを再起動後、光学ドライブから、Windows 10 Pro 64ビット用の「アプリケーションディスク」を取り出す

以上でDeviceLockのインストールは終了です。

アンインストール

DeviceLockをアンインストールする場合は、「[アンインストールについて \(P. 240\)](#)」を参照してください。

Acrobat Reader DC

[061300-07]

概要	263
使用上の注意	263
インストール	264
アンインストール	264

概要

Acrobat Reader DCはPDF（Portable Document Format）形式のマニュアルの表示、閲覧、印刷を行うことができるビューアです。

機能の詳細、操作方法、および最新情報については、以下をご覧ください。

●機能の詳細や操作方法

ヘルプ（Acrobat Reader DCを起動し、「ヘルプ」→「オンラインサポート」をクリック）



チェック

ヘルプを参照するにはインターネットに接続できる環境が必要です。

●Acrobat Reader DCの最新の情報

<http://www.adobe.com/jp/index.html>



チェック

Webサイトを定期的にご覧になり、最新情報を確認することをおすすめします。

起動方法

1

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「Acrobat Reader DC」をクリック



メモ

初回起動時、使用許諾契約の画面が表示される場合があります。内容を確認し、承諾してください。
また、機能を紹介する画面が表示された場合は、画面の指示に従ってください。

Acrobat Reader DCの画面が表示されます。

使用上の注意

「入力と署名」の機能にある「さらに詳しく」のリンク先が正しく表示されない場合は、ブラウザで「<https://helpx.adobe.com/jp/reader/using/fill-and-sign.html>」と入力してください。

インストール



チェック

「C:¥MAVP¥AdobeAcrobatReaderDC¥setup.exe」をダブルクリックすることで簡単にインストールできます。

Acrobat Reader DCのインストール

アプリケーションディスクをご利用になる場合は、次の手順でインストールしてください。

1

Windowsを起動する

2

光学ドライブに「アプリケーションディスク」をセットする

3

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

4

「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

D:¥AdobeAcrobatReaderDC¥setup.exe

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5

インストールが完了したら、Windowsを再起動する

6

Windowsを再起動後、光学ドライブから、「アプリケーションディスク」を取り出す

以上でAcrobat Reader DCのインストールは終了です。

アンインストール

Acrobat Reader DCをアンインストールする場合は、「[アンインストールについて \(P. 240\)](#)」を参照してください。

ECOモード設定ツール

[061400-27]

概要	265
インストール	265
アンインストール	266

概要

【Fn】 + 【F4】、または設定したホットキーで簡単にモード（電源プラン）を切り替えることができます。
機能の詳細、操作方法については、以下をご覧ください。



チェック

内蔵バッテリー無しモデルをお使いの場合、ECOモード設定ツールはインストールされています。
追加の必要はありません。



参照

機能の詳細、操作方法について

「本機の機能」の「省電力機能」 - 「ECOモード機能 (P. 40)」

設定方法

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ECOモード設定ツール」→「ECOモード設定ツール」をクリック

ECOモード設定ツールの設定画面が表示されます。

インストール

ECOモード設定ツールのインストール

1 Windowsを起動する

2 光学ドライブに「ピークシフト設定ツール/ECOモード設定ツール ディスク」をセットする

3 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

4 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

- Windows 7 64ビットをお使いの場合

D:¥NPSpeed(Win7 64bit)¥setup.exe PS="VP" CHM="VP" Delay="0000:30"

- Windows 7 32ビットをお使いの場合

D:¥NPSpeed(Win7 32bit)¥setup.exe PS="VP" CHM="VP" Delay="0000:30"

5 「ECOモード設定ツール セットアップ ウィザードへようこそ」画面が表示されたら、「次へ」ボタンをクリック

6 「インストールが完了しました。」画面が表示されたら、「閉じる」ボタンをクリック

7 再起動を促すメッセージが表示されたら、「いいえ」ボタンをクリック

8 光学ドライブから「ピークシフト設定ツール/ECOモード設定ツール ディスク」を取り出し、Windowsを再起動する

以上でECOモード設定ツールのインストールは終了です。

■ アンインストール

ECOモード設定ツールをアンインストールする場合は、「[アンインストールについて \(P. 240\)](#)」を参照してください。



チェック

アンインストール中に「インストールを続行するには、次のアプリケーションを終了する必要があります」と表示された場合は、「セットアップの完了後、アプリケーションを自動的に終了して、再起動する」を選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。

ピークシフト設定ツール

[061500-27]

概要	267
インストール	267
アンインストール	268

概要

電力需要がピークに達する時間帯の電力消費を、他の時間帯に移行することをピークシフトといいます。本機は、「ピークシフト設定ツール」で設定を行うことで「ピークシフト機能」を使用できます。機能の詳細や使用上の注意、操作方法については、以下をご覧ください。



参照

機能の詳細や使用上の注意、操作方法について

「本機の機能」の「省電力機能」 - 「[ピークシフト機能 \(P. 44\)](#)」



チェック

内蔵バッテリー無しモデルをお使いの場合、ピークシフト設定ツールはインストールされています。追加の必要はありません。

設定方法

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ピークシフト設定ツール」→「ピークシフト設定ツール」をクリック

ピークシフト設定ツールの設定画面が表示されます。

インストール

ピークシフト設定ツールのインストール

1 Windowsを起動する

2 光学ドライブに「ピークシフト設定ツール/ECOモード設定ツール ディスク」をセットする

3 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

4 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

- Windows 7 64ビットをお使いの場合
D:¥PeakShiftTool(Win7 64bit)¥setup.exe

- Windows 7 32ビットをお使いの場合
D:¥PeakShiftTool(Win7 32bit)¥setup.exe

5 「ピークシフト設定ツール セットアップ ウィザードへようこそ」画面が表示されたら、「次へ」ボタンをクリック

6 「インストールが完了しました。」画面が表示されたら、「閉じる」ボタンをクリック

7 再起動を促すメッセージが表示されたら、「いいえ」ボタンをクリック

8 光学ドライブから「ピークシフト設定ツール/ECOモード設定ツール ディスク」を取り出し、Windowsを再起動する

以上でピークシフト設定ツールのインストールは終了です。

■ アンインストール

ピークシフト設定ツールをアンインストールする場合は、「[アンインストールについて \(P. 240\)](#)」を参照してください。



チェック

アンインストール中に「インストールを続行するには、次のアプリケーションを終了する必要があります」と表示された場合は、「セットアップの完了後、アプリケーションを自動的に終了して、再起動する」を選択し、「OK」ボタンをクリックしてください。

➤ 概要.....	269
➤ 使用上の注意.....	270
➤ インストール.....	270
➤ アンインストール.....	271

概要

CyberLink Power2Goの主な機能

CyberLink Power2Go は、すべてのドライブおよびディスク (CD、DVDなど) に対応するPC向けのオール メディア ライティング ソフトです。

CyberLink Power2Go を使うと、データ ディスクやミュージック ディスクなどの作成、書き込みができます。ディスク ユーティリティを使ってディスクを消去、コピーすることもできます。

対応するファイル タイプ

データ ディスク (あらゆるファイル タイプが書き込み可能なもの) を除き、音楽、動画、画像ディスクの作成時にインポート可能なファイル形式は次の通りです。

- **音声形式:**MP3、M4A、WAV、WMA
- **動画形式:**ASF、AVI、DAT、DVR-MS、M2T、M2TS、MOV、MOD、MP4、MPE、MPEG、MPG、MTS、TS、TOD、VOB、VRO、WMV、WTV

対応するディスク タイプ

CyberLink Power2Go は次のディスク タイプの書き込みに対応しています。

- **CD:**CD-R/RW
- **DVD:**DVD-R/RW、DVD-R/RW DL、DVD+R/RW、DVD+R/RW DL、DVD-RAM

●機能の詳細や操作方法

- CyberLink Power2Goのヘルプ

1 「CyberLink Power2Go 8」を起動する

2 ホーム画面の右上にある ? をクリックする

起動方法

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「CyberLink Power2Go 8」→「CyberLink Power2Go 8」をクリック

CyberLink Power2Go の画面が表示されます。

使用上の注意

- データ ディスクを書き込む際に、コンテンツが追記可能なマルチセッション ディスクを作成することができます (ディスクに空き容量がある場合)。CD、DVDへの書き込みで、マルチセッション ディスクを作成することができます (追記禁止を選択していない場合)。
- マルチセッション ディスクでは、ディスク容量が上限に達するか、追記禁止を選択するまで、コンテンツを何度も追記することができます。
- 媒体に傷が付いていたり、誤ってデータを削除してしまうと、データの復旧ができません。重要なデータは必ずバックアップを取るようになしてください。
- 書き込みまたはフォーマットを行っている際に表示される進捗状況バー、および推定残り時間は、実際の処理と合わない場合がありますが動作に影響はありません。

インストール

CyberLink Power2Go のインストール

CyberLink Power2Goは工場出荷時にプリインストールされています。改めてインストールしたい場合は、次の手順に従ってCyberLink Power2Goをインストールしてください。

1 Windowsを起動する

2 光学ドライブに「CyberLink Power2Go ディスク」をセットする

3 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

4 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

D:¥Power2Go(Win7Win8.1)¥Setup.exe

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 「InstallShield Wizard の完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック

6 光学ドライブから「CyberLink Power2Go ディスク」を取り出す

以上でCyberLink Power2Go のインストールは終了です。

アンインストール

CyberLink Power2Goをアンインストールする場合は、「[アンインストールについて \(P. 240\)](#)」を参照してください。

概要	272
使用上の注意	272
インストール	274
アンインストール	275

概要

DVDを再生することができます。
機能の詳細、操作方法については、以下をご覧ください。



チェック

CyberLink PowerDVDは、工場出荷時にはインストールされていません。

●機能の詳細や操作方法

「CyberLink PowerDVD」のヘルプ（画面右上の「？」ボタンをクリックすることで開くことができます）



チェック

- CyberLink PowerDVDでは音楽CD、ビデオCD、およびDVD-Audioの再生はサポートしていません。
- 本機では、リージョンコード（国別地域番号）が「ALL」または「2」が含まれているDVDのみ再生することができます。
- お使いのモデルによってはCyberLink PowerDVDは添付されていない場合があります。「[アプリケーションの種類と機能 \(P. 238\)](#)」をご覧ください。

起動方法



1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「CyberLink PowerDVD」→「CyberLink PowerDVD」をクリック

CyberLink PowerDVD画面が表示されます。

使用上の注意

- CyberLink PowerDVDの起動中は、次のことに注意してください。
 - 他のソフトを起動しないでください。コマ落ちが発生する場合があります。
 - ソフトによっては（同じように映像を表示するタイプのソフトなど）、他のソフトが起動できないことがあります。
 - 再生中は省電力状態（スリープや休止状態）へ移行しないようになっています。電源スイッチやスタートメニューなどを使って強制的にスリープや休止状態にしないでください。
- CyberLink PowerDVDを起動中に解像度/表示色/表示するディスプレイ/デュアルディスプレイ環境時のモニタ位置の変更など、おこなわないでください。

- デュアルディスプレイ機能を使っているときにディスクを再生すると、プライマリに設定されているデバイスのみに表示される場合があります。
- HDCP (High-bandwidth Digital Content Protection) 規格に対応していない外部ディスプレイでは、著作権保護された映像をデジタル出力できません。
- 画面回転機能使用時、画面の向きが90度と270度での再生はサポートしていません。
- 電源プランを「ECO」にすると、CyberLink PowerDVDは正常に動作しない可能性があります。その場合は電源プランを「標準」に変更してください。
- DVD再生開始時やDVDディスク内タイトルの切り替え時に時間がかかることがあります。
- ビットレートの高い映像では、スムーズな再生品質を得られない場合があります。
- DVDコンテンツの作り方により、メニュー等でマウス選択できない場合があります。
- DVDタイトルの中には、DVD再生用アプリケーションを含んだものがありますが、インストールする必要はありません。
- ディスク再生時にACアダプタを接続した状態で使用することをおすすめします。
- CyberLink PowerDVD でディスクが認識しない場合は、次のような原因が考えられます。

<ディスクの確認>

- 記録面に傷や指紋などの汚れがついている
ディスクに傷が付いていると、使用できない場合があります。
また、汚れている場合は、乾いたやわらかい布で内側から外側に向かって拭いてから使用してください。
- ディスクが光学ドライブに正しくセットされていない
セットされているディスクの表裏を確認して、光学ドライブのディスクトレイの中心に、きちんとセットしてください。
- 書き込みに失敗したディスク
書き込みに失敗したディスクは読み込めない場合があります。
- ファイナライズされていないディスク
デジタルビデオカメラや、ライティングソフトで作成した場合、ファイナライズを行わないと、光学ドライブで読めない場合があります。
- 映像データファイルを記録したディスク
CyberLink PowerDVDはファイル再生には対応しておりません。
他の映像再生アプリケーション（Windows Media Playerなど）をご利用ください（その場合には、他社・コミュニティなどが用意するコーデックが必要になることがあります）。
- ディスクの劣化
記録ディスクの品質により、経年劣化、光劣化などを起こすことがあります。
ディスクを交換して試してみてください。

<ディスクの規格の確認>

AVCREC、AVCHD、ブルーレイディスクを再生させようとした可能性があります。
本機で利用できるディスクの規格を確認してください。

- AVCREC規格で記録されたDVD
著作権保護付きで、DVD媒体にハイビジョン画質のデータを記録するための規格

- AVCHD規格で記録されたDVD
ハイビジョン映像を撮影・録画するデジタルビデオカメラの規格



参照

本機で利用できるディスク

「サービス&サポート」の「商品情報検索」よりお使いの機種を検索し、「仕様一覧」をご覧ください。
<http://121ware.com/support/>

<光学ドライブの確認>

- 光学ドライブの読み取りレンズが汚れているため読み取り不良になる。
ほこりや油膜などによりレンズが汚れていると、読み込みに失敗したり、読み込み時間が長くなったりすることがあります。
レンズクリーナーでレンズをクリーニングしてください。
- 光学ドライブが、使用可能ハードウェアとして認識されていない。
DeviceLock Liteは周辺機器の使用を制限することができます。
光学ドライブを使用不可に設定していないか確認してください。
- VGA変換アダプタを使用して外部ディスプレイに接続した環境では、著作権保護されたコンテンツの再生はサポートしていません。
- DeviceLock Liteをインストールしている環境でバッテリー駆動中にCyberLink PowerDVDでDVD再生を行う場合、CyberLink PowerDVDの設定変更が必要です。
以下の手順でCyberLink PowerDVDの設定変更をおこなってください。

1 光学ドライブにディスクがセットされている場合、ディスクを取り出す

2 「CyberLink PowerDVD」を起動する

3 CyberLink PowerDVDの画面下部にあるをクリック

4 「モバイル電源設定」をクリック

5 「電源設定」で「パフォーマンス優先」を選び、「OK」をクリック



チェック

CyberLink PowerDVDのバージョンによっては、「電源設定」がない場合があります。
その場合は設定を変更する必要はありません。

インストール

CyberLink PowerDVDのインストール

1 Windowsを起動する

2 光学ドライブに「CyberLink PowerDVD ディスク」をセットする

3 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

4 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

D:¥POWERDVD(Win7Win8.1)¥setup.exe

「CyberLink PowerDVD の InstallShield Wizard へようこそ」画面が表示されます。
これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

5 「InstallShield Wizard の完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック

6 光学ドライブから「CyberLink PowerDVD ディスク」を取り出し、Windowsを再起動する

以上でCyberLink PowerDVDのインストールは終了です。

アンインストール

CyberLink PowerDVDをアンインストールする場合は、「[アンインストールについて \(P. 240\)](#)」を参照してください。



チェック

アンインストール中に「CyberLink PowerDVD の個人設定を保持しますか？」と表示されたら、「いいえ」ボタンをクリックしてください。

CyberLink PowerBackup

[063800-07]

概要.....	276
使用上の注意.....	277
インストール.....	277
アンインストール.....	277

概要

CyberLink PowerBackup は、ローカルディスクにあるデータをDVD等の外部メディアにバックアップできるバックアップ ソフトウェアです。



チェック

CyberLink PowerBackupは、工場出荷時にはインストールされていません。

CyberLink PowerBackupの主な機能

- バックアップ、リストアおよび比較機能
- 完全 (すべて)、増分および差分バックアップ
- バックアップ間隔スケジュールの設定 (1 回、毎日、毎週、毎月)
- 複数ボリューム バックアップ
- CD-R/-RW、DVD-R/-RW、DVD+R/+RW、DVD-R DL/+R DLおよびDVD-RAMディスク タイプのサポート
- すでにファイルが含まれているディスクなど、あらゆるディスク サイズに合わせて自動調整
- ハード ディスク、USB、MO ドライブのサポート
- データ圧縮
- パスワード保護
- 特定の拡張子のファイルにフィルターを適用するため、フィルター リストを作成
- ファイルの検索
- バックアップ ファイルの名前を指定

●機能の詳細や操作方法

● CyberLink PowerBackupのヘルプ

1 「CyberLink PowerBackup 2.6」を起動する

2 「ヘルプ」メニューの「ヘルプ」をクリック

起動方法

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「CyberLink PowerBackup 2.6」→「CyberLink PowerBackup 2.6」をクリック

CyberLink PowerBackupの画面が表示されます。

使用上の注意

- ヘルプは多重起動できます。
- ネットワークに接続していない状態で、アップグレードボタンを押しても反応しません。

インストール

CyberLink PowerBackup のインストール

- 1 Windowsを起動する
- 2 光学ドライブに「CyberLink PowerBackup ディスク」をセットする
- 3 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック
- 4 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック
D:¥PowerBackup(Win7Win8.1)¥setup.exe

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。
- 5 「InstallShield Wizard の完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック
- 6 光学ドライブから「CyberLink PowerBackup ディスク」を取り出す

以上でCyberLink PowerBackup のインストールは終了です。

アンインストール

CyberLink PowerBackupをアンインストールする場合は、「[アンインストールについて \(P. 240\)](#)」を参照してください。

ウイルスバスター クラウド

[063000-27]

➤ 概要.....	278
➤ 使用上の注意.....	279
➤ インストール.....	280
➤ アンインストール.....	280

概要

ウイルスバスター クラウドは、リアルタイムのウイルス対策とマルウェア対策、迷惑メール対策、情報漏えい対策機能などを搭載した、包括的なセキュリティソフトウェアです。



チェック

ウイルスバスター クラウドは、工場出荷時にはインストールされていません。

機能の詳細、操作方法、制限事項、および最新情報については、以下をご覧ください。

●機能の詳細や操作方法

ウイルスバスター クラウドのヘルプとサポート情報、およびランサムウェア対策ヘルプ（ウイルスバスター クラウドを起動して、ホーム画面の右上にある「？」ボタンをクリック）



チェック

ウイルスバスター クラウドのヘルプやサポート情報などを確認するには、インターネットへの接続が必要です。

●動作環境、制限事項に関する情報

無料体験版の有効期間は、初めてウイルスバスター クラウドをセットアップした時点から90日間です。有効期間が終了すると、すべての機能が利用できなくなります。

ウイルスバスター クラウドを引き続きご利用になる場合は、製品版を購入する必要があります。

購入に関する詳細な情報は、以下のウェブサイトをご覧ください。

<http://www.trendmicro.co.jp/>

●ウイルスバスター クラウドの最新の情報

<http://www.trendmicro.co.jp/>



チェック

コンピュータウイルスを検出した場合は、『メンテナンスとアフターケアについて』をご覧ください。

設定方法

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ウイルスバスター クラウド」→「ウイルスバスターの表示」をクリック

ウイルスバスター クラウドのメイン画面が表示されます。

使用上の注意

アップデートについて

- ウイルスバスター クラウドのアップデートは、インターネットに接続して行われます。自動アップデート機能を利用するには、コンピュータを常にインターネットに接続しておく必要があります。
- 長期間、インターネットに接続せずにいると、アップデートを促す画面が表示されることがあります。画面の指示に従ってアップデートを行ってください。
- オンラインユーザ登録を行うと、自動アップデート機能が常に有効になるため、通常は手動でアップデートする必要はありません。

スキャンについて

ウイルスバスター クラウドは、定期的にウイルスやスパイウェアのスキャンを行います。よって、通常は手動でスキャンする必要はありません。ただし、以下のような場合はコンピュータにウイルスやスパイウェアが潜んでいる可能性があるため、手動でスキャンを行ってください。

- ウイルスバスター クラウドをインストールした直後
- しばらくインターネットに接続していなかった場合

手動スキャンを行う場合は、「手動スキャンについて」を参照してください。

手動スキャンについて

手動スキャンを行う場合は、次の手順で行ってください。

- 1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「ウイルスバスター クラウド」→「ウイルスバスターの表示」をクリック

- 2 「スキャン」をクリック

スキャンが終了すると、スキャン結果が表示されます。

- 3 スキャン結果を確認し、「閉じる」をクリック

以上で手動スキャンは終了です。

インストール



チェック

- 本機に他のセキュリティ対策製品がインストールされている場合は、あらかじめアンインストールしてから、ウイルスバスター クラウドをインストールしてください。
- デスクトップにある「ウイルスバスター クラウド」アイコンをダブルクリックすることで簡単にインストールできます。
- 本機を再セットアップした場合は、デスクトップに「ウイルスバスター クラウド」アイコンは表示されません。



メモ

インストール時に、使用許諾契約の画面が表示される場合があります。内容を確認し、承諾してください。また、機能を紹介する画面が表示された場合は、画面の指示に従ってください。

ウイルスバスター クラウドのインストール

1

Windowsを起動する

2

光学ドライブに「アプリケーションディスク」をセットする

3

「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

4

「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

D:¥Nxsetup.exe

5

「ウイルスバスター クラウド」を選択し、「インストール」ボタンをクリック

これ以降の操作は画面の指示に従ってください。

6

「インストール完了」と表示されたら、「完了」ボタンをクリック

7

Windowsを再起動後、光学ドライブから「アプリケーションディスク」を取り出す

以上でウイルスバスター クラウドのインストールは終了です。

アンインストール

ウイルスバスター クラウドをアンインストールする場合は、「[アンインストールについて \(P. 240\)](#)」を参照してください。

トラブル解決Q&A

[100000-27]

➤ 電源.	282
➤ バッテリ.	286
➤ 表示.	291
➤ ファイル保存.	294
➤ LAN機能.	297
➤ 無線LAN機能.	300
➤ サウンド.	303
➤ 印刷.	306
➤ セキュリティチップ機能.	308
➤ ハードディスク.	313
➤ SSD.	315
➤ 光学ドライブ.	317
➤ 周辺機器.	321
➤ Bluetooth機能.	323
➤ アプリケーション.	325
➤ 再セットアップ.	332
➤ その他.	335

[100100-27]

- 「ユーザー名またはパスワードが正しくありません。」と表示された..... 283
- ネットワークブートができない..... 284
- USBキーボードから復帰する際に使用したキーが復帰後に入力されていることがある..... 285

Q : 「ユーザー名またはパスワードが正しくありません。」
と表示された

[100106-27]

A : キャップスロックやニューメリックロックの状態を確認し、もう一度パスワードを入力してください。

キャップスロックやニューメリックロックの状態によって、入力される文字が異なり、パスワードを正しく入力できない場合があります。

キャップスロックやニューメリックロックでキャップスロックやニューメリックロックの状態を確認し、オン/オフを切り替えて、もう一度パスワードを入力してください。

キャップスロックのオン/オフは【Shift】 + 【Caps Lock】で切り替えることができます。

ニューメリックロックのオン/オフは【Fn】 + 【F12】を押すことで切り替えることができます。

A : ユーザー名を確認し、もう一度パスワードを入力してください。

選択したユーザー名を確認し、選択したユーザーのパスワードをもう一度正しく入力してください。

Q : ネットワークブートができない

[100903-20]

A : ネットワークブート機能（PXE機能）が有効になっているかを確認してください。

ネットワークブートを使用するには、ネットワークブート機能（PXE機能）を有効にする必要があります。



参照

ネットワークブート機能（PXE機能）の設定について
「ネットワークブート機能（PXE機能）（P. 143）」

Q : USBキーボードから復帰する際に使用したキーが復帰後に入力されていることがある

[100213-27]

A : 次の手順で設定を行ってください。



チェック

- 管理者（Administrator）権限を持つユーザーで行ってください。
- これらの手順を行う前に、実行中のアプリケーションを全て終了してください。
- 別売りのUSBテンキーボード2（PC-VP-KB13）を利用している場合、この手順を実行後、USBテンキーボード2でスリープから復帰するとUSBテンキーボード2のキー入力ができなくなる場合があります。その場合は、電源スイッチでスリープから復帰するなど他の方法で復帰してください。また、現象が発生した場合はUSBテンキーボード2を接続し直してください。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

2 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

C:¥MAVP¥FHCROR

3 表示されたフォルダにある「FHCROR」を右クリックし「管理者として実行」をクリック

コマンド プロンプトが表示されますが、しばらくすると自動的に閉じます。

4 Windowsを再起動する

以上で設定は完了です。

Q&A : バッテリ

[100300-27]

- 本機にACアダプタを取り付け、ACコンセントに接続してもバッテリーの充電が始まらない. 287
- タスク バーの通知領域に電源アイコンが表示されない. 288
- 満充電したのに、バッテリー充電ランプが点灯する. 289
- バッテリー充電ランプが点滅する. 290

Q : 本機にACアダプタを取り付け、ACコンセントに接続してもバッテリーの充電が始まらない

[100301-27]

A : バッテリー充電ランプを確認してください。

● バッテリー充電ランプが点滅している場合

- バッテリーパックが接触不良を起こしている可能性があります。バッテリーパックを取り外し、取り付けなおしてください。
- 内蔵バッテリーにエラーが発生しています。ACアダプタを取り外し、取り付けなおしてください。
それでもエラーが発生する場合は、内蔵バッテリーの交換が必要です。
内蔵バッテリーの交換については、121コンタクトセンターまたはビジネスPC修理受付センターにご相談ください。

● バッテリー充電ランプが消灯している場合

バッテリーが満充電、または満充電に近い状態の可能性があります。そのような状態では、充電が始まらない場合があります。

Q : タスク バーの通知領域に電源アイコンが表示されない

[100302-07]

A : 次の手順で設定してください。

- 1 「スタート」 ボタン→「コントロール パネル」をクリック
- 2 「デスクトップのカスタマイズ」をクリックし、「タスク バーと [スタート] メニュー」をクリック
- 3 「タスク バー」 タブをクリックし、「通知領域」の「カスタマイズ」 ボタンをクリック
- 4 「電源」の動作欄で「アイコンと通知を表示」を選択する
- 5 「OK」 ボタンをクリック
- 6 「OK」 ボタンをクリック

Q：満充電したのに、バッテリー充電ランプが点灯する

[100303-27]

A：故障ではありません。バッテリーは少しずつ自然放電しているので、それを補充するため、本機にACアダプタを取り付け、ACコンセントに接続しているときは自動的に充電が始まります。

Q : バッテリ充電ランプが点滅する

[100304-27]

A : 電源を切り、ACアダプタとバッテリーパックを取り外してからもう一度正しく取り付けなおしてください。

ACアダプタとバッテリーパックを取り付けなおしても直らない場合は、バッテリーリフレッシュを行ってください。バッテリーリフレッシュを行っても直らない場合は、バッテリーの寿命ですので、バッテリーの交換が必要です。

バッテリーパックについては、別売のバッテリーパックと交換してください。

内蔵バッテリーについては、121コンタクトセンターまたはビジネスPC修理受付センターにご相談ください。



参照

バッテリーリフレッシュ、バッテリーパックの交換について

「本機の機能」の「[バッテリー \(P. 48\)](#)」

[100600-27]

- 外部ディスプレイで画面が流れるように表示される. 292
- 外部ディスプレイ接続時にアイコンの位置がおかしい. 293

Q：外部ディスプレイで画面が流れるように表示される

[100611-27]

A：お使いのディスプレイのディスプレイ情報ファイルを最新のものに更新してください。

一部のDDC対応ディスプレイにおいて、ディスプレイ情報ファイルがないためにディスプレイの同期がとれず、画面が流れるように表示される場合があります。

この場合には、ディスプレイ製造元より最新のディスプレイ情報ファイルを入手し、セットアップしてください。

Q : 外部ディスプレイ接続時にアイコンの位置がおかしい

[100612-27]

A : メイン ディスプレイの切り替え操作を行うとデスクトップ アイコンがメイン ディスプレイに正しく表示されない場合があります。



参照

文書番号 : 2475327

「Windows 7 で複数台のモニターを使用し、プライマリ ディスプレイの切り替えを行うと、デスクトップ上のアイコンが変更したディスプレイに表示されない場合がある」

詳しくは「[サポート技術情報について \(P. 12\)](#)」を参照してください。

Q&A : ファイル保存

[100800-27]

- はじめに確認してください. 295
- DVD、CDにデータを書き込めない（保存できない）. 296

はじめに確認してください

[100801-27]

DeviceLock Liteで光学ドライブの機能を制限していないか確認してください。

DeviceLock Liteは周辺機器の使用を制限するアプリケーションです。

DeviceLock Liteをインストールしている場合は、DeviceLock管理コンソールを起動し、設定を確認してください。



参照

DeviceLock Liteについて

「便利な機能とアプリケーション」の「[DeviceLock Lite \(P. 261\)](#)」

Q : DVD、CDにデータを書き込めない（保存できない）

[101711-07]

A : 「光学ドライブ」の「はじめに確認してください (P. 318)」の内容をご確認ください。

[100900-27]

- ネットワークブートができない. 298
- 動作が不安定になった. 299

Q : ネットワークブートができない

[100903-20]

A : ネットワークブート機能（PXE機能）が有効になっているかを確認してください。

ネットワークブートを使用するには、ネットワークブート機能（PXE機能）を有効にする必要があります。



参照

ネットワークブート機能（PXE機能）の設定について
「ネットワークブート機能（PXE機能）（P. 143）」

Q：動作が不安定になった

[100904-07]

A：LANに接続して通信中にスリープ状態や休止状態にすると、本機が正常に動作しなくなることがあります。

LANに接続して通信中にスリープ状態や休止状態にすると、本機が正常に動作しなくなることがあります。通信中にスリープ状態や休止状態にしないでください。

Windowsの電源プランで自動的にスリープ状態になる設定をしている場合は、設定を解除してください。

[101000-27]

- 「ネットワーク」上のコンピュータのアイコンをダブルクリックしても内容が表示されない. 301
- Windows 7のService Pack 1(KB976932)をアンインストール後、デバイス マネージャーの「Intel(R) Dual Band Wireless-AC 8260」に「！」が表示される. 302

Q : 「ネットワーク」上のコンピュータのアイコンをダブルクリックしても内容が表示されない

[101004-20]

A : 相手のコンピュータに共有しているフォルダやプリンタなどがない可能性があります。

相手のコンピュータ上で共有化したいフォルダやプリンタを共有する設定にしてください。

Q : Windows 7のService Pack 1(KB976932)をアンインストール後、デバイス マネージャーの「Intel(R) Dual Band Wireless-AC 8260」に「！」が表示される

[101007-27]

A: マイクロソフトの次のサイトから更新プログラム(KB2685811)を入手して適用してください。

●Windows Vista、Windows Server 2008、Windows 7およびWindows Server 2008 R2用 カーネル モード ドライバー フレームワーク バージョン 1.11 更新プログラム

<https://support.microsoft.com/kb/2685811>

更新プログラム

- Windows7 64 Bit用 : kmdf-1.11-Win-6.1-x64.msu
- Windows7 32 Bit用 : kmdf-1.11-Win-6.1-x86.msu

[101200-27]

- HDMI接続した機器から音声が出力されない. 304

Q : HDMI接続した機器から音声出力されない

[101209-27]

A : HDMIの映像が正しく表示されているか確認してください。

映像が正しく表示されていない場合は、テレビや外部ディスプレイとの接続、設定を確認してください。

A : 接続している機器が、HDMIの音声出力のサンプリングレートに対応しているか確認してください。

次の手順で確認してください。

1 「スタート」ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2 「ハードウェアとサウンド」をクリック

3 「サウンド」をクリック

「サウンド」が表示されます。



チェック

「インテル(R) ディスプレイ用オーディオ」にチェックが付いていない場合は、チェックを付けて「既定値に設定」をクリックしてください。

4 「再生」タブをクリック

5 「インテル(R) ディスプレイ用オーディオ」をクリックし、「プロパティ」をクリック

6 「詳細」タブをクリック

7 「既定の形式」欄の設定が接続先の機器に対応していることを確認する



参照

対応しているサンプリングレートについて
接続している機器のマニュアル

A : 音声の出力設定を確認してください。

音声を、本機のスピーカやヘッドフォン/ヘッドフォンマイク ジャックから出力する設定になっている場合、HDMI接続で音声は出力されません。

HDMI接続で音声を出力するには、次の手順で出力先を設定してください。

1 「スタート」 ボタン→「コントロール パネル」をクリック

2 「ハードウェアとサウンド」をクリック

3 「サウンド」をクリック

「サウンド」が表示されます。

4 「再生」 タブをクリック

5 「インテル(R) ディスプレイ用オーディオ」をクリックし、「既定値に設定」をクリック

6 手順5で選択した項目にチェックが付いていることを確認し、「OK」をクリック

[101300-27]

- PDF形式のマニュアルがうまく印刷できない. 307

Q : PDF形式のマニュアルがうまく印刷できない

[101302-00]

A : 白抜きの文字やグラデーション、図形などがうまく印刷できない場合は次の対処方法を試してみてください。

- Acrobat Reader DCの「印刷」ダイアログボックスの「詳細設定」ボタンをクリックして、「画像として印刷」にチェックを付けるか、プリンタのプロパティの中から「きれい」、「高品位」などを選択する
- プリンタドライバを最新のものにする
- プリンタが複数ある場合は、印刷先を別のプリンタに切り替え、同様に試してみる

Q&A：セキュリティチップ機能

[102200-27]

➤ セキュリティチップを有効にしたい.	309
➤ セキュリティチップを初期化したい.	310
➤ 本機を修理に出した後.	312

Q : セキュリティチップを有効にしたい

[102203-27]

A : BIOSセットアップユーティリティでセキュリティチップを有効にしてください。

本機のセキュリティチップ機能を利用するには、BIOSセットアップユーティリティでセキュリティチップを有効にする必要があります。



チェック

本機の再セットアップを行った場合、または別売のOSを利用する場合は、セキュリティチップ機能を有効にする前にセキュリティチップの初期化を行ってください。

セキュリティチップの初期化手順については、「[セキュリティチップを初期化したい \(P. 310\)](#)」をご覧ください。

セキュリティチップ機能を有効にするには、『システム設定』からBIOSセットアップユーティリティの内容を確認し、セキュリティチップ機能を利用可能にしてください。



参照

- **BIOSセットアップユーティリティについて**
『システム設定』の「システム設定」 - 「BIOSセットアップユーティリティについて」
- **セキュリティチップ機能について**
『システム設定』の「システム設定」 - 「設定項目一覧」 - 「Security」メニュー

Q : セキュリティチップを初期化したい

[102201-27]

セキュリティチップ機能を初期化するには、『システム設定』からBIOSセットアップユーティリティの内容を確認しセキュリティチップの初期化をする（推奨）か、TPM管理ツールからセキュリティチップの初期化をしてください。

A : BIOSセットアップユーティリティでセキュリティチップを初期化してください。

『システム設定』からBIOSセットアップユーティリティの内容を確認し、セキュリティチップの初期化をしてください。



参照

- **BIOSセットアップユーティリティについて**
『システム設定』の「システム設定」 - 「BIOSセットアップユーティリティについて」
- **セキュリティチップ機能について**
『システム設定』の「システム設定」 - 「設定項目一覧」 - 「Security」メニュー

セキュリティチップを使用する場合は、再度、「[セキュリティチップを有効にしたい \(P. 309\)](#)」の手順で、セキュリティチップを有効にしてください。

A : TPM管理ツールでセキュリティチップを初期化してください。

次の手順で、TPM管理ツールからセキュリティチップの初期化をしてください。

1 「スタート」ボタン→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「ファイル名を指定して実行」をクリック

2 「名前」に次のように入力し、「OK」ボタンをクリック

TPM.msc

「コンピューターのトラステッド プラットフォーム モジュール (TPM) の管理 (ローカル コンピューター)」画面が表示されます。



チェック

「操作」の「TPM を初期化」を選択できる場合

- 「状態」が「TPM はオンで、所有権は取得されていません」の場合、セキュリティチップを初期化する必要はありません。
- 「状態」が「TPM はオンで、所有権は取得されていません」以外の場合、セキュリティチップが有効ではありません。
「セキュリティチップを有効にしたい (P. 309)」の手順で、セキュリティチップを有効にしてから、再度セキュリティチップの初期化を実行して下さい。

3 「操作」から、「TPM をクリア」をクリック

4 「TPM 所有者パスワードを持っていません」をクリック

5 「再起動」ボタンをクリックし再起動する

6 本機の再起動後、キーを押す確認画面が表示された場合は、指示に従って押す

設定値が保存され、本機が再起動します。

【ESC】を押した場合は「TPM をクリア」が中止されます。

7 ログオン後、「TPM 所有者パスワードを作成します」が表示される

これでセキュリティチップが初期化されました。

8 「キャンセル」ボタンをクリック



チェック

「キャンセル」を選択せずに「パスワードを自動的に作成します（推奨）」または「パスワードを手動で作成します」を選択した場合、再度「TPM管理ツールでセキュリティチップを初期化する。」を実施ください。

Q：本機を修理に出した後

[102205-27]

本機を修理に出し、「マザーボード交換」や「セキュリティチップ交換」、「ハードディスク（またはSSD）交換」、「再セットアップ」等が行われた場合には、セキュリティチップの初期化を行ってください。



チェック

セキュリティチップの初期化手順については、「[セキュリティチップを初期化したい \(P. 310\)](#)」をご覧ください。

[101500-27]

- 領域作成できる容量が、カタログなどに記載されている値より少ない. 314

Q：領域作成できる容量が、カタログなどに記載されている値より少ない

[101506-07]

A：計算方法の違いによるもので、故障ではありません。

カタログなどに記載されているハードディスクの容量は、1MB=1,000,000バイトで計算しています。これに対し、ハードディスクを領域作成するときには、1MB=1,024×1,024=1,048,576バイトで計算しているので、容量が少なく表示されることがありますが、故障ではありません。

GB（ギガバイト）についても、同様の記述となっています。

A：ハードディスクに、「再セットアップ用データ」などを格納する領域があるためです。

本機のハードディスクには、Windowsの起動に必要なファイルや「再セットアップ用データ」などを格納するための領域として次の領域が確保されています。

- Windows 7 Professional 64ビットの場合：約13GB
- Windows 7 Professional 32ビットの場合：約11GB

このため、使用可能な容量が、上記の領域の分だけ少なくなります。この領域を削除することはできません。

[101600-27]

- 領域作成できる容量が、カタログなどに記載されている値より少ない. 316

Q：領域作成できる容量が、カタログなどに記載されている値より少ない

[101604-27]

A：計算方法の違いによるもので、故障ではありません。

カタログなどに記載されているSSDの容量は、1MB=1,000,000バイトで計算しています。これに対し、SSDを領域作成するときには、1MB=1,024×1,024=1,048,576バイトで計算しているため、容量が少なく表示されることがありますが、故障ではありません。

GB（ギガバイト）についても、同様の記述となっています。

A：SSDに、「再セットアップ用データ」などを格納する領域があるためです。

本機のSSDには、Windowsの起動に必要なファイルや「再セットアップ用データ」などを格納するための領域として次の領域が確保されています。

- Windows 7 Professional 64ビットの場合：約13GB
- Windows 7 Professional 32ビットの場合：約11GB

このため、使用可能な容量が、その領域の分だけ少なくなります。この領域を削除することはできません。

Q&A：光学ドライブ

[101700-27]

- はじめに確認してください. 318
- DVD、CDにデータを書き込めない（保存できない）. 319
- ドライブ文字がおかしい. 320

はじめに確認してください

[101718-27]

光学ドライブの接続を確認してください。

USB接続の光学ドライブを使用するモデルをお使いの場合、光学ドライブが正しく取り付けられているかどうか確認してください。

DeviceLock Liteで光学ドライブを制限していないか確認してください。

DeviceLock Liteは周辺機器の使用を制限するアプリケーションです。
DeviceLock Liteをインストールしている場合は、設定を確認してください。



参照

DeviceLock Liteについて

「便利な機能とアプリケーション」の「[DeviceLock Lite \(P. 261\)](#)」

ディスクが正しくセットされているか確認してください。

セットされているDVD、CDの表裏を確認して、光学ドライブのディスクトレイ中心の軸に、きちんとセットしてください。



参照

光学ドライブ使用上の注意

「本機の機能」の「[光学ドライブ \(P. 113\)](#)」

本機のドライブで利用できるディスクを確認してください。

お使いのモデルにより光学ドライブで使えるディスクは異なります。利用できるディスクについては、「サービス&サポート」の「商品情報検索」よりお使いの機種を検索し、「仕様一覧」をご覧ください。

<http://121ware.com/support/>

Q : DVD、CDにデータを書き込めない（保存できない）

[101711-07]

A : 「光学ドライブ」の「はじめに確認してください (P. 318)」の内容をご確認ください。

Q：ドライブ文字がおかしい

[101715-07]

A：周辺機器を接続したままスリープ状態や休止状態にすると、光学ドライブのドライブ文字が変更される場合があります。

このような場合は、Windowsを再起動してください。

[101800-27]

➤ はじめに確認してください. 322

はじめに確認してください

[101803-27]

お使いの周辺機器が、本機やWindows 7に対応しているか確認してください。

周辺機器によっては、本機やWindows 7で動作しないものや、別途Windows 7に対応したドライバが必要なものがあります。

また、32ビット版と64ビット版では、使用するドライバが異なります。周辺機器のマニュアルで確認してください。

周辺機器が正しく接続されているか確認してください。

コネクタやネジが緩んだり外れたりしていないか、接続が正しく行われているか確認してください。



参照

周辺機器の接続について

周辺機器に添付のマニュアル

DeviceLock Liteで無効に設定していないか確認してください。

DeviceLock Liteは周辺機器の使用を制限するアプリケーションです。

DeviceLock Liteをインストールしている場合は、DeviceLock管理コンソールを起動し、該当する周辺機器を無効に設定していないか確認してください。



参照

DeviceLock Liteについて

「便利な機能とアプリケーション」の「[DeviceLock Lite \(P. 261\)](#)」

Q&A : Bluetooth機能

[102600-27]

- はじめに確認してください. 324

はじめに確認してください

[102601-27]

Bluetooth機能がオンになっていることを確認してください。



参照

Bluetooth機能のオン／オフについて

「本機の機能」の「Bluetooth機能」 - 「[Bluetooth機能のオン／オフ \(P. 206\)](#)」

Bluetooth機能を「デバイス マネージャー」でオンにしているにも関わらず、Bluetooth機能が使用できない場合（「デバイス マネージャー」でBluetoothに「！」が付くなど）は、ワイヤレススイッチでBluetooth機能を含むワイヤレス機能をオフにして、再度オンにしてみてください。

Q&A : アプリケーション

[101900-27]

➤ はじめに確認してください.	326
➤ アプリケーションをインストールできない.	327
➤ アプリケーションを強制的に終了させたい.	328
➤ アプリケーションが本機で使えるか知りたい.	329
➤ 使用しているWindowsへの対応が明記されていないWindows用アプリケーションを使いたい.	330
➤ Internet Explorerや関連製品に関するサポート技術情報について知りたい.	331

はじめに確認してください

[101903-27]

お使いのアプリケーションが、本機やWindows 7に対応しているか確認してください。

アプリケーションによっては、本機やWindows 7で動作しないものや、別売の周辺機器が必要なものがあります。アプリケーションのマニュアルで「動作環境」や「必要なシステム」を確認してください。

お使いのアプリケーションが、使用しているWindows 7に対応しているか確認してください。

Windows 7 32ビット版では、64ビット版のアプリケーションは使用できません。

Windows 7 64ビット版では、32ビット版のアプリケーションも使用可能ですが、アプリケーションによっては正常に動作しない場合があります。

アプリケーションのマニュアルで確認してください。

本機のドライブで利用できるディスクを確認してください。

お使いのモデルにより光学ドライブで使えるディスクは異なります。利用できるディスクについては、「サービス&サポート」の「商品情報検索」よりお使いの機種を検索し、「仕様一覧」をご覧ください。

<http://121ware.com/support/>

Q : アプリケーションをインストールできない

[101908-07]

A : 権限を制限されたユーザーでログオンしていないか確認してください。

本機を複数の人で使用している場合は、管理者によってユーザーの設定できる項目に制限がかけられている場合があります。

このような場合は、管理者に依頼して制限を解除してもらるか、または管理者（Administrator）権限を持つユーザーでログオンしてアプリケーションのインストールを行う必要があります。

A : ユーザー名に環境依存文字を使用していないか確認してください。

ユーザー名に環境依存文字を使用していると、アプリケーションによっては正しく動作しない場合があります。

A : アプリケーションのインストール先がハードディスク（またはSSD）以外のドライブになっていないか確認してください。

ハードディスク（またはSSD）にインストールして使用するアプリケーションのインストール先がハードディスク（またはSSD）以外のドライブになっていた場合は、インストール先をハードディスク（またはSSD）に変えて、インストールしなおしてください。

A : アプリケーションを新しくインストールするときに、ハードディスク（またはSSD）に一定の空き領域が必要な場合があります。

アプリケーションを新しくインストールするときに、ハードディスク（またはSSD）に一定の空き領域が必要な場合があります。アプリケーションに添付のマニュアルをご覧ください、ハードディスク（またはSSD）に必要な空き領域を確認してください。

ハードディスク（またはSSD）の空き領域が足りない場合は、空き領域のある他のドライブにインストールしてください。



メモ

アプリケーションによっては、必要最低限の機能だけをインストールしたり、使用する機能だけを選択してインストールすることで、必要な空き容量を減らせる場合があります。

Q : アプリケーションを強制的に終了させたい

[101909-27]

A : アプリケーションがフリーズするなどの異常を起こしていて、電源が切れないなどの問題が起きている場合、次の方法で異常を起こしているアプリケーションを強制的に終了してください。



チェック

この方法でアプリケーションを終了させると、保存していないデータは消えてしまうことがあります。

1

【Ctrl】 + 【Alt】 + 【Delete】 を1回押す

2

「タスク マネージャーの起動」をクリック

3

「アプリケーション」タブをクリック

4

「状態」のところに「応答なし」と表示されているタスク（アプリケーション）をクリックし、
「タスクの終了」ボタンをクリック

この場合、アプリケーションで編集していたデータは保存できません。

この方法で異常を起こしていたアプリケーションが終了できた場合は、「本機の機能」の「電源」 - 「電源の入れ方と切り方」の手順で電源を切ってください。



参照

正しい電源の入れ方と切り方

「本機の機能」の「電源」 - 「[電源の入れ方と切り方 \(P. 25\)](#)」

Q : アプリケーションが本機で利用できるか知りたい

[101910-00]

A : アプリケーションのカタログなどで必要な動作環境を確認するか、製造元に確認してください。

アプリケーションが必要とする動作環境は、アプリケーションによって異なります。アプリケーションのカタログなどで必要な動作環境について確認するか、アプリケーションの製造元に確認してください。

Q : 使用しているWindowsへの対応が明記されていない Windows用アプリケーションを使用したい

[101911-07]

A : アプリケーションの製造元に確認してください。

Windows 7への対応が明記されていない、Windows用アプリケーションが使用できるかどうかは、アプリケーションによって異なります。

アプリケーションの製造元に確認してください。アプリケーションの使用についての情報や、使用に必要なアップデートプログラムなどが入手できる場合があります。

Q : Internet Explorerや関連製品に関するサポート技術情報について知りたい

[101913-07]

A : Internet Explorerやその関連製品に関するサポート技術情報は、次の手順で調べることができます。

1 インターネットに接続する

2 Internet Explorerを起動し、【Alt】 を押し、「ヘルプ」 → 「Internet Explorer ヘルプ」 をクリック

Microsoft社のサポートページが表示されます。この後は、そのページの説明に従って操作してください。

Q&A : 再セットアップ

[102000-27]

- 「再セットアップをすることはできません。」と表示される. 333
- 「再セットアップ用メディア」を要求する画面が繰り返し表示され、先に進めない. 334

Q : 「再セットアップをすることはできません。」 と表示される

[102001-07]

A : 本機の機種情報が書き換わっている可能性があります。

ご購入元、またはNECにお問い合わせください。



参照

NECのお問い合わせ先について

『保証規定 & 修理に関するご案内』

Q : 「再セットアップ用メディア」を要求する画面が繰り返し表示され、先に進めない

[102002-27]

A : 「再セットアップ用メディア」が必要です。「再セットアップ用メディア」を持っている／持っていないにあわせて、次のように対処してください。

● 「再セットアップ用メディア」を持っている場合

お手持ちのDVDがお使いの装置の「再セットアップ用メディア」であること、すべての「再セットアップ用メディア」が揃っていることをご確認の上、再セットアップの操作を継続してください。



チェック

「再セットアップ用メディア」を作成した場合、ディスクの枚数はOSとDVDの種類によって以下のように異なります。

- Windows 7 Professionalで、DVD-Rを使用して作成した場合 : 「再セットアップ用ディスク1」と「再セットアップ用ディスク2」の2枚
- Windows 7 Professionalで、DVD-R DLを使用して作成した場合 : 「再セットアップ用ディスク1」の1枚のみ

● 「再セットアップ用メディア」を持っていない場合

再セットアップの操作を継続することはできません。本機の電源スイッチを4秒以上押し続けて、強制的に電源を切ってください。

なお、「再セットアップ用メディア」は、別途入手することもできます。



参照

- 再セットアップの方法について
『再セットアップガイド』
- 「再セットアップ用メディア」の入手について
『メンテナンスとアフターケアについて』

[102100-27]

- クリップなどの異物が本体内部に入ってしまった..... 336
- Windows 7のService Pack 1(KB976932)をアンインストール後、デバイス マネージャーのIntel(R) Management Engine Interfaceに「！」が表示される..... 337

Q：クリップなどの異物が本体内部に入ってしまった

[102102-20]

A：異物が入り込んでしまった場合は、すぐに電源を切ってACアダプタとバッテリーパックを取り外し、バッテリーを使用できない状態にしてからご購入元にお問い合わせください。



チェック

そのままお使いになると、発煙、発火や故障の原因になります。



参照

バッテリーを使用できない状態にする

「本機の機能」の「バッテリー」[「バッテリーパックの取り付け／取り外し \(P. 51\)」](#)

Q : Windows 7のService Pack 1(KB976932)をアンインストール後、デバイス マネージャーのIntel(R) Management Engine Interfaceに「！」が表示される

[102112-07]

A: マイクロソフトの次のサイトから更新プログラム(KB2685811)を入手して適用してください。

●Windows Vista、Windows Server 2008、Windows 7およびWindows Server 2008 R2用 カーネル モード ドライバー フレームワーク バージョン 1.11 更新プログラム

<https://support.microsoft.com/kb/2685811>

更新プログラム

- Windows7 64 Bit用 : kmdf-1.11-Win-6.1-x64.msu
- Windows7 32 Bit用 : kmdf-1.11-Win-6.1-x86.msu

[130000-00]

▶ 仕様一覧.....	339
-------------	-----

仕様一覧

[130100-00]

本機の仕様に関する詳細情報は、「仕様一覧」に記載しております。



メモ

「仕様一覧」をご覧になるには、インターネットへの接続環境が必要です。

「サービス&サポート」の「商品情報検索」よりお使いの機種を検索し、「仕様一覧」をご覧ください。

<http://121ware.com/support/>

活用ガイド

UltraLite タイプVB

初版 2017年 6月

©NEC Personal Computers, Ltd. 2017

NECパーソナルコンピュータ株式会社の許可なく複製、改変などを行うことはできません。
